亜細亜大学
ASIA UNIVERSITY

2020
亜細亜大学
テニス部

TEAM GUIDE
チームガイド
&
国際大会状況報告
REPORT

テニス部のホームページを開設しました!

新1号館

学生生活に関する各事務室や教員の研究室、会議室などがある校舎です。

2号館

ガラス張りの外観がひときわ目立つ校舎。中・大規模教室と、屋上庭園があります。

3号館

演習や語学の授業で使われる小規模教室と、講義用の大教室、講堂があります。

5号館

大小24の教室。授業の合間には多くの学生が行き交い、ベンチで談笑する光景も。

7号館

南門に接した教室メーンの校舎。正面にはコミュニティバスの停留所があります。

8号館（国際交流会館）

国際交流センター、附置機関、大学院生用の自習室、留学生別科の教室などがあります。

太田耕造記念館

約68万冊の蔵書と最新設備を備えた図書館、学園史展示室などで構成されています。

ASIA PLAZA

食堂とグループ学習スペースを擁する、多目的施設です。

体育館

競技用のフロアのほか、柔道場、剣道場、リング、トレーニングセンターなどがあります。

Hinode Campus

日の出キャンパス

グラウンドやテニスコートを
擁する総合運動場をはじめ、
合宿などで利用する宿泊施設があります。
最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅。

日本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのはずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要になるのが指導力です。選手が転戦するだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要となるのが環境の強化です。関東の大学では春関（関東学生）、夏関、新進戦、リーグ戦と４つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の３つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるでしょうか。大学４年間であらゆる世代やレベルや地域を越えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分がいままでつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまとい、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いつどうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるでしょうか。私は学生こそ「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれてきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすがっている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつかラケットを置いたときに、就職したときに残るのは、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万5千ﾄﾞﾙ）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワーやスピードや意識の違いに弾き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる＝守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違いありません。

私は亜細亜大学に奉職して33年になりますが、冒頭の理想には残念ながらまだまだ到達しません。それでも、これまで理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できないかもしれません。しかし、向上に悩める学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を闘いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには決して完成しません。自らの可能性を信じて未来に向かって挑戦する本気の選手を歓迎します。

堀内昌一
（亜細亜大学教授 / テニス部監督）

日の出キャンパス 紹介

ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。

テニスコート

ハードコート8面と砂入り人工芝コート2面の合計10面のテニスコートがあります。面数が多いので、少人数で効率よく、充実した練習ができます(全面ナイター完備)。

トレーニングセンター

機材が整っており、学生はいつでも自由に利用することができます。夜遅くまで筋トレをしている学生もいます。トレーニングルームに隣接して鏡張りの大きな部屋があり、雨の日でもラダーなどのフィールドトレーニングを室内で行なうことができます。

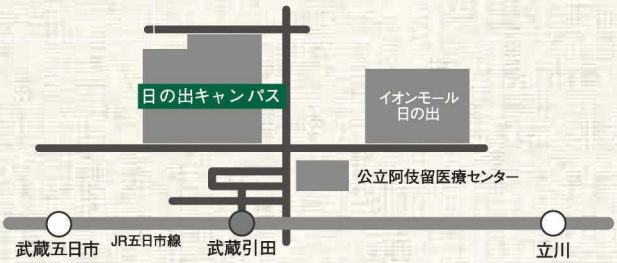
クラブハウス

2010年に完成しました。男子部室、女子部室、監督・コーチ室のほか、ユーティリティーがあります。ユーティリティーでは、全体ミーティングを行なうほか、テレビやスライドを使って映像の確認や勉強会を行ないます。

日の出
キャンパス
案内図

セミナーハウス(宿泊施設)

テニス部は、12月の年末合宿、2、3月の強化合宿、国際大会開催期間などに利用します。また、他校の学生が練習に訪れているときに宿泊することも多くあります。施設内には大広間もあり、ミーティングや講義が行なわれます。
※学生2000円、ビジター3000円(朝夕食付)



アクセス

武蔵引田駅まで
・「新宿駅」から約90分、「東京駅」から約100分(JR中央線、青梅線、五日市線利用)
・「大宮駅」から約120分(JR埼京線、川越線、八高線、五日市線利用)
武蔵引田駅から日の出キャンパス「亜細亜大学セミナーハウス」まで
・武蔵引田駅の改札口は北口1ヵ所、下車後、踏切まで戻り、北(左)に向かって徒歩7分

所在地
〒190-0182東京都西多摩郡日の出町平井1449-1　TEL042-597-0714

清水奎吾

（亜細亜大学硬式庭球部主将／4年）

しみずけいご◎1999年2月2日生まれ。滋賀県出身。光泉高校卒。
第71回国民体育大会／準優勝。15年MUFGジュニアテニストーナメント単準優勝。
2019年度関東学生テニス選手権大会単ベスト16。

私たち、亜細亜大学硬式庭球部は毎年10月に行われる全日本大学対抗テニス王座決定試合（王座）で優勝することを目標に日々の練習を行い、皆が切磋琢磨して励んでいます。昨年私たちは関東大学テニスリーグ1部で4位という成績を収めました。1部リーグで数年ぶりにチームとして勝利することができ、成長を感じることが出来たリーグ戦となりましたが、目標にしている王座優勝を果たすことは出来ませんでした。今年こそ目標を果たせると自負しています。その理由としては、着実に力を付けている学生が多く在籍しているからです。また、日頃から練習をしている環境にもとても恵まれていることも理由の一つです。ハードコート8面、オムニコート2面の合計10面のテニスコートがあり、堀内昌一監督をはじめ、森稔詞コーチ、長久保大樹コーチ、高橋隼コーチが指導にあたってくださり、とても充実した練習を実現することが出来ています。それに加えて今泉智仁トレーナーも試合期間には帯同してくださり、身体についてご指導頂き、様々な面から競技力向上に努めています。試合や1週間の練習を終えると、反省し改善点を洗い出すことを習慣にし、私を含めた4年生を筆頭に練習メニューを考えています。意見が交錯して練習メニューが決まりづらくなることや求めている反応ではないこともあります。しかし、そのような経験は人間としても成長することにも繋がり、とてもいい環境が整っていると思います。

また、毎年3月にはプロテニスプレーヤーの登竜門であるフューチャズの開催を行っています。学生自らが運営し、社会性などを培えます。また、日本のトッププレーヤーの試合や練習、トレーニングを見て学生の競技力向上にも努めています。

亜細亜大学は、高校で勝てなかった相手に大学で勝って逆転出来る環境が整っており、逆転を学生が実現しようと励んでいる大学です。また、競技力向上に加えて人間力や社会性も養えます。このような経験ができる大学は数少ないので、是非一緒に高みを目指しましょう。

私たち、アジア女子ローンテニス部は毎年10月に行われる全日本大学対抗王座決定試合（王座）で優勝することを目標に日々活動しています。昨年は関東大学テニスリーグ1部で戦い、5位という成績を収めました。私たちは5位だった為、2部リーグに所属している大学と入れ替え戦となり、専修大学と対戦しました。私もレギュラーとして戦い単複通算5対2で勝利し1部残留を決めました。しかし、私たちの目標としている王座優勝を成し遂げるには関東大学テニスリーグ1部で上位2校に入る必要があります。同リーグには早稲田大学や慶應義塾大学などの強豪校も所属していますが、私は必ず王座優勝を成し遂げられると信じています。なぜなら、亜細亜大学にはハードコート8面、オムニコート2面という好環境と堀内昌一監督をはじめ森稔詞コーチ、長久保大樹コーチが指導にあたって下さり、コーチングの面でも充実しているからです。しかし、亜細亜大学ではスタッフに答えを与えられる存在になるのではなく、自ら考え行動していける人間になることを目指しています。その為に4年生が中心となり練習メニューやトレーニングメニューを考えており、どのようにすれば部活をより良くしていけるのか、チーム全員のレベルアップが図れるのか試行錯誤しています。常に考え行動しなければならないのでテニスの以外の面でも役に立っていると思います。

また毎年3月には国際大会を男女共に開催しています。この大会では、「機会」を大切にしています。学生自ら資金を集めたり、様々なイベントを行って盛り上げたりして運営出来ている機会もそうですが、実際に学生が大会に出場し自らを強くする機会や国内外のレベルの高い選手を見る事が出来る機会など様々です。なかなか経験できる事ではないこの機会を自分のレベルアップに繋げていくのがこの国際大会です。

亜細亜大学では、テニスを通して人間力や社会性を向上させていくことが出来る環境が整っています。また、一緒に切磋琢磨していける仲間も沢山います。テニスだけでなく人間としても成長できるそんな亜細亜大学で一緒に高みを目指しましょう。

朝倉菜月

（アジア女子ローンテニス部主将／4年）

あさくらなつき◎1998年5月24日生まれ。松商学園高校卒。
18年関東学生テニストーナメント大会／複準優勝。
19年関東学生テニス選手権大会／複準優勝。

入学案内
スポーツ推薦のご案内（2021年度）

亜細亜大学のスポーツ推薦入試は「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」「都市創造学部都市創造学科」の5学部6学科があります。

テニス部は2021年、今年は、上記の5学部6学科より選択してもらえることとなっております。テニス部には「経営学部」「経済学部」「法学部」「国際関係学部」「都市創造学部都市創造学科」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ推薦入試だけでなく一般入試やAO入試、指定校推薦や公募推薦などで入部した学生もいます。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亜細亜大学が求める学生像
募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

スポーツ推薦の詳細は亜細亜大学HPにてご確認ください

亜細亜大学
〒180-8629 東京都武蔵野市境5-24-10
入試課直通　TEL0422-36-3273
https://www.asia-u.ac.jp/admissions/sports/
e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp

2004年度卒業の北崎悦子です。私の高校時代の最高戦績は、全国大会ベスト8 でした。高校卒業時には、同期のトップレベルの選手たちがプロの世界にチャレンジしていく姿を見て、私は「大学テニスで強くなってプロになりたい」という目標を持って、亜細亜大学に進学しました。

入学当初から、私はすでに大学テニスのトップレベルで活躍されていた先輩方とともに、学生大会のみならず、JOP大会や国際大会を転戦することによって、実戦経験を積み上げる機会に恵まれました。そこでは、常に高いレベルの技術や戦術、精神力を求められたため、私は堀内監督やコーチから熱心にご指導いただき、時に挫けそうになりながらも、その技術や戦術を必死に習得しようとチャレンジし続けました。

このような亜細亜大学での４年間の取り組みを通して、私はプロとしてテニスに向き合う姿勢や考え方を学ぶことができたと思っています。それは、大学テニスで強くなるために、①自分のプレーを分析して課題を見つけ出し、②年間の出場試合を考慮しながら課題に取り組む計画を立てて実行し、③その課題がどの程度改善できたかについて自己評価するという思考を繰り返すことでした。この考え方は、テニスに取り組むためだけに必要なことではなく、卒業後の人生においても仕事や日常生活で起こるさまざまな問題を解決するときに役立つと思います。

現役引退後、私は亜細亜大学での学びと８年間のプロ活動の経験を大学生に伝えていきたいと思い、指導者になる道を選択しました。そして現在、私はトップ選手の指導に関する事例について、指導者がどのような点に着目して選手を指導したのかという指導の観点を明らかにする研究を行い、そこから得た知見を踏まえて実践の現場で指導しています。また今年度４月から、大学の専任教員としてのスタートを切ったばかりなので、学生にテニスの楽しさや奥深さを感じてもらうための練習方法や計画についても日々試行錯誤しています。

皆さんも４年間の学生生活を通して、常に明確な目標に向かって、成功や失敗を繰り返しながらも怯むことなく、前向きにチャレンジし続けてください。そして、さまざまな出会いを大切にして、その自分のチャレンジを楽しむ気持ちも忘れないでください。その経験はきっと、皆さんにとってかけがえのない貴重な財産になると思います！

亜細亜大学テニス部での学びと経験を振り返って。

北崎悦子

（学習院大学 スポーツ・健康科学センター 准教授）

きたざき・えつこ◎1982年10月14日生まれ。東京都出身。東海大学付属浦安高校卒。98年全国高等学校総合体育大会 単ベスト16。99年国民体育大会（千葉県代表）少年女子 第8位。2000年全日本ジュニア選手権18歳以下 単ベスト8。2001年亜細亜大学に入学。2001年全日本学生テニス選手権 単ベスト4。2001年全日本学生室内テニス選手権 単 準優勝。2002年全日本テニス選手権 混合複ベスト4。2003年全日本学生室内テニス選手権 複優勝。2005年に卒業後にプロ転向し2007年広島国際テニストーナメントで国際大会のシングルス初優勝。WTA最高ランキングは単514位、複419位。JOP最高ランキングは単28位、複29位。2013年に現役を引退し、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程（体育学）、3年制博士課程（コーチング学）を経て、2020年4月から現職。日本スポーツ協会公認コーチ、ユニバーシアード女子コーチ。

今年の亜細亜フュチャーズならびにその他の国内外の大会は７月上旬まで新型コロナウィルスの影響により全てキャンセルとなりました。プロテニス選手としてスタートするこの時期に足止めされてしまい不安に感じたこともありましたが、この時間を有効に使うことができれば、必ずや良いスタートが切れるのではと思い、今できることを地道に行なっています。これらは今年入学する学生にも言えることです。新入生の立場はまさに今私が置かれている状況と同じで、先が全く見えなく不安な状態が続いてしまう人も多いと思います。しかし、その中で発想を転換して何か１つでも“今の”自分に必要なこと、自分がやりたい事を見つける努力ができれば、自分自身の選択肢も１つ増え、またそれらが自信やモチベーション維持にも繋がることでしょう。

私は、大学１年時から亜細亜フュチャーズも含め多くの国際大会に出場し、様々な経験を得ることができました。その中には嬉しい勝ちもあり、悔しい負けも多くありましたが、勝ち負けの結果以上に、実際にプロ選手や海外の選手と対戦するという経験がとても大きな収穫だったと振り返ってみて強く感じました。“勝ち”に貪欲になるのは当然大事なことですが、大卒からプロを目指す選手に１番大切なのは経験値だと感じました。大卒プロ選手は、高卒（18歳）からプロになる選手と比べると４年間のスタートの遅れがありデメリットに思えます。しかし、逆に大学進学にも多くのメリットがあり、大学でしか味わえない経験や今後の人生において大切なことを学ぶ機会が多くあります。それらは、今後海外を転戦していく際にも必ず生きてくると信じています。しかし、実際に大学を卒業してからプロで活躍した選手はごく僅かであるため、私自身が大卒プロのプレーンモデルになれるよう、プライドをもってプロテニス選手として活躍していきたいです。『日本のテニス界をリードする』これは私の今後の目標の１つであり、大学テニス界を背負っている私自身の責務でもあると自負しています。私のような大卒プロ選手が世界で活躍し、世界で戦えるということを証明することができれば、大学テニスの価値も上がり、学生テニス選手の「志」も変わってくるはずです。

今の日本のテニス界をさらに盛り上げていくためには、大学テニスが持つポテンシャルを今以上に発揮し、学生各々が「高い志」をもって日々前向きに努力してくことが必要だと思います。私自身も近い将来グランドスラムの舞台で戦うための準備を頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします！！

大学テニス界へのエール。

島袋 将

（有沢製作所）

しまぶくろ・しょう◎1997年7月30日生まれ。早稲田大学卒業。在学中は早稲田大学の全日本大学対抗王座決定試合15連覇に貢献。17年全日本学生テニス選手権大会単優勝。18年全日本学生室内テニス選手権大会単優勝。19年全日本テニス選手権単ベスト4。2019亜細亜大学国際オープンテニス単ベスト4。現在はプロとして活動中。

CONTENTS

大学案内

02 武蔵野キャンパス　04 日の出キャンパス　06 令和2年度入学案内

PART 1 部活動紹介

03 挨拶～堀内昌一（亜細亜大学教授 / テニス部監督）

12 **部活の素晴らしさ、信念**

14 テニス部主要Topics［年表］

18 過去（1988～）の主な戦績

22 **亜細亜の部活** 入学前から卒業までの流れ

24 1年間の流れ

26 我々は本物のテニスを追求する。

27 挨拶～森稔詞（亜細亜大学テニス部コーチ）

PART 2 チーム紹介

05 挨拶～清水奎吾・朝倉菜月（4年/男子主将・4年/女子主将）

28 大島正克学長挨拶　29 宇田川裕部長、金子国彦部長挨拶

30 指導スタッフ紹介　32 男女部員名簿　37 練習風景

38 寮生の1日／石井智也（3年）・自宅生の1日／矢崎梓紗（2年）　39 寮とは

40 「部員からひと言」高校生のみんなへ

42 **文武両道** ～学生は部活と授業の両立を目指す。

学部紹介
44 法学部　古藤嵩大（3年）の場合
45 経済学部　岡悠多（3年）の場合
46 国際関係学部　吉満優希（4年）の場合
47 経営学部　ホスピタリティ・マネジメント学科
48 経営学部　経営学科　大野一真（4年）の場合
49 都市創造学部　浅海裕一（2年）の場合

50 **大学に入って、こんなに変わりました!**
堀内竜輔（4年）／佐藤葵（4年）／伊藤さつき（2年）／権藤卓巳（3年）

PART 3 卒業後の進路

07 挨拶～北崎悦子（亜細亜大学テニス部OB）

52 大学から世界へ　亜細亜大学、メルボルンに行く。
「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」 文◎吉松忠弘 記事提供◎テニスマガジン

54 韓国ITF遠征レポート　55 オーストラリアITF遠征レポート

56 **卒業生、それぞれの道** 高田充／駒田政史／西岡靖雄／岡村麻千香／宮地弘太郎 森嶋修／遠藤真理子／中村聡利／新谷啓／橋本大貴 髙橋玲奈／田中文彩／小野塚弓乃／三上英知／平沼かおる 柴廣一／恒松拓未

65 主な就職先～岡庸輔

66 就職ガイダンス

PART 4 国際大会報告

09 大会出場予定選手～島袋将（有沢製作所）

68 私たちはこうやって大会を作りました
第1回亜細亜大学国際オープン2007『国際大会開催までの全記録』

72 **2020国際大会状況報告**

73 WC選考大会結果報告　74 国際大会延期時の状況

75 **日の出に世界がやってきた。** 文◎武田 薫　記事提供◎テニスマガジン

79 亜細亜大学主催　チャリティクリニックのお知らせ　81 参加者の声

83 亜細亜大学国際オープン2021大会告知

2020 亜細亜大学 テニス部

チームガイド TEAM GUIDE
&
国際大会開催報告 REPORT

©ここに掲載する記事、写真、および図版の無断転載を厳禁します。

STAFF

●Editorial supervisor
堀内昌一 Shoichi Horiuchi
森稔詞　Toshitsugu Mori

●Editor in chief
塩谷大河（4年）　Taiga Shioya
島亮太郎（4年）　Ryoutarou Shima

●Editor
岡悠多（3年）　Yuta Oka
安井愛乃（2年）　Aino Yasui

●Design / Printing
株式会社 文伸　Bunshin Corporation

Editor's MEMO

●早いもので四年生になってしまいましたがこれまで作ってきたパンフレットの中でマスターピースです。是非ご覧ください。
（塩谷大河/写真左上）

●今回、初めてアジパン作成に参加させて頂きました。メンバー全員で作り上げたアジパンを是非ご覧になって下さい。
（島亮太郎/写真右上）

●今年もアジパン作成に携わらせて頂きました。去年よりもさらに内容が濃くなっていますので是非ご覧になってください。
（岡悠多/写真左下）

●今回2度目のアジパン作成に携わらせて頂きました。大変な作業でしたが時間を掛けて良いアジパンを作り上げる事が出来たと思います。是非様々な方に見て頂きたいです。
（安井愛乃/写真右下）

prince
prince
prince
prince

部活って、すばらしい！

高校生諸君、私たち亜細亜大学でいっしょに部活をやろう

大学に勤めて33年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招待されるような歳になりました。ひと回りもふた回りも大きくなった教え子の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まってきますから、その成長ぶりにも驚かされてしまいます。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ、成長した姿を見るにつけ、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間のありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナップ写真を見て、当時を想い出し、私はうなずくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部活”の証。それぞれが真剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ迎えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできなかったでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”のすばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものです。

私はいつも学生たちに「できるまでやれ」と指導しています。課題を与えると、すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるまでやろうとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならないのです。私が答えをあげることはありません。答えを見つけるのは自分。見つけるまでにはおそらく相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そうしているうち、失敗してしまうこともしばしばありますが、それでもいいと思っています。失敗が教えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

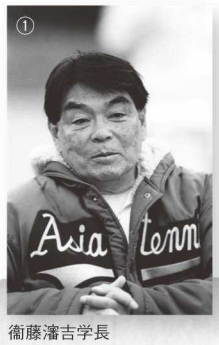
コートにはコーチと部員がいますが、最終的には、部員自身が課題を解決する力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成するために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのことに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいてほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分ち合える関係になります。ひとりでは到底できないことにも、みんなの力を合わせれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！　高校生諸君、私たち亜細亜大学でいっしょに部活をやろう！

文◎堀内昌一

亜細亜大学テニス部

過去32年間の主要Topics



衛藤瀋吉学長

93年、UCLAへ。堀内監督の隣りの女性はピート・サンプラス姉

1987年（昭和62年）

・衛藤瀋吉学長就任（1987-95年）。一芸入試を導入。（写真①）
・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

1988年（昭和63年）

・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格　・女子5部リーグ3回戦敗退

1989年（平成元年）

・男子6部リーグ優勝/5部昇格　・女子5部リーグ優勝/4部昇格
・亜大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
・アメリカプログラム（AUAP／正規単位取得型の留学プログラム）開始。

1990年（平成2年）

・男子5部リーグ優勝/4部昇格　・女子4部リーグ優勝/3部昇格
・男子初となる全国タイトル。インカレ単優勝・森稔詞、複優勝・岡田岳二/坂口雄二。
・国際関係学部国際関係学科開設。

1991年（平成3年）

・男子4部リーグ優勝/3部昇格　・女子3部リーグ優勝/2部昇格
・日の出トレーニングセンター完成。
・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亜大生初となるATPポイントを獲得（岡田3ポイント、森1ポイント）。
・第16回ユニバーシアード（イギリス）日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

1992年（平成4年）

・男子3部リーグ優勝/2部昇格　・女子2部リーグ優勝/1部昇格
・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征（フィリピン）。ATP3ポイント獲得。
・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

1993年（平成5年）

・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格
・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝（写真②）
・全米遠征（93年～97年）で、強豪大学（USC／UCLA／スタンフォード大など）と対抗戦。（写真③）
・第17回ユニバーシアード（アメリカ）で赤堀が平木理化（青学）とのペアで銀メダル獲得。
・日本経済短期大学と亜細亜大学が統合、亜細亜大学短期大学部開設。

1994年（平成6年）

・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝　（写真④）
・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位
・関東1部リーグで初のアベック優勝。
・全日本選手権複で、佐藤博康／駒田政史が学生として33年ぶりに優勝。（写真⑤）

1995年（平成7年）

・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
・全日本選手権男子単で宮地が決勝進出。
・第18回ユニバーシアード（福岡）男子単で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
・ジャパンオープン男子単で宮地が3回戦進出（ベスト16）。

1996年（平成8年）

・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座準優勝
・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。

1997年（平成9年）

・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。

93年、女子が大学王座初制覇

94年、男子が初の大学王座日本一

・第19回ユニバーシアード（イタリア）女子複で岡本聖子が銅メダル獲得。

1998年（平成10年）

・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2連覇達成（3度目の優勝）
・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
・コーチ帯同で3週間、岡本聖子がアメリカのITFサーキットに参戦。（写真⑥）

1999年（平成11年）

・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
・ITFサーキット（アメリカ/メキシコ）参戦。
・第20回ユニバーシアード（スペイン）の日本代表監督に堀内昌一が就任。

2000年（平成12年）

・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。

2001年（平成13年）

・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
・女子1部リーグ4位（関東リーグ9連覇ならず）

2002年（平成14年）

・男子1部リーグ3位
・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
・テニス部専任コーチにOBの森稔詞就任。

2003年（平成15年）

・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
・女子1部リーグ10度目の優勝（写真⑦）/大学王座4位
・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。
・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に遠征（03年～06年）

2004年（平成16年）

・男子1部リーグ5位/1部残留　・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
・関東リーグで5位となった男子は、初の2部との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。
・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

2005年（平成17年）

・男子1部リーグ6位/1部残留
・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
・関東リーグで6位の男子は2度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉明人、女子は遠藤真理子と高橋令が参加。ボブ・ブレットコーチの指導を仰ぐ。

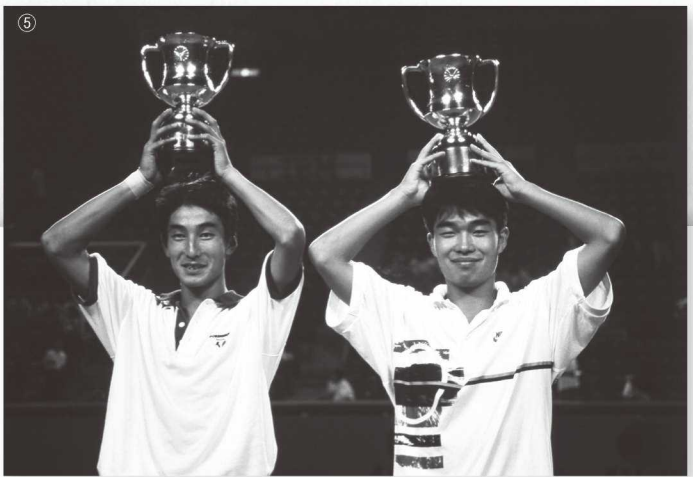
2006年（平成18年）

・男子1部リーグ5位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
・関東リーグで5位の男子は、3度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
・コーチ帯同で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

2007年（平成19年）

・男子1部リーグ4位　・女子1部リーグ3位
・男子フューチャーズ『第1回亜細亜大学国際オープン』（1万ドル）を開催。篠川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
・国際大会開催にあたり、『チャリティーテニスクリック』を始める。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
・アメリカプログラム（AUAP）の参加学生数が1万人突破。
・ユニバーシアード（バンコク）の日本代表監督に森稔詞が就任。
・堀内昌一助教授が教授に昇格。
・テニス部強化に尽力を注いだ元学長、衞藤瀋吉先生逝去。享年84才。

94年、全日本男子ダブルス制覇の佐藤博康／駒田政史



98年、インカレを制した岡本聖子

03年、10度目の関東リーグ優勝

2008年（平成20年）

・男子1部リーグ4位　・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
・第2回男子フューチャーズ開催。
・スポーツケア・アローズと年間50日間の専属トレーナー契約を交わす。

2009年（平成21年）

・男子1部リーグ4位　・女子1部リーグ6位/2部降格
・関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース宮本紗織が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝、その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
・第3回男子フューチャーズ開催。

2010年（平成22年）

・男子1部リーグ5位/1部残留　・女子2部リーグ優勝/1部昇格
・関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
・関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部復帰。
・全日本選手権・混合複で篠川智大（／瀬間詠里花プロ）が初優勝。
・第4回男子フューチャーズ開催。
・森コーチ帯同で、ポルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは宮本紗織・荒木史織・山本翔子。
・新しい部室が完成。

2011年（平成23年）

・男子1部リーグ6位/1部残留 ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
・関東リーグ6位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
・全日本選手権・混合複で篠川智大（／田中真梨プロ）が2連覇。
・第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF、JTA、春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターらと協議の結果、大会中止を決定。
・亜細亜大学建学70周年。
・テニス部創部50周年。
・部室前に駐車場が完成。

2012年（平成24年）

・男子と並び、女子サーキット『第1回亜細亜大学国際女子オープン』（1万ドル）を開催。伊波佳苗が単ベスト8進出。
・第6回男子フューチャーズ開催。
・男子1部リーグ6位/1部残留　・女子1部リーグ4位
・関東リーグ6位の男子は、6度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
・亜細亜大学文部科学省「グローバル人材育成推進事業」採択

2013年（平成25年）

・男子1部リーグ5位/2部降格　・女子1部リーグ4位
・関東リーグ5位の男子は7度目の2部との入れ替え戦へ。敗北し、1994年から続いた1部から降格する。
・亜細亜大学新5号館完成
・第7回男子フューチャーズ開催。
・第2回亜細亜大学国際女子オープン開催。山本翔子が単ベスト8進出。

2014年（平成26年）

・第8回フューチャーズ開催。
・第3回亜細亜大学国際女子オープン開催。
・1年生の田中亮寛がインカレ単ベスト8
・男子2部リーグ2位で1部リーグとの入れ替え戦へ。惜しくも敗北し2部残留。/女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。

2015年(平成27年)

・第9回フューチャーズ開催。主将の仲村元希が1回戦勝利し、初のATPポイント獲得。
・第4回亜細亜大学国際女子オープン開催。
・軽井沢フューチャーズで田中亮寛が初のATP獲得。単ベスト8
・亜細亜大学の食堂、アジアプラザ完成。
・男子2部リーグ1位で1部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部昇格。（写真⑨）/女子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留（写真⑧）。

明治との入替戦勝利後1部残留

日大との入替戦勝利後1部復帰昇格

⑩
第6回亜細亜大学国際女子オープン　ダブルス表彰式

2016年（平成28年）

・亜細亜大学建学75周年。
・関東学生新進テニス選手権大会において、山藤彩香がシングルス優勝、田中文彩がベスト4、大塚陽平/伊藤陸組がベスト8になる。
・田中文彩、高橋玲奈が堀内監督引率の元、中国ITFに3週間参戦。
・第10回フューチャーズ開催。加藤彰馬が1回戦勝利、初のATPポイントを獲得。
・第5回亜細亜大学国際女子オープン開催。高橋玲奈が1回戦を勝利し、WTAポイント獲得(通算7ポイント目)。また、本戦WCで出場した楚南美波/中沢夏帆組がベスト4進出。山藤彩香/田中文彩組(WC)、高橋玲奈/南文乃組(WC)もベスト8進出。
・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
・女子1部リーグ4位で1部残留。

2017年（平成29年）

・関東学生新進テニス選手権大会において、男子ダブルス橋本大貴/恒松拓未組が準優勝になる。
・田中文彩、松田美咲が堀内監督引率の元、中国ITFに2週間参戦。
・加藤彰馬が宮崎靖雄コーチ引率の元、インドネシアITFに2週間参戦。ITFからの通達により、今回、男女大会ともに$10,000から$15,000へ賞金額増額され開催。
・第11回フューチャーズ開催（写真⑪）。
・第6回亜細亜大学国際女子オープン開催（写真⑩）。
・関東学生テニストーナメント選手権大会にて、女子シングルスで1年生の松田美咲が初優勝。
・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
・女子1部リーグ4位で1部残留。

2018年（平成30年）

・加藤彰馬が香港ITFに1週間参戦。
・関東学生新進テニス選手権において、男子ダブルス加藤彰馬/吉田慎組が優勝、女子ダブルス中沢夏帆/大西沙依組が準優勝になる。
・第12回フューチャーズ開催。熊坂拓哉が1回戦勝利、初のATPポイント獲得。また、加藤彰馬/吉田慎組(WC)ベスト8進出。
・第7回亜細亜大学国際女子オープン開催。中沢夏帆が1回戦勝利、WTA ポイント獲得。また、高橋玲奈/中沢夏帆組(WC)がベスト8進出。
・平成30年度関東学生テニストーナメント大会にて、女子シングルスで4年生の高橋玲奈がベスト4、2年生の松田美咲/朝倉菜月ペアが準優勝。
・松田美咲が関東オープンテニス選手権大会シングルス優勝。
・全日本学生テニス選手権大会にて、女子シングルスで4年生の中沢夏帆がベスト4、2年生の松田美咲が準優勝、女子ダブルスで4年生の髙橋玲奈/中沢夏帆が準優勝。
・男子1部リーグ6位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
・女子1部リーグ準優勝で大学王座へ。
・大学王座にて決勝戦で早稲田大学に敗れ準優勝。
・全日本選手権にて、女子シングルスで2年生の松田美咲がベスト4、女子ダブルスで4年生の髙橋玲奈/中沢夏帆がベスト8。
・熊坂拓哉、高見澤岳飛がタイITFに1週間参戦。
・松田美咲がタイITFにて準優勝。
・全日本学生室内テニス選手権大会にて、男子シングルスで3年生の加藤彰馬がベスト8、男子ダブルスで3年生の加藤彰馬（/橋川泰典(日本大学)）がベスト8。女子シングルスで2年生の松田美咲が準優勝、女子ダブルスで4年生の髙橋玲奈/中沢夏帆が優勝、2年生の松田美咲/朝倉菜月がベスト8。

2019年（平成31年）

・熊坂拓哉、高見澤岳飛、松田美咲がトルコITFに2週間参戦。
・関東学生新進テニス選手権大会にて、男子ダブルス岡庸輔/工藤颯人がベスト8。
・第13回亜細亜大学国際オープンテニス開催。
・第8回亜細亜大学国際女子オープン開催。また、南文乃/朝倉菜月組(WC)がベスト8進出。
・2019年度関東学生テニストーナメント大会にて男子シングルス工藤颯人がベスト4。女子ダブルスで南文乃/中島美夢が準優勝、松田美咲/朝倉菜月がベスト4。
・W15 Gimcheonにて、松田美咲が準優勝。
・2019年度関東学生テニス選手権大会にて、男子シングルス高見澤岳飛が準優勝、男子ダブルス加藤彰馬/高見澤岳飛が準優勝。女子ダブルス南文乃/朝倉菜月が準優勝。
・男子1部リーグ4位で1部残留。
・女子1部リーグ5位で2部リーグとの入れ替え戦へ。勝利し1部残留。
・熊坂拓哉、高見澤岳飛が韓国ITFに1週間参戦。
・オーストラリアITFにて女子ダブルス松田美咲/荒川晴菜(青山スポーツ)が準優勝。
・全日本選手権にて女子ダブルスで松田美咲/松本安莉（山梨学院大学）がベスト8、伊藤さつき/中島美夢がベスト16。
・2019年度全日本学生室内テニス選手権大会にて、女子シングルス松田美咲が優勝。

2020年（令和元年）

・2019年度関東学生新進テニス選手権大会にて、男子ダブルス堀内竜輔/熊坂拓哉が準優勝。女子シングルス伊藤さつきが優勝。

亜細亜大学テニス部　過去(1988年～)の主な戦績

関東大学テニスリーグ&全日本大学対抗テニス王座決定試合

年度	関東大学リーグ		大学王座	
	男子	女子	男子	女子
1988年（昭和63年）	6部昇格	5部		
1989年（平成元年）	5部昇格	4部昇格		
1990年（平成2年）	4部昇格	3部昇格		
1991年（平成3年）	3部昇格	2部昇格		
1992年（平成4年）	2部昇格	1部昇格		
1993年（平成5年）	1部昇格	優勝		優勝
1994年（平成6年）	優勝	優勝	優勝	3位
1995年（平成7年）	優勝	優勝	優勝	3位
1996年（平成8年）	優勝	優勝	準優勝	準優勝
1997年（平成9年）	優勝	優勝	準優勝	優勝
1998年（平成10年）	優勝	優勝	4位	優勝
1999年（平成11年）	準優勝	優勝	準優勝	準優勝
2000年（平成12年）	優勝	優勝	準優勝	準優勝
2001年（平成13年）	準優勝	4位	3位	
2002年（平成14年）	3位	優勝		3位
2003年（平成15年）	優勝	優勝	3位	4位
2004年（平成16年）	5位	準優勝		4位
2005年（平成17年）	6位	準優勝		4位
2006年（平成18年）	5位	準優勝		準優勝
2007年（平成19年）	4位	3位		
2008年（平成20年）	4位	準優勝		準優勝
2009年（平成21年）	4位	2部降格		
2010年（平成22年）	5位	1部昇格		
2011年（平成23年）	6位	準優勝		準優勝
2012年（平成24年）	6位	4位		
2013年（平成25年）	2部降格	4位		
2014年（平成26年）	2部1位	1部5位		
2015年（平成27年）	1部昇格	1部6位		
2016年（平成28年）	1部6位	1部4位		
2017年（平成29年）	1部6位	1部4位		
2018年（平成30年）	1部6位	準優勝		準優勝
2019年（平成31年）	1部4位	1部5位		

全日本学生テニス選手権大会&全日本学生室内テニス選手権大会 出場人数

年度	インカレ				インカレ・インドア			
	男子出場人数		女子出場人数		男子出場人数		女子出場人数	
	S	D	S	D	S	D	S	D
1989年（平成元年）	3人	2組	1人		3人	1組	1人	
1990年（平成2年）	3人	2組	1人	1組	3人	2組	2人	2組
1991年（平成3年）	3人	4組	6人	4組	4人	4組	2人	2組
1992年（平成4年）	5人	4組	2人	4組	1人	1組	3人	4組
1993年（平成5年）	10人	5組	7人	3組	2人	3組	2人	2組
1994年（平成6年）	7人	5組	3人	2組	3人	1組	2人	2組
1995年（平成7年）	6人	3組	8人	3組	1人	1組	2人	1組
1996年（平成8年）	6人	2組	7人	3組	1人	1組	2人	1組
1997年（平成9年）	4人	3組	6人	1組	3人	1組	5人	1組
1998年（平成10年）	5人	2組	6人	4組			2人	2組
1999年（平成11年）	5人	4組	4人	2組	2人	2組	1人	1組
2000年（平成12年）	6人	4組	5人	3組	3人	1組	2人	
2001年（平成13年）	4人	1組	4人	2組	1人	1組	2人	2組
2002年（平成14年）	5人	3組	4人	2組	3人	1組	3人	2組
2003年（平成15年）	4人	2組	4人	2組	1人	1組	2人	1組
2004年（平成16年）	2人	4組	4人	4組	2人		1人	2組
2005年（平成17年）	3人	2組	7人	5組	1人			2組
2006年（平成18年）	5人	2組	7人	3組	1人		1人	2組
2007年（平成19年）	7人	1組	5人	3組	2人		2人	1組
2008年（平成20年）	5人	3組	6人	2組	3人	1組	1人	
2009年（平成21年）	6人	3組	5人	2組	2人	1組	1人	1組
2010年（平成22年）	6人	4組	6人	3組		1組	3人	1組
2011年（平成23年）	2人	1組	7人	4組		1組	2人	1組
2012年（平成24年）	3人		3人	1組		1組	2人	1組
2013年（平成25年）	2人		4人	2組				
2014年（平成26年）	2人	2組	1人	なし	2人	2組	1人	なし
2015年（平成27年）	2人	1組	4人	1組			4人	1組
2016年（平成28年）	1人	2組	3人	1組	1人	1組	1人	1組
2017年（平成29年）	1人	1組	4人	2組				
2018年（平成30年）	3人	1組	4人	4組	3人	1組	3人	2組
2019年（平成31年）	5人	1組	2人	2組	4人	1組	3人	2組

2019年度関東大学テニスリーグ最終戦後

平成30年度全日本大学対抗テニス王座決定試合F後

個人戦績

年度		出場選手		インカレ		インカレインドア	
				S	D	S	D
1989年	平成元年度	男子	坂口雄二	準優勝	ベスト16	本戦	
			森　稔詞	ベスト8	ベスト4	本戦	ベスト4
			岡田岳二	ベスト16		ベスト8	
			高田　充		ベスト4		ベスト4
			桜井和人		ベスト16		
		女子	山崎史子	ベスト4		優勝	
1990年	平成2年度	男子	森　稔詞	優勝		ベスト4	ベスト8
			岡田岳二	ベスト4	優勝	ベスト16	ベスト8
			坂口雄二	ベスト8	優勝	ベスト16	ベスト8
			高田　充				ベスト8
		女子	山崎史子	準優勝	準優勝	優勝	本戦
			三輪陽子		準優勝		本戦
			赤堀奈緒			ベスト8	準優勝
			石田恵子				準優勝
1991年	平成3年度	男子	森　稔詞	優勝	優勝	ベスト4	ベスト4
			伊東　新	準優勝	ベスト16	優勝	ベスト4
			高田　充	ベスト16	ベスト4	ベスト16	準優勝
			岡田岳二		優勝		
			駒田政史		ベスト4		準優勝
			城間和人		ベスト4		ベスト8
			須藤陽史		ベスト4		ベスト8
			坂口雄二		ベスト16	ベスト8	
			佐藤武文				ベスト16
			佐藤博康				ベスト16
		女子	赤堀奈緒	ベスト4	優勝	優勝	優勝
			山崎史子	ベスト8	優勝	準優勝	優勝
			三輪陽子	ベスト32			ベスト4
			釣　雅美	ベスト32			
			萱嶌奈穂	ベスト32			
			土方千代	ベスト32	ベスト16		
			北野由美		ベスト8		
			辻麻千香		ベスト8		
			斎藤裕子		ベスト16		
			井上朋子		ベスト16		
			浅見玲子		ベスト16		
			石田恵子				ベスト4
1992年	平成4年度	男子	伊東　新	準優勝	ベスト16	ベスト8	
			宮地弘太郎	ベスト8			
			佐藤博康	ベスト16	ベスト4		ベスト4
			駒田政史	ベスト32			
			馬越浩也	ベスト32			
			鈴木　潤		準優勝		
			久田英登		準優勝		
			佐藤武文		ベスト4		ベスト4
			城間和人		ベスト16		
			須藤陽史		ベスト16		
			紀　有二		ベスト16		
		女子	赤堀奈緒	優勝	準優勝	優勝	優勝
			石田恵子	ベスト4	準優勝	ベスト4	優勝
			浅見玲子		ベスト4		ベスト4
			土方千代		ベスト4		ベスト4
			三輪陽子		ベスト8	ベスト8	準優勝
			石田友子		ベスト8		準優勝
			廣津文子		ベスト8		
			萱嶌菜穂		ベスト8		
			斎藤裕子				ベスト8
			釣　雅美				ベスト8
1993年	平成5年度	男子	宮地弘太郎	優勝	ベスト8		
			伊東　新	準優勝	ベスト8		
			馬越浩也	ベスト4	ベスト16	ベスト4	2R
			佐藤博康	ベスト4	準優勝		2R
			土屋哲史	ベスト16	ベスト16	ベスト8	2R
			酒井俊亮	ベスト16			
			久田英登	ベスト32	ベスト8		
			竹下和史	ベスト32			
			水島　亮	ベスト32			
			紀　有二	ベスト32			
			駒田政史		準優勝	ベスト8	2R
			須藤陽史		ベスト4		本戦

年度		出場選手		インカレ		インカレインドア	
				S	D	S	D
			城間和人		ベスト4		本戦
			鈴木　潤		ベスト8		
		女子	赤堀奈緒	準優勝			
			吉田亜梨	ベスト8	ベスト8	本戦	
			土方千代	ベスト16	ベスト16		本戦
			釣　雅美	ベスト16			本戦
			辻麻千香	ベスト32	ベスト16		本戦
			常盤　安	ベスト32	ベスト16	ベスト8	
			大竹山理映	ベスト32	ベスト8		
			浅見玲子		ベスト16		本戦
1994年	平成6年度	男子	伊東　新	優勝	ベスト4		
			宮地弘太郎	準優勝	ベスト4		
			馬越浩也	ベスト4	ベスト8	ベスト8	
			土屋哲史	ベスト16	ベスト8	ベスト8	
			竹下和史	ベスト16	準優勝		
			酒井俊亮	ベスト32			
			佐藤博康	ベスト32	ベスト4		準優勝
			山下大介		準優勝	優勝	
			駒田政史				準優勝
			久田英登		ベスト16		
			杉田光徳		ベスト16		
		女子	吉田亜梨	準優勝	準優勝	本戦	準優勝
			常盤　安	ベスト8	準優勝	2R	準優勝
			土方千代	ベスト32	ベスト8		優勝
			石田玲奈		ベスト8		優勝
1995年	平成7年度	男子	宮地弘太郎	優勝	ベスト16		
			竹下和史	ベスト8	優勝		
			馬越浩也	ベスト8	ベスト16		
			山下大介	ベスト16	優勝	2R	
			酒井俊亮	ベスト16	ベスト8		
			紀　有二	ベスト32			
			土屋哲史		ベスト8		
			橋本吉弘				優勝
			越智　亘				優勝
		女子	横井佑未	ベスト4			
			吉田亜梨	ベスト8	ベスト4	2R	
			坂井美紗江	ベスト16			
			小沢　愛	ベスト16	ベスト16	ベスト4	優勝
			中川　彩	ベスト16			
			石田玲奈	ベスト32	ベスト16		優勝
			常盤　安	ベスト32	ベスト4		
			柴田孝子	ベスト32	ベスト16		
			高梨清乃		ベスト16		
1996年	平成8年度	男子	ｸﾗｳﾃﾞｨｵ･勲･鈴木	ベスト8		本戦	
			竹下和史	ベスト8	ベスト4		
			芳野　猛	ベスト16			
			越智　亘	ベスト32	ベスト16		準優勝
			山下大介	ベスト32	ベスト4		
			橋本吉弘	ベスト32	ベスト16		準優勝
		女子	岡本聖子	準優勝	ベスト4	準優勝	
			横井佑未	ベスト4			
			常盤　安	ベスト8	優勝		
			中川　彩	ベスト16			
			吉田亜梨	ベスト32	ベスト4		
			小沢　愛	ベスト32	ベスト8	ベスト4	優勝
			石田玲奈	ベスト32	ベスト8		優勝
			片倉　恵		優勝		
1997年	平成9年度	男子	竹下順二	ベスト16		本戦	
			ｸﾗｳﾃﾞｨｵ･勲･鈴木	ベスト16			
			吉川真司	ベスト16			
			越智亘	ベスト32	準優勝	本戦	ベスト4
			橋本吉弘		準優勝	本戦	ベスト4
			芳野　猛		ベスト16		
			白田　学		ベスト16		
			鈴木広幸		ベスト16		
			堀口元ﾋﾞﾋﾞｱﾝｱﾝ		ベスト16		
		女子	岡本聖子	準優勝		本戦	
			横井佑未	ベスト8		優勝	
			田口景子	ベスト16	優勝	本戦	ベスト4

年度		出場選手		インカレ		インカレインドア	
				S	D	S	D
			久保陽子	ベスト16			
			木根渕晶子	ベスト16		本戦	
			片倉　恵	ベスト32	優勝	2R	ベスト4
1998年	平成10年度	男子	吉川真司	ベスト16	ベスト16		
			竹下順二	ベスト16			
			鈴木道広	ベスト32			
			石浦純一	ベスト32	ベスト16		
			相原　玲	ベスト32			
			石神理貴		ベスト8		
			辻　雄馬		ベスト8		
		女子	岡本聖子	優勝	優勝	ベスト8	優勝
			木根渕晶子	ベスト4		ベスト4	ベスト4
			横井佑未	ベスト16	ベスト16		優勝
			田口景子	ベスト16	優勝	ベスト8	
			金井奈央子	ベスト16	ベスト8		
			片倉　恵	ベスト32	ベスト8		
			永井圭子		ベスト16		
			森井景子		ベスト16		
			坂井美紗江		ベスト16		
			堀川奈緒子				ベスト4
1999年	平成11年度	男子	石浦純一	ベスト16	ベスト16		優勝
			石神理貴	ベスト16	ベスト16	優勝	
			三好　勲	ベスト16		本戦	
			辻　雄馬	ベスト32	ベスト16		本戦
			国吉智規	ベスト32			
			朴　潤九		ベスト16	2R	本戦
			吉川真司		ベスト16	ベスト4	優勝
			菊池　恒		ベスト16		
			宮下知朗		ベスト16		
			山下智史		ベスト16		
		女子	岡本聖子				準優勝
			田口景子	準優勝	準優勝	本戦	準優勝
			金井奈央子	ベスト16			
			片倉　恵	ベスト32	準優勝		
			飯田京子	ベスト32			
			川野美季		ベスト16		
			中川　麗		ベスト16		
2000年	平成12年度	男子	石神理貴	ベスト4	ベスト8	2R	
			吉川真司	ベスト4		準優勝	ベスト4
			三好　勲	ベスト16	ベスト32	2R	
			大迫幸輝	ベスト32			
			朴　潤九	ベスト32	ベスト8		
			宮崎靖雄	ベスト32	ベスト8		
			辻　雄馬		ベスト8		
			後藤光弘		ベスト8		
			石浦純一				ベスト4
		女子	田口景子	準優勝	優勝	ベスト4	
			金井奈央子	ベスト16	優勝		
			平田育子	ベスト16	2R		
			水野衣里子	ベスト16	本戦		
			五藤かおり	ベスト32	2R	本戦	
2001年	平成13年度	男子	宮崎靖雄	ベスト4	準優勝	ベスト8	本戦
			朴　潤九	ベスト8	準優勝		本戦
			国吉智規	ベスト32			
			比嘉明人	ベスト32			
		女子	北崎悦子	ベスト4		準優勝	本戦
			金井奈央子	ベスト16	ベスト4		
			平田育子	ベスト16	ベスト4	本戦	準優勝
			水野衣里子	ベスト32	ベスト4		本戦
			五藤かおり		ベスト4		準優勝
2002年	平成14年度	男子	宮崎靖雄	ベスト4	準優勝	優勝	準優勝
			比嘉明人	ベスト8		ベスト8	
			国吉智規	ベスト16	準優勝	準優勝	準優勝
			中川　亮	ベスト32	ベスト16		
			乾祥一郎	ベスト32	ベスト16		
			後藤光弘		ベスト16		
			大山謙一		ベスト16		
		女子	平田育子	準優勝	ベスト16	ベスト4	ベスト4
			北崎悦子	ベスト8	ベスト4	ベスト8	準優勝

年度		出場選手		インカレ		インカレインドア	
				S	D	S	D
			五藤かおり	ベスト16	ベスト16		ベスト4
			水野衣里子	ベスト16	ベスト4	ベスト8	準優勝
2003年	平成15年度	男子	宮崎靖雄	準優勝	ベスト8		
			比嘉明人	ベスト8		ベスト8	
			中川　亮	ベスト32	ベスト8		本戦
			乾祥一郎	ベスト32			
			後藤光弘		ベスト8		
			大山謙一		ベスト8		本戦
		女子	水野衣里子	ベスト4	ベスト8	ベスト8	優勝
			平田育子	ベスト8	ベスト32		
			北崎悦子	ベスト8	ベスト8	ベスト8	優勝
			五藤かおり	ベスト16	ベスト32		
2004年	平成16年度	男子	比嘉明人	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
			乾祥一郎	ベスト16	ベスト16	ベスト8	
			大山謙一		ベスト16		
			平良和己		ベスト16		
			垣内崇寛		ベスト16		
			小松優介		ベスト16		
			佐地竜介		ベスト32		
			古城泰裕		ベスト32		
		女子	北崎悦子	ベスト16	ベスト16	ベスト16	ベスト8
			津布久萌	ベスト16	ベスト32		ベスト4
			安田紘子	ベスト32	ベスト32		
			川崎光美	ベスト32	ベスト16		
			上條いずみ		ベスト16		
			原由紀代		ベスト32		ベスト4
			森　美紀		ベスト16		ベスト8
			高橋　令		ベスト32		
2005年	平成17年度	男子	富田真吉	ベスト32		ベスト8	
			大塚真之助	2R			
			佐地竜介	本戦	ベスト16		
			古城泰裕		ベスト16		
			村居誠悟		ベスト32		
			新谷　啓		ベスト32		
		女子	森　美紀	ベスト16	優勝		ベスト4
			原由紀代	ベスト32	ベスト16		ベスト8
			川崎光美	ベスト32	本戦		
			津布久萌	2R	ベスト16		ベスト8
			高橋　令	2R	ベスト16		
			宮崎優実	2R			
			坪奈津美	本戦	優勝		ベスト4
			遠藤真理子		本戦		
			土屋奈夏		ベスト32		
			角田良美		ベスト8		
2006年	平成18年度	男子	富田真吉	ベスト16		ベスト16	
			大塚真之助	ベスト32			
			牛田敦之	ベスト32			
			新谷　啓	2R	ベスト32		
			小出侑門	2R			
			佐地竜介		ベスト8		
			古城泰裕		ベスト8		
			高橋　隼		ベスト32		
		女子	森　美紀	2R	ベスト16		ベスト4
			津布久萌	ベスト32	ベスト16		準優勝
			高橋　令	ベスト32	ベスト16		
			坪奈津美				ベスト4
			土屋奈夏	ベスト16	ベスト16		
			角田良美	準優勝	ベスト8	ベスト16	
			宮崎優実	ベスト16	ベスト8		
			木下ミサ	ベスト32			準優勝
2007年	平成19年度	男子	大塚真之助	ベスト16		ベスト16	
			富田真吉	ベスト16	ベスト32	ベスト16	
			篠川智大	ベスト32			
			小出侑門	2R	ベスト32		
			牛田敦之	2R			
			古城泰裕	本戦			
			青木　翔	本戦			
			井上貴博		ベスト32		
			風早一樹		ベスト32		

年度		出場選手		インカレ		インカレインドア	
				S	D	S	D
		女子	宮﨑優実	ベスト16	ベスト8	ベスト4	
			角田良美	ベスト16	ベスト8	ベスト16	
			木下ミサ	ベスト16	ベスト16		
			土屋奈夏	2R	ベスト16		準優勝
			坪奈津美	本戦	ベスト16		準優勝
2008年	平成20年度	男子	井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト4
			富田真吉	ベスト16			
			篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト8	ベスト4
			牛田敦之	ベスト32	ベスト32	ベスト16	
			大原文平	2R			
			土居諒大		ベスト32		
			高橋　隼		本戦		
			風早一樹		本戦		
		女子	宮﨑優実	ベスト4	ベスト8	準優勝	
			木下ミサ	ベスト16	ベスト16		
			角田良美	ベスト16	ベスト8		
			長谷川梨紗	2R	ベスト16		
			荒木史織	本戦			
			美濃越彩	本戦			
2009年	平成21年度	男子	井上貴博	ベスト8	ベスト8	ベスト16	ベスト8
			篠川智大	ベスト16	ベスト8	ベスト16	ベスト8
			牛田敦之	ベスト32	ベスト32		
			河原　純	2R			
			土居諒大	2R	ベスト32		
			田村和也	2R	本戦		
			井原　力		本戦		
		女子	木下ミサ	ベスト16	ベスト16	ベスト8	準優勝
			荒木史織	2R	ベスト16		準優勝
			美濃越彩	2R			
			長谷川梨紗	本戦			
			宮本紗織	本戦	ベスト32		
			下村恵那		ベスト32		
2010年	平成22年度	男子	井上貴博	ベスト16	ベスト8		ベスト8
			土居諒大	2R	ベスト4		
			篠川智大	2R	ベスト4		ベスト8
			田村和也	2R	本戦		
			井原　力	2R	本戦		
			高橋良平	本戦			
			長久保大樹		本戦		
			風早一樹		ベスト8		
			岡部慎一郎		本戦		
		女子	宮本紗織	ベスト16	ベスト32	ベスト16	
			山本翔子	ベスト16	ベスト32	ベスト16	
			鈴木直子	2R			
			荒木史織	2R	ベスト8		ベスト8
			伊波佳苗	2R	ベスト32	ベスト16	
			長谷川梨紗	本戦	ベスト32		
2011年	平成23年度	男子	田村和也	ベスト32	ベスト32		ベスト8
			林　倫正	ベスト32			
			長久保大樹		ベスト32		ベスト8
		女子	宮本紗織	ベスト8	ベスト16		
			長谷川梨紗	ベスト16	ベスト16		
			荒木史織	ベスト16	ベスト32		ベスト8
			伊波佳苗	ベスト32	ベスト16	ベスト16	
			山本翔子	ベスト32	ベスト16	ベスト16	
			鈴木直子	ベスト32	ベスト32		
			伊藤優花	2R			
			境　有紀		ベスト32		
2012年	平成24年度	男子	高橋良平	2R			
			林　倫正	2R			
			仲村元希	2R			
		女子	山本翔子	準優勝	準優勝	ベスト4	優勝
			伊波佳苗	ベスト16	準優勝	ベスト16	優勝
			伊藤優花	2R			
2013年	平成25年度	男子	白井卓也	本戦			
			仲村元希	ベスト32			
		女子	山本翔子	ベスト8	ベスト4		
			伊波佳苗	ベスト32	ベスト4		
			伊藤優花	ベスト32	ベスト16		

年度		出場選手		インカレ		インカレインドア	
				S	D	S	D
			松本千広	2R	ベスト16		
2014年	平成26年度	男子	小堺遠馬		ベスト32		
			仲村元希	本戦	ベスト32		
			田中亮寛	ベスト8	本戦	ベスト16	
			橋本大貴		本戦		
		女子	松本千広	ベスト32		ベスト16	
2015年	平成27年度	男子	仲村元希		本戦		
			大塚陽平	本戦			
			田中亮寛	ベスト16			
			橋本大貴		本戦		
		女子	松本千広	ベスト32	ベスト32	ベスト4	
			山藤彩香	ベスト32			
			辻本有佳里	2R			
			田中文彩		ベスト32		
			髙橋玲奈	ベスト8			
2016年	平成28年度	男子	橋本大貴		ベスト32		
			恒松拓未		ベスト32		
			加藤彰馬	2R	ベスト32		
			吉田　慎		ベスト32		
		女子	山藤彩香		ベスト32		
			田中文彩	2R	ベスト32		
			髙橋玲奈	ベスト32			
			中沢夏帆	本戦			
2017年	平成29年度	男子	橋本大貴		本戦		
			恒松拓未		本戦		
			加藤彰馬	2R			
		女子	田中文彩	ベスト32			
			髙橋玲奈	ベスト32	ベスト32		
			中沢夏帆	2R	ベスト32		
			山口真琴	2R			
			楚南美波		ベスト32		
			朝倉菜月		ベスト32		
2018年	平成30年度	男子	加藤彰馬	ベスト16	ベスト32	ベスト8	ベスト8
			吉田　慎		ベスト32		
			高見澤岳飛	2R		ベスト32	
			堀内竜輔	本戦			
			熊坂拓哉			ベスト16	
		女子	髙橋玲奈	ベスト32	準優勝	ベスト16	優勝
			中沢夏帆	ベスト4	準優勝	ベスト32	優勝
			山口真琴	本戦	ベスト16		
			楚南美波		ベスト16		
			大西沙依		ベスト32		
			南　文乃		ベスト32		
			朝倉菜月		ベスト16		ベスト8
			松田美咲	準優勝	ベスト16	準優勝	ベスト8
2019年	平成31年度	男子	加藤彰馬	ベスト16	ベスト32	ベスト32	ベスト8
			吉田　慎		ベスト32		
			高見澤岳飛	ベスト32		ベスト32	ベスト8
			工藤颯人	ベスト32		ベスト32	
			熊坂拓哉	ベスト32		ベスト16	
			堀内竜輔	本戦			
		女子	南　文乃		ベスト32		
			松田美咲	ベスト32	ベスト32	優勝	ベスト4
			朝倉菜月		ベスト32		ベスト4
			伊藤さつき	2R		ベスト16	ベスト8
			中島美夢		ベスト32	ベスト16	ベスト8

亜細亜の部活

入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年
大切な時間　大学入学前から部活は始まっている

12月

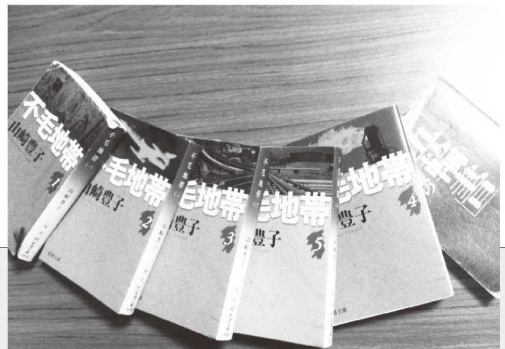
年末合宿（12月20日～27日）
練習内容
・学生は全国各地から延べ100名を超す参加者（高校生・中学生）とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。

ときにOB、OGやプロ（スペシャルゲスト）も参加。レクチャーを受ける高校生や部員たち

・その年にやり残した課題、自分の改善点を徹底的に克服する。
・特にサービスは改善の必要がある場合が多く、この時期にグリップをコンチネンタルにして、基本を学ぶ。

全員コンチネンタルグリップへ移行

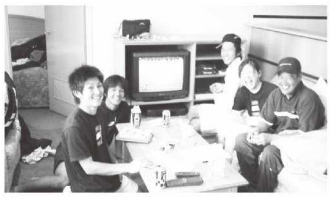
オリエンテーション
・部員が作成したカレンダーに基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。
・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある（4年間で必要な124単位に関して）。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。
・『テニス発見ノート』を作成。
・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。『五輪の書』と『不毛地帯』を読み、後日感想文を提出。



『五輪の書』と『不毛地帯』

1月

・冬休み（故郷へ帰省する学生が多い）
・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で“世界のテニス”を感じる（1月10日前後～20日前後まで）。


監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを観ながら談笑

オーストラリアン・オープンのセンターコート

2月

・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加（12月年末合宿での宿題提出）。
・大学4年間でのテニス活動における準備（基礎体力や基礎技術の改善）。
・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。
・これからの生活拠点、活動の準備をする。
・国際大会参加を想定し、ITFのI-pin（アイ・ピン）登録と春の男子フューチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行なう。

3月

・基礎練習から応用練習への移行期。
・体力強化を継続する。
・月末から始まる男子フューチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。

スーパーバイザーから審判のレクチャーなどを受ける学生

入学後

4年間の目標を考える。　学生は本物を学べ!!

・Ever Upward「自らの可能性は、それを信じ続けた者だけが実現できる」（亜細亜大テニス部テーマ）の実行
・スポーツマンシップの獲得。人間的成長を目指す。
・大学王座・インカレ・全日本選手権など主要大会での優勝を視野に置く。
・海外などへ積極的に遠征し、世界ランキングに必要なATP・WTAポイント獲得を目指す。
・亜細亜大テニス部が使う重要ワード～意識改革／できるまでやる／適当や雑を一切無くす／時間を大切にする
・そして、卒業する！

大学1年

・1年間で40単位取りきれるように努力する。
・体力、技術、精神の向上を目指す。
・基礎体力、基礎技術の取得。
・大学テニス界での自分の位置を確立すること。春／夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
・新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生活においての自分のペースを確立すること。

大学2年

・さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
・勝負の年にする。
・体力、技術力のさらなる向上。
・積極的に対外試合や国内一般トーナメントに参加する。
・目標を忘れず、周りに流されないこと。

大学3年

・3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
・勝負の年を充実させていく。
・海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
・卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
・卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学4年

・4年間の集大成として、思いきり勝負する（そうなるように1～3年生をコツコツと精一杯努力しておくことが重要）。
・積極的に海外遠征でチャレンジする。
・卒業後の準備をする（プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ）。
・教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。

Aプロジェクト

亜細亜テニス部員が4年間かけて達成することを“Aプロジェクト”と呼ぶ

・JTA（全日本ランキング）100位以内を目指す。（男子1243位～1位／女子658位～1位）そして、全日本選手権への出場、活躍を目標に努力する。
・年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。
・テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に磨きをかけていく。
・基礎体力の向上を目標に計画性をもち、目標達成の原動力にする。

戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。
その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

・堀内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピンサービス」などが考え方のベースとなる。
・部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。
・毎年1月に行なわれるオーストラリアン・オープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦（デ杯・フェド杯・ジャパンオープン・東レPPO・全日本）に、積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。
・主催する男女国際大会でのゲーム分析（サービス、リターンの確率／エース・ミスの調査比較など）。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。
・自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。
・主要大会のゲーム映像を部室の大型テレビで研究。
・関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。
・時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実践に役立つように処理し修得する。

試合後のミーティングが特に重要

トーナメントを終えたあとは、コーチングスタッフとミーティングを行なう。反省をもとに改善点を洗い直し、その反省を生かし、次のプランを作成し実践していく。

卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生で選手活動をしている選手が、大会の合間に練習に参加し、学生を引っ張っている。
心・技・体を学生とともに鍛え、磨き上げていくことができるのも、いまの亜細亜の大きな特徴。
卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

1年間の流れ

授業＋練習（火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00）**＋試合**

練習（火-日◎9:00-18:00）**＋試合**

4月 5月 6月 7月 8月 9月

授業・テスト

前期授業（13週間）

休暇

学生大会

※新型コロナウイルス感染拡大のため開催未定

夏の関東学生（予選）

インカレ

※新型コロナウイルス感染拡大のため開催未定

夏の関東学生

関東リーグ（本選）

テニス

女子サーキット
$80K・$60K・$25K（6大会）

春の関東学生
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により7月14日以降に延期予定

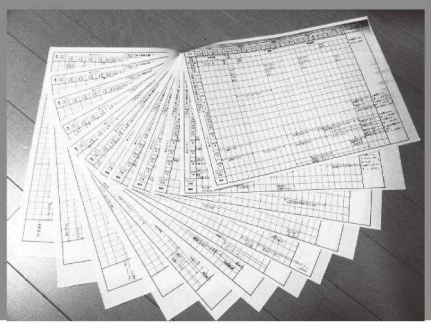
一般・国際大会

男子フューチャーズ
F6～F8（3大会）

（テスト・主要学生大会期間を除き、授業との兼ね合いを考えて自身のレベルを

年間スケジュール

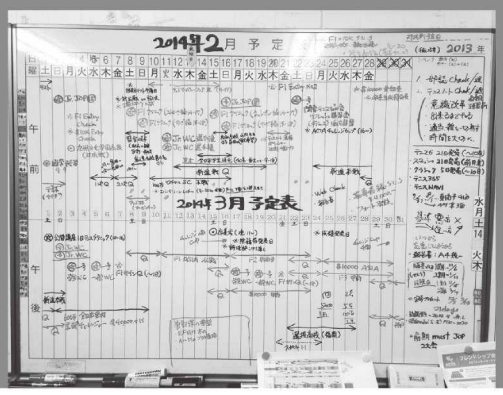
・『国際大会チャリティークリニック』を年間20回を目標に開催
（※写真⑪）チャリティークリニックの風景
・毎年3月後半に男女国際大会を主催。男子F1フューチャーズ（$1万）／女子サーキット（$1万）



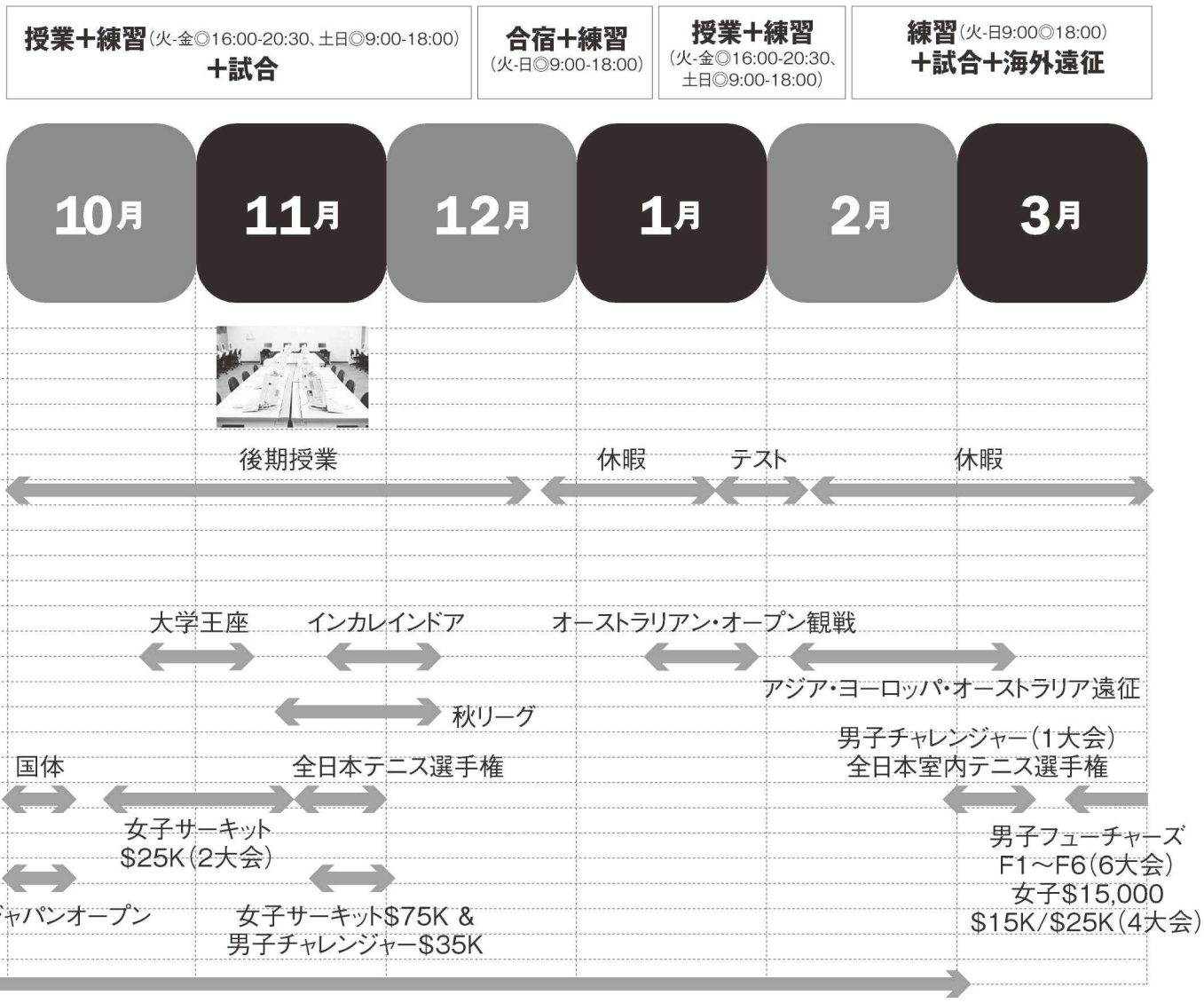
12ヵ月のスケジュール。学事、学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載

月間スケジュール

・対抗戦やトーナメントスケジュールの確認
・クリニックや行事の確認
・試合、練習計画作成



12ヵ月のスケジュール。学事、学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載



考慮し20万～300万までの国内大会)

週間スケジュール

・基本的に毎週月曜日がOFF
・外部スクールへアシスタントコーチ派遣／①昭和の森TS、②武蔵野ドームTC
・毎週水曜日(授業期間中)は、武蔵野キャンパスにてお昼にミーティング
・土日には、その週の反省と次週の確認を含めミーティング

日常のオンコートスタッフ陣

・堀内昌一監督／森稔詞コーチ(週6日)
・長久保大樹プロ(週6日)

1日スケジュール

授業有り　(練習時間／火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00)

・基本的に1限が9:00からスタート。テニス部員はできるだけ3限までに授業を登録受講し、練習時間の確保に努める。
・10面のテニスコートを使用する。
・オンコート練習(ナイター設備があり、20:30まで練習可能)。
・3時間の練習と1.5時間のトレーニング。男子10km、女子8kmのランニング。
・400mトラックを使いインターバルやランニング、フットワークトレーニングなど。
・トレーニングジムにてウエイトトレーニング。コートではフットワークドリルやプライオメトリクストレーニングなどを行なう。
・雨の場合は、昭和の森TSインドアコートへ移動して、練習する場合もある。

契約トレーナーとともにフットワークトレーニングを行なう

我々は本物のテニスを追求する。

心の追求

・スポーツマンシップの獲得（グッドルーザー～潔く負けを認められる人になるためには…）
・メンタルトレーニング受講（月1回、部員は高妻容一先生の講義を受講）。メンタルのスキルアップを実戦している。
・礼儀やモラルを大切にする（テニス部というチームで、仲間との協調性を磨き、団体行動において必要とされるモノを取得する）。
・PDCA（ plan / do / check / action ）の徹底。
・復習の徹底（試合報告書の作成や本を読み、座学を受けた際の感想文作成など）
・個々が毎日精一杯努力し、人間的成長を目指す。

テキスト『スポーツマンシップを考える』

技の追求

なぜ必要なのか?

テニスは対戦競技であり、ネットを挟んで相手と対峙し、1ポイントを奪い合うスポーツ。1ポイントを奪い合い、1ポイントの積み重ねが1ゲームになり、1ゲームの積み重ねが1セットになり、1セットの積み重ねが1試合になる。

そのようなゲーム特性を踏まえると対戦するふたりは、テニスコートの中で、「間」＝時間をうまく使い、「場」＝スペースを確保し、あるいは埋めることを考えて、実行に移す。テニスはお互いが「時間」と「場所」を奪い合うスポーツである。その手段として必要になるのが「技」。

現在の競技力は劇的に進歩しており、スピードもスピンもリカバリーも戦術も、より速く、より重く、より変化に富み、より高度に、より巧みになっている。スピードがある――すなわち時間がない――限られた時間の中で、プレーヤーの選択は、<いかに時間を有効に使うか>という、<戦術に基づいた技術>に進化している。

それは、<いかに無駄な時間をなくすか>ということにつながり、さらに、より機能的な運動に近づくという<再現性の高い運動>をすることでもある。それが、いま我々が目指している「技」である!

体の追求

・専属トレーナーによる年間50日間のトレーニング指導。

・毎日のランニング（男子10km／女子8km）

・火曜日-金曜日（平日）は3時間のオンコート練習と1時間30分のトレーニングで、徹底的に「技」と「体」を追求する。
・テニスコート（ナイター完備）、陸上トラック、トレーニングジムともに9:00-20:30まで利用できる。
・トレーニング1時間30分の内容は、韓国式（体幹）トレーニング、ジムトレーニング、オンコートフットワークドリル、メディシィンボールでのプライオメトリックトレーニングなど。
・土・日・休日は6時間のオンコート練習となる。
……なぜ6時間もオンコート練習か
……シングルス3セットマッチを2試合、ダブルス3セットマッチを1試合という、現行ルールでの最大ゲーム数を問題なくプレーするための準備。それに耐えられるだけの身体をつくることを目標にしている。常に「将来」に目を向けてトレーニングする。

目的意識を常に持ってランニング

すべてに共通、練習はできるまでやる!

どんなことが必要?

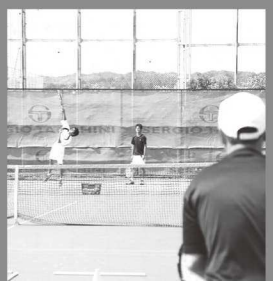
「再現性の高い運動」
「戦術に基づいた技術」
「時間をつくる」

・時間をつくるとミスが減る。時間をつくると相手を「観る」「探る」「読む」ことができる。時間をつくると場所が確保できる。
・我々は、時間をつくるために必要な技術、「戦術的技術」も追求していく。
・ただボールを打つだけでなく、技術の効果をどう上げるかを考えながら、技術習得を目指す。
・必ずその技術を習得するために、時間で区切った練習はせずに、できるまでやる～達成型の練習を行なう。
・対人練習はもちろんのこと、選手同士のコーチング練習、高校生やジュニア、一般プレーヤーを対象としたクリニックでの指導も、さまざまな角度から「技」を磨くためのものである。

もっとも追求している技術のひとつが「サービス」

試合の中で使う全ショットのうち、3分の1を占めるのがサービスである。ということは、3時間の練習であれば、1時間はサービス練習に費やす必要があると考える。サービスは、テニスの中で唯一のクローズドスキル（相手の影響を受けずに打てるショット）であり、自分自身でコントロールできるショット。サービスを追求することは、テニスの質を高める上で絶対に外せない。だからどんなに時間がかかろうとも、亜細亜では徹底的に追求し、改善し、習得を目指す。

基本的にストロークにおいては、ボール調整（9種類と考えている）を行ない、練習に取り組む。各コートにはゴムで高さを設定し、目指すボールの種類をもって、この高さをクリアするまで練習は終わらない



写真◎●●●●

1988年、亜細亜大学テニス部は大々的な強化をスタートさせました。その舵取りをしたのが、私の恩師のひとりである亜細亜大学元学長、衞藤瀋吉先生（故人）です。先生は「テニスは、ラケット1本で世界中どこでもプレーすることができ、半日でいろいろな国の人とも親交を深めることのできる素晴らしいスポーツ」とおっしゃっていました。

私はいま、そのテニスを通して、志ある学生たちと日の出のテニスコートで汗を流しています。

関東大学テニスリーグ男子7部／女子5部からスタートし、大学王座優勝まで上り詰め、数々の全日本優勝者やグランドスラムでプレーする選手を輩出してきた亜細亜には、現在、ATP・WTAポイントを取得してグランドスラム出場を夢みる学生や、全日本、インカレ、関東学生に出場し、優勝することを目標に日々練習に励んでいる学生、ケガからの復帰を目標にリハビリしている学生などがいます。

そんな学生たちがいる現場では、目標を達成した学生が、新たな目標に向かいいっそう努力する瞬間、目標に届かずあきらめかけ、もがいている瞬間、再度挑戦している瞬間、目標を失い、迷っている瞬間など、それぞれの一喜一憂を目にします。その中で私の役目は、個々の「夢」を思い起こさせ、目の前で起きていることに左右されず、軸をもち、軸をぶらさず、目の前の小さなことからクリアしていくようにアドバイスし、導くことです。

大学4年間は、大人になっていく過程でもっとも重要な時期です。一見「楽しそう」に思えることが多々出てきて、気持ちがぶれることがあります。でも長い人生、いくらでも時間はあります。いましか打ち込めないものを見定め、自ら何をすべきか優先順位をつけて自分を磨いてほしいと思います。

テニスを長くやっているとうまくいかないことだらけで、あきらめそうになる瞬間もあります。しかし、小さい頃から好きで続けてきた「夢」を簡単にあきらめてはいけません。亜細亜で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

私たち、亜細亜大学テニス部の目指す「夢」とは、テニスを通じて人間力を高めることにあります。大学王座やインカレを獲ることに収まらず、全日本選手権優勝やユニバーシアード、グランドスラムへの挑戦――と同時に、社会に出ても大きな力となるスポーツマンシップを修得することです。「夢」の実現には、まず自分を信じて努力し、学生生活で仲間をつくり、学業で知識を深め、部活動を通して思いやりをもてるように、そして人に感謝できるように、人のためになれるように人間力を磨くことです。

現在、それらを経験してきたコーチングスタッフ、堀内監督をはじめ、卒業生たちが日々コートに立ち、学生たちを指導しています。

現在の亜細亜大学テニス部のリーグ戦、個人戦の結果を振り返ると、課題は多く、私はもう一度初心に戻って、取り組まなければならないと思っています。自分の学生時代を思い出し、学生たちとコートに立ってボールを打ち合い、うれしいときはともに喜び、つらいときはともに歯を食い縛り、同じ夢を追いかけようと思います。「夢を変えずに自分を変えよう！」――私の好きな言葉です。いっしょに夢を叶えませんか。

夢を簡単にあきらめないで。「夢」を変えずに「自分」を変えましょう！亜細亜で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

森 稔詞
（亜細亜大学テニス部コーチ）

挨拶

学長 大島 正克
（亜細亜大学）

テニスをとおして一層豊かな人間になろう！

世界に羽ばたく起点に亜細亜大学のテニス部があります。

1996年度から2011年度までの16年間、テニス部の部長をし、その後2018年度まで硬式野球部の部長をしました。この二つの競技は同じ球技でありながら、まるで正反対の競技です。テニスは個人主体の競技ですが、野球はチーム主体の競技です。テニスは一旦試合が始まれば、すべて自分で試合を組み立てます。野球は監督の指示のもと、試合をしていきます。テニスはそれだけ、自分というものが確立していなければなりません。

野球の世界はまだまだ男の世界ですが、テニスは、もはや女子が優位と感じられるほど、男女の差はありません。亜細亜大学のテニス部も男子の硬式庭球部と女子ローンテニス部があり、男女が共に力を合わせ切磋琢磨しています。亜細亜大学の建学の精神は「自助協力」です。まず、自分がしっかりと自立し、そして自立したもの同士がお互いに協力しようという精神ですが、テニス部で活動することで、大いに「自助協力」の精神が養われます。

男子も女子も激戦といわれる関東大学リーグ1部で頑張っています。特に女子ローンテニス部は、2018年度全日本大学対抗テニス王座決定試合において準優勝という素晴らしい成績をあげています。日本全国の大学のテニス界で第2位ということになります。一人ひとりの力の集大成です。大学でもこの栄誉を祝して亜細亜大学では最高の栄誉とされる五島賞を授与しています。

亜細亜大学のテニス部の大きな特色はテニスの国際大会を開催しているということです。2019年の亜細亜大学での国際大会は、男子が13回目、女子は8回目となります。全世界から選手が集まります。この大会で勝ち進めば世界大会のポイントも獲得できます。亜細亜大学のテニス部員は大会を運営するだけでなく、大会にも参加し勝ち進んで頂きたい。亜細亜大学は世界に羽ばたくスタート地点そのものです。私が部長をしていた頃に、大坂なおみ選手のコーチをしたという吉川真司さんも部員として活躍していました。皆さまも自分が目指す栄光をしっかりと掴んで頂きたい。亜細亜大学は、皆さまの活躍を全力で応援いたします。

部長 宇田川 裕

（学校法人亜細亜学園事務局長）

社会に有為な人材の輩出、社会貢献に取り組み、“世界に開かれたテニスチーム”を目指します。

亜細亜大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統、輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他には実現できない画期的な練習プロクラムや教育システムをもって運営され、常に前進し続けています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っています。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのは人間ですから、全般を鍛えていくことが必要なのです。また、今般の激変する社会環境にあって、大学卒業後に社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人との協働とさまざまな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

これを実践するために、私たちはさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。

そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのです。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス競技普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”となることを目指していきたいと思います。

部長 金子 国彦

（教務部メディアセンター課長）

明るく、爽やかで、個性豊かなバランスのとれた人間に成長してほしい。国際社会に貢献できる人材育成が目標です。

亜細亜大学テニス部は、スポーツ新興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも堀内昌一監督、森稔詞コーチ等の熱心な指導による、部員ひとりひとりの日頃の努力と、チームとしてのまとまりがこのような良い結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強い大学を目指してはおりません。部員ひとりひとりが社会で活躍できるよう育成すべく、大学生活においてもていねいな指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。
同時に生活指導も行い人格形成においても、明るく、爽やかで個性豊かでバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命でありアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄がよく、やる気のある者、自分の可能性を信じぜひとも、亜細亜大学のテニス部にチャレンジしてください。クラブ一同、歓迎いたします。

衞藤藩吉先生を偲んで　この出会いですべては始まった

文◎堀内昌一

「亜細亜大学学長の衞藤です。帰国したら大学で会おう！」――昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ウインブルドン）に遠征していたときにいただいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衞藤先生はランニングシャツに下駄履きという出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意気にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦――当時の私は26歳です。

衞藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事もひとりでやり抜くことができるよ」と。衞藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少なくない世の中で、衞藤先生の純粋な考え方に私は惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。

あれから25年が経ち、あのときがなかったら……いまの私もテニス部もありません。だから衞藤先生、心からありがとうございます。いつも見守っていてください。

亜細亜大学テニス部 指導スタッフ紹介

ディレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ陣に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導に甘えることなく、自立した学生、選手、部活を目指しています。

堀内昌一監督

（亜細亜大学教授／テニス部監督）

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に帯同できる準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。

ほりうち・しょういち◎1960年に東京都世田谷区に生まれる。1972年に中央大学付属高校に入学、戦績はIH都予選ベスト64だった。日本体育大学に入学し2年生のときアメリカのニック・ボロテリーに留学、その後New Mexico Military Institute大学に留学。1982年には全米短期大学テニス選手権でベスト8に入った。帰国直後のインカレでベスト8に入り、翌年の関東学生では優勝。その後、ユニバーシアードに選ばれた。日本体育大学大学院修了後、1987年に亜細亜大学の衛藤瀋吉学長と出会い、テニス部の監督を引き受ける。しかしそのときの亜細亜大学は男子7部女子5部、共に最下位であった。1988年、監督の指導力に惹かれ、前年のIHチャンピオンの岡田岳二さんや山崎史子さんをはじめ、高田充さんらの高校トップクラスの選手が亜細亜に入学し亜細亜大学の快進撃が始まった。ATP S 571位/D 713位　JOP S 17位/D 13位

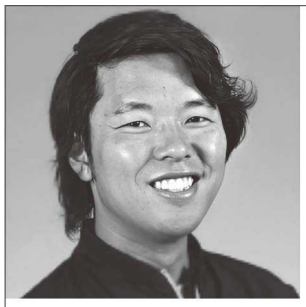
テクニカルコーチ

森 稔詞

（亜細亜大学学生生活課所属）

大学強化第一期生が母校に戻り、学生に“テニスの精神”を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部員を指導。

もり・としつぐ◎1969年12月22日大阪府で、父（故）顕郎と母孝子の間に生まれ、弟大明の2人兄弟。父の仕事の都合で東京へ上京。小学校在学中、地元の多摩ローンテニスクラブで毎日壁打ちし週末は野球。中学校在学中、平日は多摩ローン、週末は朝日生命テニス教室（スクール）へ通う。のち、大阪にある名門清風高校へ進学。3年次インターハイでは団体・単・複すべて準優勝。全日本ジュニア18歳以下複優勝。その後、亜細亜大学へ進学し3・4年次インカレ単2連覇とアジア学生選手権単複2連覇。90年ユニバーシアード日本代表（イギリス）複ベスト8。卒業後プロ転向プリンスホテルと契約。92年全日本テニス選手権複優勝、94年全日本室内選手権単優勝。97年引退。現在、亜細亜大学堀内監督の下、後進の指導にあたる。07年ユニバーシアード日本代表監督。日本ランキング単5位・複4位／ATPランキング単579位・複473位が最高。大学1年生から8年間ナショナルチームメンバー。S級エリートコーチ。



高橋 隼

男子部員を中心に指導。選手経験に基づいた戦術や理論のコーチングを行っている。

たかはししじゅん◎1987年9月生まれ。東京都出身。02年全国中学テニス選手権複ベスト16。03年全日本ジュニアテニス選手権複出場。05年全国高校総体団体ベスト8・複ベスト16。06年・08年全日本学生テニス選手権出場。ブリヂストンスポーツ入社。2013年ASC（アジアスポーツクラブ）創設。現在はASC（アジアスポーツクラブ）にてジュニア育成をしながら学生の指導にあたる。

長久保大樹

現役プロのツアーコーチにも帯同し、その経験を活かした指導から学生が厚い信頼を置いている。また、トレーニングの指導も行う。

ながくぼ・だいき◎1989年7月19日生まれ。学生時代は春関複ベスト4、新進複優勝、インカレ複ベスト8、インカレインドア複ベスト8、全日本学生テニス選手権複出場、ニッケ全日本テニス選手権複ベスト16に入る。現在はASC(アジアスポーツクラブ)でコーチをしながら学生のコーチング&トレーニングを指導している。

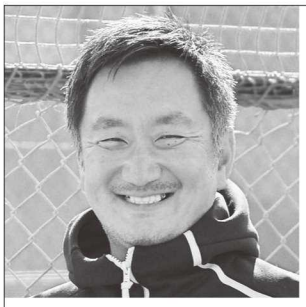
テクニカルコーチ

赤堀奈緒

週1日女子部員を指導。5部だった亜細亜を1部の常連にした立役者は、そのハングリー精神と職人気質な身体の使い方を指導してくれる。

あかほり・なお◎1971年生まれ。1987年東海大学附属相模高等学校に入学し2年次に全日本選手権ベスト8に入る。1990年亜細亜大学に入学し2年次にアジア学生テニス選手権(台湾)S優勝。全日本学生選手権Sベスト4、D優勝。全日本学生室内選手権S、D優勝。3年次には関東学生選手権S優勝。全日本学生選手権S優勝、D準優勝。全日本選手権Sベスト16Dベスト4になる。最高学年のときは、ユニバーシアードD準優勝。1994年大東銀行入行。1995年テニスプロ転向。1997年に全日本選手権Sベスト16、D優勝。1998年腰椎椎間板ヘルニアで引退。1999年～現在、民間クラブのテニスコーチ。2001年～2004年東京医療専門学校(鍼灸)。2004年～亜細亜大学コーチをしながら鍼灸マッサージの仕事をする。2011年～現在、祖師ヶ谷大蔵で治療院を開業中。

フィジオセラピスト



今泉智仁

選手の治療・コンディショニングを担当。豊富な経験から選手に寄り添った的確なアドバイスを送る。

いまいずみ・ともひと◎1972年10月1日生まれ。愛知県出身。北京中医薬大学医学部を卒業後、国内で鍼灸師の資格を取得。2007年よりテニスのツアートレーナーとしてプロに帯同し、体のケアとコンディションを整える。選手を一番良い状態でコートに立たせることに尽力することをモットーにしている。

メンタル担当

高妻容一

月に1回、メンタルトレーニングを指導。学生自らがトレーニングできるように、スチューデントトレーニングという役割を作って、トレーニングが継続できるように努力している。

こうづま・よういち◎1955年、宮崎県生まれ。福岡大学（体育学部体育学科）卒。中京大学大学院（体育学研究科体育心理学）修了後、フロリダ州立大学へ留学（スポーツ心理学など）、博士課程中退。1993年、州立フロリダ大学へ1年間の研究留学。近畿大学教養部助教授を経て、現在、東海大学体育学部教授。1985～2001年、日本オリンピック委員会のメンタルマネジメント研究班員。1994年からメンタルトレーニング・応用スポーツ心理学研究会をスタート。所属学会は「国際メンタルトレーニング学会」など10を数える。

コンディショニング担当

平石貴久

亜細亜大学テニス部の心強いチームドクター。血液検査を定期的に行うなどして、身体に関する基礎知識を指導する勉強会を行うなどして、学生の体調を管理している。

ひらいし・たかひさ◎1950年鹿児島県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。専門は内科、循環器科、スポーツ医学、放射線診断、東洋医学。鍼灸あん摩マッサージ指圧師。介護予防運動指導員。日本体育協会公認アスレティックトレーナー。駒澤大学卒業後、小守スポーツマッサージで修業し、1977年からフジタ工業サッカー部のトレーナーに就任。'81年に独立し、日本トレーナー協会所属、三宅スポーツマッサージを設立。医療法人社団貴生会理事長。東京ミッドタウンメディカルセンター平石貴久特別外来ドクター。

学内スタッフ

宇田川 裕（学校法人亜細亜学園事務局長）

亜細亜大学テニス部OBで、男子部部長である。現在は亜細亜大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亜細亜大学国際大会事務局長。

金子国彦（亜細亜大学教務部メディアセンター課長）

亜細亜大学テニス部OBで女子部部長である。現在は亜細亜大学職員として年度始めに履修カリキュラムのミーティングをしたり、部活との兼ね合いで履修ができない授業がある学生の、時間割変更などのサポートをしている。

部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

男子 硬式庭球部

清水奎吾

(主将)4年

①主将②滋賀県③光泉カトリック高等学校④1999年2月2日⑤17年⑥両親⑦映画鑑賞、サイクリング⑧努力に勝る天才なし⑨夏関単ベスト16⑩王座優勝⑪使命感・責任感を持って主将を務めさせて頂いております。このチームは人間性・テニスにおいて皆が成長しようと頑張っています。共に成長して学生でしか出来ない経験をしましょう。

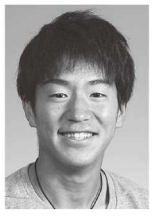
高見澤岳飛

4年

①広報②東京都③横浜清風高等学校④1998年5月18日⑤10年⑥アンディ・マレー⑦音楽鑑賞⑧一所懸命⑨夏関単複準優勝⑩インカレ優勝⑪学生生活ラスト1年、死ぬ気で頑張ります!!

工藤颯人

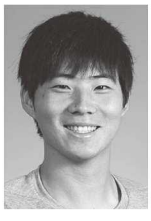
4年



①渉外②宮城県③目黒日本大学高等学校④1998年9月19日⑤16⑥マルセロリオス⑦Zoom⑧英姿颯爽⑨春関単ベスト4、インカレ単ベスト32、インカレインドア単ベスト32⑩毎日健康に過ごす、全国制覇⑪東京都の人に思われがちですが、実は宮城県の人です。後輩達にいい影響を与えられるように頑張っていきます。

島亮太郎

(主務)4年



①主務②東京都③杉並学院高等学校④1998年6月3日⑤10年⑥両親⑦アニメ鑑賞⑧行動しよう。失敗したら、取り返せばいい。⑨春関単1次予選敗退⑩最も成長する1年にする⑪ラスト1年間となり、ようやく時間の大切さがわかるようになりました。残りの時間を悔いなく過ごせるように1日も無駄にせず、最後までやり切りたいと思います。

大野一真

4年

①スカウト②東京都③大成高等学校④1998年5月11日⑤15年⑥島亮太郎⑦漫画⑧適度に抜く⑨春関複2次予選敗退⑩春関本戦出場⑪適度に抜くのであって、抜きすぎないようにラスト1年頑張ります。

須田圭亮

4年

①学連②大阪府③西武台高等学校④1999年1月22日⑤10年⑥父親⑦音楽鑑賞⑧人間関係は化学反応⑨春関1次予選敗退⑩軸を持った人になる⑪人畜無害な人間をモットーに生きています。そして何よりも好きなことは美味しいものを食べることです。

呉岡拓弥

4年

①副将、管財②岐阜県③麗澤瑞浪高等学校④1998年7月31日⑤11年⑥両親⑦料理⑧千日の稽古を鍛とし万日の稽古を練とす。⑨新進本戦出場⑩インカレ優勝⑪今年は最後まで勝ちにこだわって、納得のいく結果を出したいと思います。

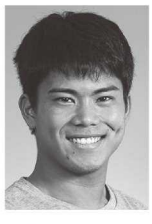
堀内竜輔

4年

①競技力向上②神奈川県③サレジオ学院高等学校④1998年9月21日⑤15年⑥イチロー⑦Netflix⑧努力⑨新進複準優勝⑩インカレ優勝⑪自分の武器を磨いて、多くのことにチャレンジして行きます。

吉満優希

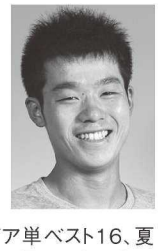
4年



①イベント②愛知県③名古屋経済大学市邨高等学校④1998年12月29日⑤10年⑥西野亮廣⑦映画鑑賞⑧思いたったら吉日⑨新進2次予選敗退⑩インカレ出場⑪ラスト1年、全力で頑張ります。

熊坂拓哉

4年



①競技力向上②山形県③日本大学山形県高等学校④15年⑤1998年10月12日⑥ラファエル・ナダル⑦映画鑑賞⑧人事を尽くして天命を待つ⑨インカレ単ベスト32、インカレインドア単ベスト16、夏関単ベスト8⑩インカレ優勝、全日本選手権ベスト16⑪最高の景色を見れるように、ラスト全力で突っ走ります!!

塩谷大河

4年

①パンフレット作成②埼玉県③浦和学院高等学校④1998年6月23日⑤16年⑥トーマス・エジソン⑦サイクリング、料理⑧実るほど頭を垂れる稲穂かな⑨春関本戦出場⑩インカレベスト4⑪早いことでもう4年生になりました。泣いても笑っても最後の年です。同期全員笑って終えられるように日々練習に勤しんで行きたいと思います。

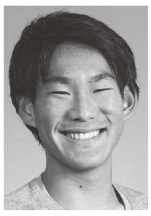
濱口昌孝

3年

①副将、管財②大阪府③清風高等学校④1999年11月15日⑤10年⑥木村政雄先生⑦映画鑑賞⑧人間万事塞翁が馬⑨夏関単ベスト32⑩インカレ単ベスト16⑪最後まで全力で頑張ります。

粕谷朋希

3年



①副務②東京都③秀明高等学校④1999年12月24日⑤9年⑥阪幸信先生⑦バスケ⑧日日是好日⑨春関1次予選敗退⑩関東学生⑪3年生という立場を自覚して日々の行動、発言、練習をしっかりやっていきたいと思います。

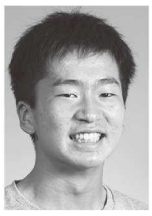
石井智也

3年

①競技力向上②秋田県③秋田商業高等学校④1999年9月16日⑤13年⑥錦織圭⑦映画鑑賞⑧諦めたらそこで試合終了⑨春関単複2次予選敗退⑩インカレベスト8⑪インカレで勝てる選手になるために練習をより一層集中して取り組みます。

浅海裕一

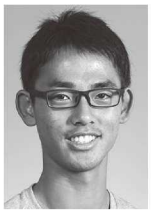
2年



①スカウト②埼玉県③柳川高等学校④2001年3月12日⑤10年⑥本田健児⑦映画鑑賞⑧百折不撓⑨春関1次予選敗退⑩インカレ出場⑪テニスが好きです。その気持ちを胸に今年は必ず結果を残したいです。

岡 悠多

3年



①パンフレット作成②埼玉県③浦和学院高等学校④1999年10月5日⑤12年⑥両親⑦ラーメンを食べること⑧虎視眈々⑨新進単本戦出場⑩インカレ本戦出場⑪強いチームの一員であるということをしっかりと自覚し、目標に向かって頑張ります。

権藤卓巳

3年

①イベント②神奈川県③横浜清風高等学校④1999年12月8日⑤9年⑥ファブリス・サントロ⑦サイクリング⑧万里一空⑨春関単本戦出場⑩インカレベスト8⑪珍しい両手両打ちです。そして、そのテクニックで相手を翻弄します。

小笠原洋

2年

①渉外②東京都③松が谷高等学校④2000年5月3日⑤6年⑥両親⑦楽器演奏⑧最短最速⑨春関1次予選敗退⑩関東学生⑪何事も1つずつ丁寧にやっていきたいと思います。

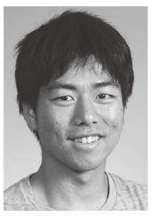
目黒志和

3年

①スカウト②東京都③湘南工科大学附属高等学校④1999年4月3日⑤11年⑥両親⑦映画鑑賞⑧一心不乱⑨新進単本戦出場⑩インカレ出場⑪最後まで諦めず、何事にも全力で取り組みます。

平塚太一

3年



①広報②埼玉県③開智未来高等学校④1999年12月23日⑤5年⑥ロジャー・フェデラー⑦スポーツ観戦⑧不撓不屈⑨春関1次予選敗退⑩春関2次予選⑪勉強とテニスを両立して頑張っていきたいです。

日野知紀

1年

①パンフレット作成②東京都③松が谷高等学校④2001年7月23日⑤8年⑥桜井淳⑦読書⑧継続は力なり⑨東京都高等学校テニス選手権大会単ベスト16⑩インカレ出場⑪日々感謝を忘れず、悔いが残らないように地道に努力して結果を出せるように頑張ります。

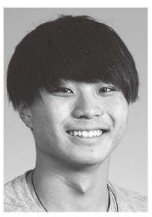
古藤嵩大

3年

①財務②神奈川県③湘南工科大学附属高等学校④2000年1月29日⑤17年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧千里万考⑨夏関単複2次予選敗退⑩単複インカレ出場⑪目標を達成できるように頑張ります。また、部活動の上級生として責任を持っていきたいと思います。

枡 富一

3年



①イベント②徳島県③学芸館高等学校④1999年1月9日⑤15年⑥祖父⑦美容⑧ありがとう⑨春関2次予選敗退⑩父のような人になること⑪よく喋ります。

松浦一貫

1年

①スカウト②静岡県③静岡市立高等学校④2001年12月11日⑤12年⑥ヤニック・シナー⑦アニメを見ること⑧ 自信とは1秒前までの過去⑨インターハイ複ベスト16⑩インカレ出場⑪打ち合いでは負けません。ストロークを武器に頑張っていきます。応援の程、宜しくお願い致します。

部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

芳谷 仁

1年

①財務②香川県③高松北高等学校④2001年5月13日⑤8年⑥ロジャー・フェデラー⑦カラオケ⑧人事を尽くして天命を待つ⑨2018年インターハイ複ベスト32、2019年全日本ジュニア単出場⑩関東学生⑪精一杯頑張りたいと思います。

橋本一斗

1年

①イベント②富山県③水橋高等学校④2001年7月2日⑤12年⑥両親⑦スポーツ観戦⑧明日は明日の風が吹く⑨全日本ジュニア複出場⑩関東学生⑪何事にも全力で取り組み、日々成長できるよう頑張ります。

川崎理比人

1年

①競技力向上②山形県③東京学館新潟高等学校④8月22日⑤13年⑥熊坂拓哉さん⑦アニメを見る、ゲーム⑧自分で見つけないと。誰も君のために見つけてはくれない。⑨インターハイ団体ベスト32、全国選抜団体ベスト32、全国私学団体6位⑩インカレ単ベスト8⑪頭を使ってテニスをするのが得意です。

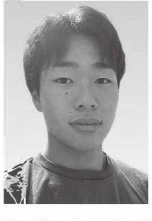
鈴木陸翔

1年

①学連②千葉県③秀明八千代高等学校④2001年10月18日⑤13年⑥両親⑦小動物の動画鑑賞⑧Wild heart & Cool brain⑨2018年インハイ団体優勝⑩インカレ出場⑪目標達成できるように頑張ります。

市野瀬楓

1年



①広報②東京都③霞ヶ浦高等学校④2002年1月5日⑤9年⑥上杉海斗⑦ギター⑧思い立ったが吉日⑨2019年インターハイ団体ベスト32⑩関東学生、リーグのメンバー入り⑪パワフルで力強いショットが持ち味です。

李 光輝

1年

①管財②東京都③堀越高等学校④2001年10月10日⑤8年⑥土屋哲史、加藤幸夫、劉邦⑦ゲーム⑧自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ⑨東京ジュニア出場⑩インカレベスト8⑪精一杯頑張りたいと思います!!

女子 アジアローンテニス部

朝倉菜月
(主将)4年

①主将②静岡県③松商学園高等学校④1998年5月24日⑤14年⑥両親⑦食べること⑧感謝⑨夏関複準優勝、インカレインドア複ベスト4⑩インカレ優勝⑪持ち前のパワーと元気で、ラスト1年笑顔で終われるように頑張ります !!

李 淑玲
4年

①イベント②東京都③堀越高等学校④1998年10月10日⑤11年⑥土屋哲史⑦ショッピング⑧千里の道も一歩から⑨春関単本戦出場⑩インカレ、王座優勝⑪大好きなグリコのプロテインを飲んで今年も全力で走り抜きます!

伊藤さつき
2年

①財務②愛知県③相生学院高等学校④2000年5月17日⑤14年⑥両親⑦料理⑧感謝⑨新進単優勝、全日本選手権複ベスト16⑩全日本選手権単出場、複ベスト8⑪どんな時も自分に負けず頑張ります。

川村周子
(主務)4年

①主務②宮城県③聖和学園高等学校④1998年10月16日⑤18年⑥長久保大樹⑦散歩⑧情熱⑨新進複ベスト32⑩インカレ本戦出場⑪気合い充分 !!

崎村彩加
4年

①広報②兵庫県③慶風高等学校④1998年5月14日⑤10年⑥両親⑦映画鑑賞⑧人生一度きり⑨夏関2次予選敗退⑩テニスを楽しむ⑪兵庫県から来ました!関西人です!一緒に頑張りましょう!

中山麗未
2年

①副務、競技力向上②千葉県③東京学館浦安高等学校④2000年12月18日⑤15年⑥家族⑦映画鑑賞⑧継続は力なり⑨インカレ予選出場、インカレインドア予選出場、新進複ベスト16⑩インカレベスト8以上、王座優勝⑪素直で謙虚にひたむきに自分らしさを忘れず頑張ります!

松田美咲
4年

①競技力向上②埼玉県③浦和学院高等学校④1998年8月21日⑤16年⑥坂本勇人⑦ドラマ鑑賞⑧When it is dark enough , you can see the stars⑨インカレ単準優勝、インカレインドア単優勝、複ベスト4⑩国際大会で優勝する !! ⑪美味しい物を食べることと寝ることが大好きです!1年間パワフルに頑張ります!

髙橋遥菜
3年

①副将、財務②東京都③浦和学院高等学校④1999年10月16日⑤11年⑥両親⑦温泉巡り⑧万里一空⑨春関2次予選敗退⑩インカレ出場⑪去年以上にコートを駆け回り、相手を翻弄させられる様に頑張ります!日々努力しこの1年間テニス面だけでなく、人としても成長出来る様にしたいです。

中島美夢
2年

①スカウト②大阪府③相生学院高等学校④2001年1月5日⑤11年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧不動心⑨春関複準優勝、インカレインドア単ベスト16、複ベスト8⑩インカレ、王座優勝⑪関西人らしく明るく頑張ります!!

佐藤 葵
4年

①スカウト②埼玉県③山村学園高等学校④1998年8月18日⑤11年⑥両親⑦音楽鑑賞⑧置かれた場所で咲きなさい⑨インカレ複出場⑩インカレ本戦⑪ラスト1年となりました。感謝の気持ちを忘れないで人間的に成長出来るように頑張ります。

福室有那
3年

①副将、管財、渉外②埼玉県③秀明英光高等学校④1999年12月23日⑤10年⑥鈴木貴男⑦食べること⑧進取果敢⑨春関2次予選敗退⑩関東学生、インカレ出場⑪ポジティブに頑張ります。

安井愛乃
2年

①アジパン、広報②愛知県③愛知啓成高等学校④2000年10月29日⑤13年⑥両親⑦ネイルをすること⑧自分なら出来る⑨新進複ベスト32⑩インカレ出場⑪明るく元気な性格です。どんな時でも笑顔を忘れず毎日一生懸命頑張ります。

部員名簿

①役職②出身地③出身高校④生年月日⑤テニス歴⑥尊敬する人
⑦趣味⑧好きな言葉⑨主な戦績⑩目標⑪自己PR

矢崎梓紗　2年

①イベント②埼玉県③山村学園高等学校④2000年11月21日⑤11年⑥両親⑦お出かけ、お菓子作り⑧努力は必ず報われる⑨新進複本戦出場⑩挑戦し続け試合を楽しむ⑪テニスが出来る環境に感謝し、誰よりも努力をします。ON/OFF切り替えて何事も全力で楽しみます!!

木下菜々花　1年

①パンフレット作成②愛知県③椙山女学園高等学校④2001年4月23日⑤10年⑥両親⑦音楽を聴くこと⑧やらない後悔よりやって後悔⑨インハイ単出場、全国選抜団体ベスト4⑩インカレ出場⑪日々感謝を忘れず、どんな時も笑顔で明るく頑張ります。

園城海遥　1年

①広報②茨城県③東洋大学附属牛久高等学校④2001年10月11日⑤11年⑥綴田圭亮⑦音楽を聴くこと⑧自分らしく⑨インハイ複ベスト16、全日本ジュニア複出場⑩インカレ単複出場⑪甘えをなくして自分に厳しくいきたいです。苦手な走りにも負けず気持ちの弱さを克服してどんな事があっても折れないで4年間頑張り続けます。

白谷美佳　2年

①学連②宮崎県③折尾愛真高等学校④2000年6月15日⑤10年⑥錦織圭⑦絵を描くこと、映画鑑賞⑧日々進化⑨春関単複2次予選敗退⑩インカレ出場⑪根気よく頑張ります。

中川杏子　1年

①管財、渉外②埼玉県③埼玉平成高等学校④2001年12月27日⑤11年⑥父⑦読書⑧Keep Smile⑨インハイ出場⑩関東学生になる⑪笑顔を絶やさず、一生懸命頑張ります!

有木真絢　1年

①スカウト②大阪府③城南学園高等学校④2001年9月19日⑤11年⑥梅原幸恵コーチ⑦映画鑑賞⑧不撓不屈⑨全国選抜団体ベスト16⑩インカレ単複出場⑪お世話になっている方々に恩返しができるように何事も全力で頑張ります。

山崎郁美　1年

①競技力向上②千葉県③秀明八千代高等学校④2001年8月24日⑤10年⑥ノバク・ジョコビッチ⑦温泉⑧挑戦することは楽しいこと⑨インハイ、全日本ジュニア単ベスト8、全日本選抜室内選手権単優勝⑩インカレ単複優勝⑪フットワークを生かしてどんなボールも最後まで追い駆けます。

吉川ひかる　1年

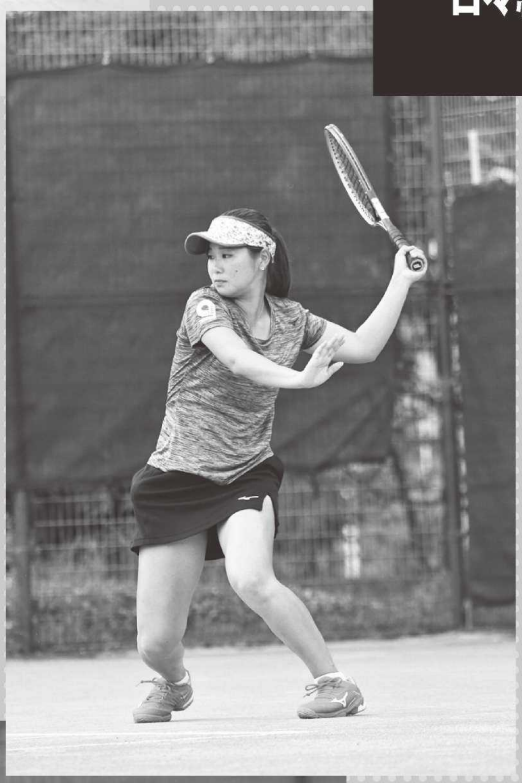
①スカウト②神奈川県③湘南工科大学附属高等学校④2001年11月4日⑤15年⑥両親⑦寝ること⑧自分らしく⑨インハイ単複ベスト8⑩インカレ上位進出⑪怪我をせず、トレーニングを人並みに出来る様頑張ります!

伊藤 楓　1年

①競技力向上、イベント②秋田県③聖霊女子短期大学附属高等学校④2001年⑤9年⑥両親⑦散歩⑧親切が当たり前⑨インハイ、全日本ジュニア出場⑩インカレ出場⑪一つ一つ全力で頑張ります!

練習風景

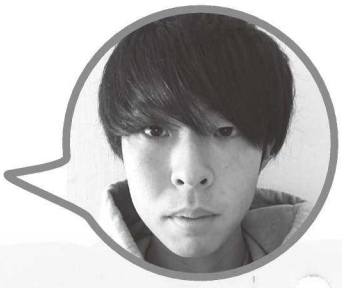
**男女共に「王座優勝」や
それぞれの目標を目指し
日々練習に取り組んでいます!**



亜細亜大学テニス部・男子

寮生　経営学部 3年生

石井智也の1日

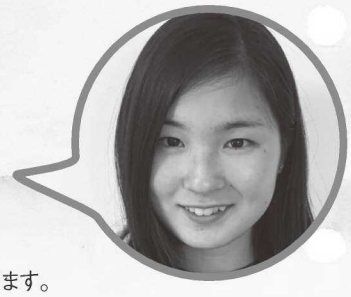


6:45	起床	眠い中頑張って起きて朝ご飯を食べます。
8:45	学校到着&授業開始	自分で履修した授業が始まります。様々な国の人がいて活気溢れています
10:45～12:30	授業(2限)	集中力が欠けてくる時間帯でも集中して授業に取り組みます。
12:30～13:15	昼休み&昼食	友達とご飯を食べてリラックスします。学食の油淋鶏がオススメ。
13:15～15:00	授業(3限)	眠気が襲って来ますが耐えて授業に挑みます。
16:20	日の出グラウンド	到着したらコートの準備をします。部室なども掃除します。
16:45	部活動開始	練習が厳しいですが、自分の課題と向き合って一生懸命練習します。
19:00	トレーニング	筋トレやランニングなどきついですが自分の向上のため気合いで乗り切ります。
20:30	部活動終了	コートの片付けをします。みんなで協力して見回りをします。
22:00	夜ご飯	寮のご飯はとても美味しいです。1日の疲れが吹っ飛ぶくらいお腹いっぱいに食べます。
23:00	就寝	次の日に向けてストレッチをしたりリラックスをしてできるだけ早く寝ます。

亜細亜大学テニス部・女子

自宅生　法学部 2年生

矢崎梓紗の1日



6:30	起床	さっき寝たばかりなのにと思いながら起き上がります。
8:45	学校到着&授業開始	眠さに負けず先生の話をしっかりと聞きます。
10:45～12:30	授業(2限)	フレッシュマンイングリッシュではみんなで楽しく発音練習をします。
12:30～13:15	昼休み&昼食	友達とお話しながら美味しいご飯を食べます。
13:15～15:00	授業(3限)	昼休みから切り替えてラスト授業頑張ります。
16:20	日の出グラウンド	部員の皆が練習出来る環境を整え、協力し合って準備や掃除をします。
16:40	部活動開始	ただボールを打つだけでなく考えながら試合の為の練習をします。
19:00	トレーニング	きついメニューでもみんなで声を掛け合いプッシュします。
20:30	部活動終了	次の日も気持ちよく使えるようにコートや周りの片付けをします。
23:15	夜ご飯	作ってくれたお母さんに感謝し、美味しい料理を食べます。
24:30	就寝	朝が弱い為、次の日の準備をしてぐっすり眠ります。

亜細亜大学テニス部の寮（男女別）

立川北（男子寮） JR中央線 立川駅 徒歩約10分、自転車約5分

●キッチンコーナー IHコンロあり
●ランドリー 乾燥機あり
●駐輪場あり
●大浴場 18:30～翌日8:30
●プライベートシャワー 24時間利用可能
●トレーニングルーム

●門限 24:00

●食事
朝 6:30～8:30（土曜日は6:30～10:30）
夜 18:30～23:30（土曜日は18:30～22:00）
※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない

高尾（女子寮） JR中央線 高尾駅 徒歩約3分

●キッチンコーナー IHコンロあり
●ランドリー 乾燥機あり
●駐輪場あり
●大浴場 18:30～翌日9:30
●トレーニングルーム
●学習室

●門限 24:00

●食事
朝 6:30～8:30（土曜日は6:30～10:30）
夜 18:30～23:30（土曜日は18:30～22:00）
※朝夜共に、日曜日、祝祭日、第5土曜日は食事が出ない

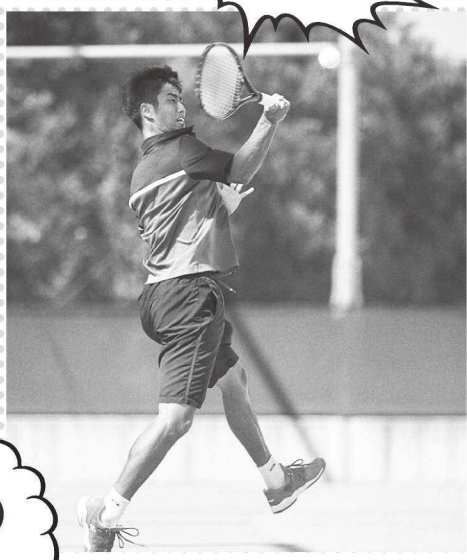
高校生のみんなへ

いっしょにテニスしようよ!

部員からひと言

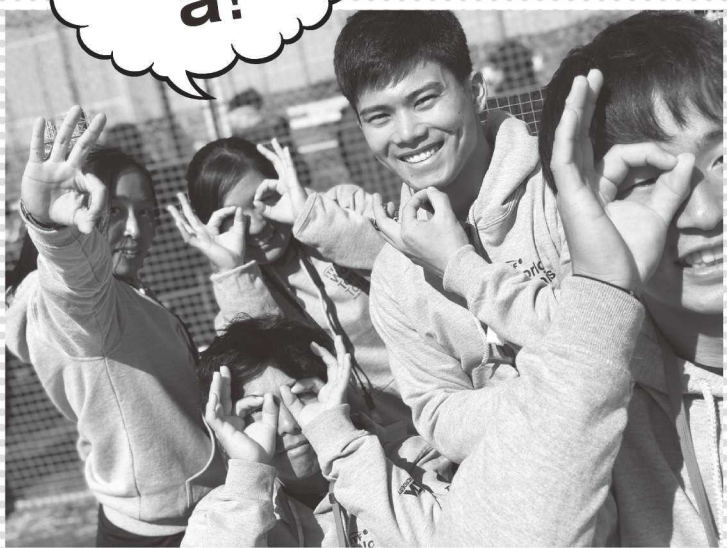
みんなきてほしいな…

なんでやねん!



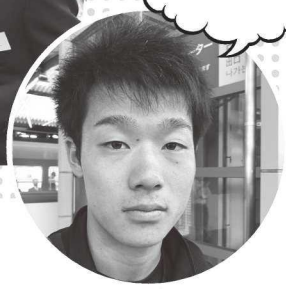
本気になったら亜細亜へ!!

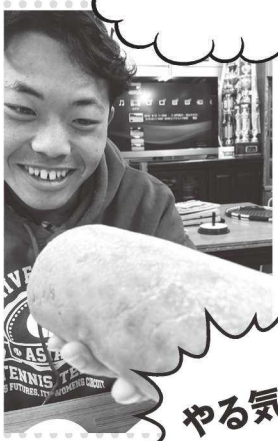
アジアのa!



サイコー!!

なかよし
3人組


楽しいよ!



やる気!!

一球
入魂

Asia University International Open Tennis

学生は、部活と授業の両立を目指す。

面白いもので、テニスの本当に強かった卒業生を顧みると、学業優秀とまではいかなくとも、単位をいつのまにか取っていた選手ばかりでした。岡田岳二、森稔詞、山崎史子、赤堀奈緒、宮地弘太郎、岡本聖子、駒田政史、佐藤博康、宮崎靖雄、宮崎優実など、多くの卒業生の中でも特にレギュラーでタイトルを獲った選手ほどその傾向は強く、目標が明確であり、そのため好き嫌いにかかわらず、何事においても判断と行動は積極的でした。

競技成績だけではなく、プロとして活躍できた選手以外にも、企業で活躍できる卒業生も含め、明確なことは「部活」と「授業」との両立ができることが、すべての成長に繋がっているということです。

成長する選手とそうでない選手の違いは、「必要なこと」と「好きなこと」の区別ができるかできないかです。「将来」に必要なことと「いま」に必要なことを明確に理解して行動できる選手こそ、成長する選手です。

部活ではまず、新１年生に対して、11月の入試後にオリエンテーションをし、12月までに「4年間」と「今年」の目標を16ページにわたる「自己発見ノート」に書かせることにしています。自分のテニスや将来を確認させ、自分を気づかせる第一歩です。次に年末の合宿に参加し、そこで「今の自分」と「今後の自分」に必要な体力、技術、精神力の確認を、私たちといっしょに行ないます。

そして2月～3月の2ヵ月合宿を通じて、１年間の準備を徹底的に行なうこととしています。肝心なのは“自己の選択”ですから、練習環境や指導者がどんなに指導しても、最終的に判断し、実行するのは学生本人です。流されず自分の将来を見据えて選択できたものが勝利をつかみます。

そのときに必ずといっていいほど“教養”が大切になります。テニスはミスのゲームであって、自分本位の試合は、レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きの中で“無理”や“無駄”が通用しなくなります。効率性や確率が大きな勝利のウエイトを占めてきます。そこでミスをどのように修正するかの能力が試されるわけです。

部活と授業の両立ができない選手はバランスを失い、「相手を知ること」も「自分も知ること」も「テニスやゲーム状況を知ること」も、そしてそれらを「説明すること」もできず、修正を失い自滅していくことになります。

テニスは実に正直で、バランス感覚をもたない選手には勝利をプレゼントすることはありません。ですからテニスの競技力に、まさしく部活と教養はプラスに働くのです。文◎堀内昌一

武蔵境
むさしさかい
東小金井
Higashi-Koganei
Musashi-Sakai

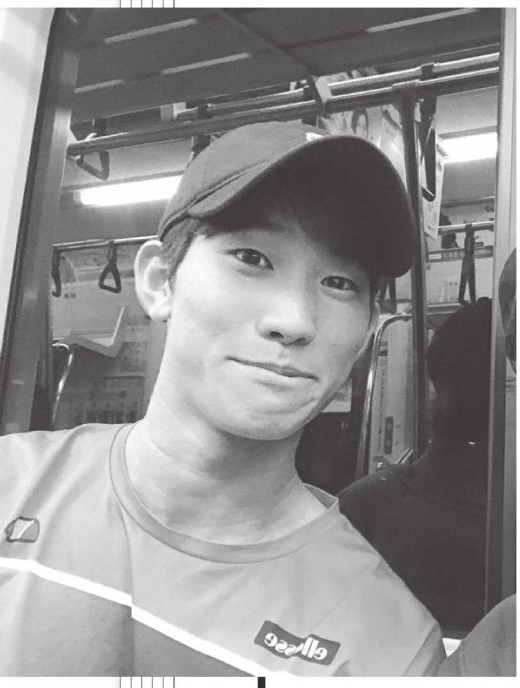
文武両道

むさしひきだ
武蔵引田
MUSASHI-HIKIDA
(東京都あきる野市)
むさしますこ
MUSASHI-MASUKO
あきがわ
AKIGAWA

亜細亜大学

法学部 Law

全学部生 ● 1,509人　男女比 ● 男1,159人(77%):女350人(23%)



古藤嵩大(3年)の場合

「法学部での学び」

私は法学部では、2つの魅力的な事があると思います。1つ目は「多彩な選択肢の中から自分で選択することが出来る」です。法学部には、法律専門職、公務員、企業、現代法文科の4つのコースがあります。どのコースでも法律を学ぶ事ができ、その中で自分の興味があるものを専攻し、より深く学ぶことが出来ます。2つ目は「物事を論理的に考える力を育む」です。社会の基本的なルールとして日常生活に密接に関係するさまざまな法律について学び法解釈に求められる論理的思考力を養うことが出来ます。法学部では1、2年で法学の基礎を学び、3年では基礎を活かして少人数でのゼミ形式で学ぶ事が出来ます。また、多種多様な問題の法的な解決手段を学びながら、幅広く法律の要素を身に付けることで問題解決能力を備えることも出来ます。法学部で学んだ法律の知識と物事を論理的に考える力は、将来どの様な職業に就いたとしても必ず役に立つと思います。

週間スケジュール

	MON 月	TUE 火	WED 水	THU 木	FRI 金	SAT 土	SUN 日
1限目	会社法I	会社法I		民法II	刑法II	練習&トレーニング	練習&トレーニング
2限目	民法I	民法II	公務員教養V	民法I	情報リテラシー		
3限目	オフ			刑法II	スポーツ科学演習I		
4限目		法学II	民事訴訟法	民事訴訟法	練習&トレーニング		
5限目		練習&トレーニング	練習&トレーニング	練習&トレーニング			
17:00〜21:00						フリー	フリー

特徴

基礎学力が高まるカリキュラム
法学部では、全学生がキャリア開発教育を受けています。全学共通科目の「基礎数理」を必修科目とするほか、専門選択科目として「公務員教養」を配置し、各種就職試験に対応しています。

公務員試験にも対応した充実の科目群
各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に対応する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」との連携も図っています。

ゼミを中心とした少人数教育の展開
法律学・政治学の学び方を身につける1年次の「オリエンテーションゼミ」「基礎演習」、卒業研修を通じて学生が自立して専門的調査・分析を行う能力を育成する「演習」(専門ゼミ)など、少人数教育を展開します。「演習」では、卒業論文やプレゼンテーションなどの形式で、4年間の学習成果を形に残します。

カリキュラム紹介

公務員コース
行政事務、警察、消防士など、国家・地方の公務員試験を受験する学生のためのコースです。公務員試験科目を中心としながら、法的要素のある優れた公務員の養成をめざした科目編成になっています。

企業コース
企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業に取引に関する専門科目を中心に、ビジネスに直結する法律科目を配置しています。

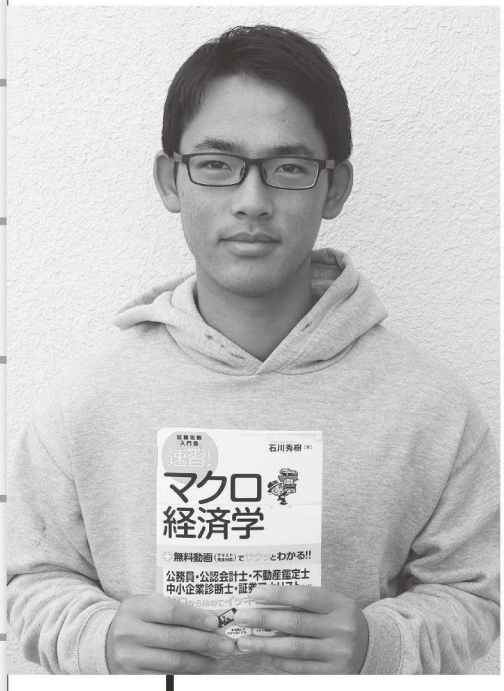
法律専門職コース
裁判官、検察官、弁護士、司法書士、行政書士などの専門家や法律関連の資格所得をめざす学生のためのコースです。実定法科目をしっかり学習します。

現代法文化法コース
現代社会の多種多様な問題に対して、法的なものの見方、考え方からアプローチできる能力の修得をめざします。亜細亜大学アメリカプログラム(AUAP)や中国の留学機械を活かすなど、より柔軟に履修科目を選択できます。

主な勤務先　積水ハウス／大日本塗料／LIXIL／中国電力／全日本空論／東日本旅客鉄道(JR東日本)／ニトリ／みずほ銀行／ゆうちょ銀行／明治安田生命保険／大和証券／京王プラザホテル／東京地方検察庁／新宿区役所／警視庁／入国警備官

経済学部 Economics

全学部生 ● 1,126人　男女比 ● 男子884人(79%):女子242人(21%)



岡悠多(3年)の場合

「経済を学ぶ」

私の在籍している経済学部は、身近な家計の調査から世界的な経済問題の研究まで幅広く世の中の仕組みを学ぶことができる学部です。経済学部では、会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修を選択することができます。

人々の生活に必要なものを生産して流通させている経済活動を研究対象とし、その歴史や仕組み、法則性についての知識を深めることができます。1年次には経済学の基礎となる「入門経済学」や「マクロ経済学」、「ミクロ経済学」を主に学びます。マクロ経済学では国レベルでの景気動向や経済成長について研究し、ミクロ経済学部では個人消費や企業活動の分析をすることができます。2年次からは自分の関心に沿った専門科目や応用科目を学びます。また、3年次からは希望制でゼミナールに入ることができ、より特定の分野を少人数で教授と研究することができます。

経済学部は、日本の経済を学ぶだけではなく、世界の経済を学ぶことができ、グローバルな人間に成長することができる学部です。

週間スケジュール

	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT	日 SUN
1限目				練習&トレーニング		練習&トレーニング	練習&トレーニング
2限目	経済統計論	経済法	経済学中級英語I		経済外国書文献講読		
3限目	オフ	日本経済論	経済史文献講		スポーツ科学演習I		
4限目		練習&トレーニング	練習&トレーニング	経済史概論	練習&トレーニング		
5限目				オフ		フリー	フリー
17:00〜21:00							

特徴

基礎から応用まで体系的に学ぶ新カリキュラム
1年次から2年次前期まで「入門経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ二年次後期からは自分の関心に沿った選択科目で発展的に学習。経済の深く広い知識を基礎から応用まで系統的に学びます。

将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択
会計・税務・金融の専門家、国家・地方公務員、グローバル社会で活躍する人材など、将来の志望に合わせた理想的な履修モデルを設定し、それに必要な専門科目を開講。進路に合わせた科目選択ができます。

少人数クラスで問題解決型人材へ成長
1・2年次には経済データに親しみながら分析ツールを学び、3・4年次には充実した演習や文献購読で深い専門性と多角的な見方を修得。少人数クラスより、現実社会への応用力のある、問題解決能力の高い人材を育成します。

カリキュラム紹介

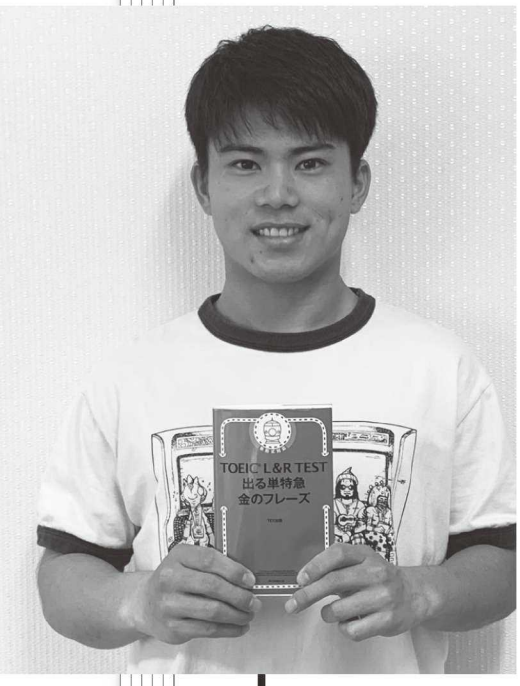
現代経済コース
経済を深く理解できる社会人を目指します。経済学の基礎から応用までを幅広く学べます。

税務・会計インテンシブコース
経済と会計ができるビジネスパーソンを目指します。1年次からコースの基礎科目を学びます。

主な勤務先　みずほ銀行／三井住友銀行／住友信託銀行／積水ハウス／住友林業／飛鳥建設／TKC／ソフトバンク／ソニー・ミュージックエンタテイメント／帝国ホテル／富士通／ワコール／ブルボン／全薬工業／国分／セブン−イレブン・ジャパン／東急ストア／ユニアデックス／みずほインターベース証券／ワタベウェディング／日本郵便

国際関係学部 International Relations

全学部生 ● 1,277人　男女比 ● 男434人(34%):女843人(66%)



吉満優希(4年)の場合

「国際関係学部の魅力」

国際関係学部には2つの学科があります。1つは国際政治、国際法、国際経済などを中心に学ぶ、国際関係学科です。また、国際関係学科は、5ヶ月間の留学プログラムをもっており、実際に世界を体験することができます。2つ目は多文化コミュニケーション学科です。この学科では異文化交流、言語学、観光学、文化人類学を主に学びます。また、学部名にもあるように英語に加え韓国語、中国語、インドネシア語、ヒンディー語、アラビア語、スペイン語の中から1つを必修で学ぶことが出来ます。また、国際関係学部では週に4回のフレッシュマンイングリッシュに加え、週に1日パソコンでイーラーニングの授業を行い英語の基礎から学び、一人一人のレベルに合った授業を受けることができます。国際関係学部は、他学部にはない経験がたくさん出来る学部です。英語や留学、異文化に興味がある方は国際関係学部をお勧めします。

週間スケジュール

	MON 月	TUE 火	WED 水	THU 木	FRI 金	SAT 土	SUN 日
1限目			日本文学	国際英語応用I		中国語初級I	練習&トレーニング
2限目	心とからだの健康学	粉争解決と国際法	国際マーケティング論		国際NGO論	練習&トレーニング	
3限目	日本経済と世界	国際人権法	練習&トレーニング		ビジネス入門		
4限目	東洋史I	オフ		総合ゼミI	練習&トレーニング		
5限目	練習&トレーニング			練習&トレーニング		フリー	フリー
17:00〜21:00			フリー				

特徴

外国語によるコミュニケーション能力の習得
英語の学習を基礎としつつ(TOEIC600点以上を目標)、韓国語、中国語、インドネシア語、ヒンディー語、アラビア語、スペイン語の中から1言語を地域言語として選択し、1年次から本格的に学びます。

フィールドワークによる現地体験型学習
国内外での現地調査(フィールドワーク)を通して、自分の感性で多文化に触れ、課題を葉発見する力を鍛えます。調査後の発表でプレゼンテーション能力の修得にも注力します。

社会人類学、社会学を柱とする多文化理解
アジア、アフリカ、中南米の文化から観光、宗教、多文化インターシップなど多彩なテーマの科目を用意。文化人類学、社会学を軸に、国際社会に役立つ幅広い教養が身につきます。

カリキュラム紹介

経済ビジネスコース
幅広い視野と判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を学びます。

平和政策コース
本コースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力をもった人材を育成します。

国際協力コース
開発途上国の経済発展や貧困、格差、感染症など開発問題と開発援助について、さまざまな角度から学びます。問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先　積水ハウス／ワコール／花王／資生堂／東芝／NHK／JR東日本／全日本空輸／ユニクロ／三井住友カード／ヒルトン東京／第一生命保険／セコム／外務省／警視庁／防衛省／ディスコ／ツツミ／明治安田生命保険／近畿日本ツーリスト／トランス・コスモス／日本郵便

経営学部 Business
ホスピタリティ・マネジメント学科

全学部生 ● 624人　男女比 ● 男子137人(22%):女子487人(78%)

「経営学部とは」

経営学部には、私が所属する「経営学科」と「ホスピタリティマネジメント学科」の2つの学科があります。ホスピタリティマネジメント学科では、2016年4月より従来のクラブ領域を整備拡大しスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」コースを開設しました。ここでは「ホテル&ブライダル」「フードサービス」「パッセンジャーサービス」「トラベル」「スポーツ・ホスピタリティ」という5つのコースについて、「理論実務融合型教育」をベースに少人数によるゼミナール形式の演習を行います。マネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界、スポーツ業界をリードし得るような実践的職業人を養成していきます。

経営学部では、社会に出たときに活躍できるような人材と、海外でも活躍できるようなグローバル人材の育成を目指しています。ぜひ経営学部に入ってみてはいかがでしょうか。

週間スケジュール

	MON 月	TUE 火	WED 水	THU 木	FRI 金	SAT 土	SUN 日
1限目	総合英語Ⅷ		テーマ研究(テニス)	生理学Ⅱ		練習&トレーニング	練習&トレーニング
2限目		表現とメディアⅡ	ホスピタリティ基礎演習	スポーツマネジメント論	ビジネスリテラシー		
3限目	数学入門Ⅱ	日本史Ⅱ	英書購読		総合英語Ⅵ		
4限目	練習&トレーニング	オフ	練習&トレーニング	スポーツボランティア	西洋文学Ⅱ		
5限目				練習&トレーニング	練習&トレーニング		
17:00〜21:00						フリー	フリー

特徴

ホスピタリティ・マネジメント学科の学び

平成28年4月、従来の「クラブ領域」をスポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として設備を拡充します。「ホテルビジネス&ブライダルビジネス」「フードサービスビジネス」「パッセンジャーサービスビジネス」「トラベルビジネス」とともに、5つの分野について「理論実務融合型教育」を展開します。
少人数制によるゼミナール形式の授業を2年次から4年次まで継続して実施することで基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを涵養し、未来のホスピタリティ業界そしてスポーツ業界をリードし得るような人材を養成します。

カリキュラム紹介

ホスピタリティ・マネジメント学科

平成28年4月、従来の「クラブ領域」を、スポーツとホスピタリティを融合した「スポーツ・ホスピタリティ」として整備拡充しています。基本的なマネジメントスキルとホスピタリティマインドを学び、未来のホスピタリティ業界、そしてスポーツ業界をリードし得る人材を養成していきます。

主な勤務先　東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール
みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

経営学部 経営学科 Business

全学部生 ● 1,582人　男女比 ● 男子980人(62%):女子602人(38%)

大野一真(4年)の場合

「将来の目標のために」

私が在籍している経営学部経営学科は1年次には経営学や簿記原理など基礎になることを学ぶことに加えて、レポートの作成に必要な技術を学んだりします。また、「インタビュー実践」という活動があり、自分が興味のある職業や企業などの話を聞いて、行動する力、聴く力、文章を書く力に加え、社会人としての基礎力も養うことができます。また、「基礎ゼミナール」では、企業や施設等の見学や実地調査などを行う「アクティブ・ラーニング」という活動もあります。このような活動を行うことによって、学生が将来、役に立つためになにが必要で今なにをしなければいけないかが明確になっていき、自分自身の役に立つと思います。2、3年次には、専門的な学問に入っていき、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理するノウハウを学んでいきます。経営学部経営学科は企業の第一線で活躍する経営者から経営学を学ぶ「トップマネジメント特別講義」があります。実際、日本のトップの企業がどのような思考で政策を練っているのかなど直接聴くことができます。

皆さんも是非、一緒に学びませんか。

週間スケジュール

	MON 月	TUE 火	WED 水	THU 木	FRI 金	SAT 土	SUN 日
1限目	練習&トレーニング	女性学	練習&トレーニング	プログラミング言語I		練習&トレーニング	練習&トレーニング
2限目		オフ		マクロ経済学III	マクロ経済学I		
3限目			フリー	日本文学	練習&トレーニング		
4限目	フリー			練習&トレーニング			
5限目						フリー	フリー
17:00〜21:00					フリー		

特徴

聴く力を養う「インタビュー実践!」
オリエンテーション・ゼミナールでは、産業界で活躍する企業人への「インタビュー実践!」を導入。就職意識を高めるとともに、大学でなにを学ぶべきかについて先人の知恵を学びます。1クラス約15人の小人数制のゼミナールです。

行動力と主体性を養うアクティブ・ラーニング
基礎ゼミナールでは、約30のテーマの中から学生自身が興味あるテーマを選択し、自ら設定した課題について、実際に現場を訪れたりし調査・分析を実施します。成果をプレゼンテーション形式で発表し、能動的に学ぶ姿勢が身につきます。

就業力を養う実践プログラム
経営学科では企業経営に関する多様な理論を学習しますが、修得した知識を現実に活かすことを目的にトップマネジメント特別講義、インターンシップ、ビジネス体験プログラムといった体験型授業が設置されています。

カリキュラム紹介

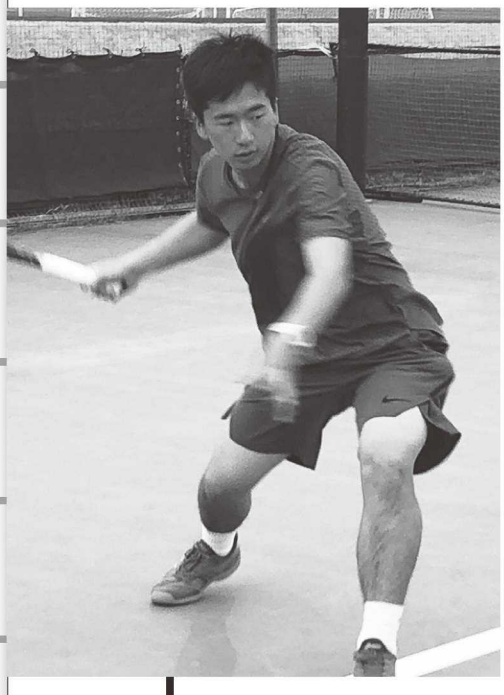
経営学科
「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」という4つの経営資源を管理する。ノウハウを学ぶ。コミュニケーション能力や情報処理能力、数量的分析力といった幅広い教養と、企業経営に関わる専門的で実践的なマーケティング、経営戦略、会計、人材管理の知識を修得します。

主な勤務先　東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

Urban Innovation

都市創造学部

全学部生 ● 589人　男女比 ● 男子362人(61%):女子227人(39%)



浅海裕一(2年)の場合

「都市創造学部とは」

私が在籍している都市創造学部とは、人々と企業・行政・地域をつないで、豊かな都市を創造するための学問を学ぶ学部です。

都市創造学部が目指しているのは、都市に活気と心地良さをもたらす未来の都市を計画し、実践できる人材の育成です。その為に、特徴的な学習をしています。

まず教職員の多くが、元々は企業で働いていました。その為、教科書だけでは学ぶことが出来ない、働く現場における実践的な知識を教えてくれます。

また、IotやビックデータのIot勉強など、これからの未来に必要な勉強をします。これらの知識を身につけることによって、未来都市のあるべき姿を考えるきっかけにもなります。さらには、これらの勉強を深めるために、フィールドワークによる都市の実態調査や留学とインターンシップもあります。

都市や社会のことを詳しく勉強したい方はすごく良い学部だと思います。

週間スケジュール

	MON 月	TUE 火	WED 水	THU 木	FRI 金	SAT 土	SUN 日
1限目	スポーツの科学	放送英語I	ソーシャルネットワーク論	グローバル市場戦略論	リーダーシップ論	韓国語初級III	練習&トレーニング
2限目	行動科学	心とからだの健康学	都市・建築デザイン論	産業政策と産業構造		練習&トレーニング	
3限目	英語V	自然科学入門I	韓国語初級I	英語I	韓国語中級I		
4限目	オフ	練習&トレーニング	韓国語中級III	練習&トレーニング	練習&トレーニング		
5限目			練習&トレーニング				
17:00〜21:00						フリー	フリー

特徴

都市の未来を産業と社会から考える

都市創造学科では、産業と社会の観点で都市を考察し、都市の産業とそこに住む生活者の視点で社会のあり方を考えます。めざすのは、都市に活気と心地よさをもたらす未来都市のビジョンを打ち立て、実施する「都市創造人材」を育成。自治体などが公表するデータや都市に関するSNSの膨大な情報を活用し、最先端の知見を社会の全体像の中で理解するとともに、都市のニーズに合わせて活用する視点も養います。

フィールドワークを重視した双方向型学習

1年次のオリエンテーション・ゼミナールから4年次の卒業プロジェクト、卒業研究や社会調査実習まで双方向型学習を重視したアクティブ・ラーニング科目群が計画的に配置されています。必修科目の「フィールドワーク」では、渋谷や横浜などの街に出て、人々とコミュニケーションをしながら都市の実態を調査し、調査結果の発表も行います。

必修の海外&国内外でのインターンシップ

都市創造学科の留学は、単なる語学研修ではありません。アジア、アメリカなどの世界各国で英語+留学先の言語を学ぶと同時に、海外インターンシップで留学先の産業社会を体験するチャンスがあります。言語・文化の壁を自らの力で乗り越え、現地社会に飛び込むことで、留学先での異文化理解が深まります。

カリキュラム紹介

都市創造学科では、「シティ・サイエンス」を理解するために必要な経営学及び都市社会学領域を中心の科目を設置しています。

【学びのガイドライン】

■都市コンテンツ履修コース

文化、芸術、スポーツなどの多様なイベントから映像、音楽の制作、さらに店舗開発や商品企画まで都市の多彩なコンテンツづくりとその情報発信を担うプランナー、プロデューサーになるための実践的な知識を養います。ビックデータを活用した分析で都市の状況を把握し、企画や制作の現場を知り、人をまとめ、ビジネスとして成立させる「シティ・サイエンス」の新たな領域を開拓します。

■都市デザイン履修コース

優れた都市計画が街の競争力を高め、美しい都市景観が街の魅力を生み出し、都市デザインと一体化したビジネスが都市問題を解決します。このコースでは、そうした「都市を総合的にデザインする」ための多様な知識を学びます。特に「ビックデータの活用力」「スマートシティの構想力」など「シティ・サイエンス」の最先端の知識を実践的に学び、都市問題を解決していく人材に必要なスキルを養成します。

大学に入って、こんなに変わりました!

CASE 1 堀内竜輔(4年)の場合

私が亜細亜大学に進学を決めた理由は、テニスが強くなりたいという純粋な思いでした。2016年の島根インターハイでは一回戦で敗退し、とても悔しい思いをしました。その時、神奈川県のエースだった野口莉央は優勝し、私を含めた他の神奈川代表選手は、3人とも一回戦敗退。初めてのシングルスの全国大会で、全国のレベルの高さを知ると同時に、他の地方の同級生を知ることになりました。2、3日前の団体戦から戦い続けているチームのエース的選手、その上個人戦はダブルスも戦う選手。そんな選手に憧れ、強い集団の中に身を置きたいと思いました。

亜細亜大学は、関東1部リーグに所属しており環境がとても良いです。コートは10面あり、トレセン、400Mトラックもコートのすぐ横にあります。何よりもスタッフに毎日指導してもらえます。スタッフの方々は、間違っている部分を修正することに最大限協力してくれます。学生大会だけでなく、一般の大会や国際大会に引率してもらえます。そのため、どんな試合も無駄にすることなく、次に繋げることが出来ます。

私はインターハイには出場できたものの、最後の県ジュニアではシングルス一回戦負けでした。その時は、ゲーム性や戦術的な部分が欠けていて、体格を活かしてプレーしているだけでした。大学生になるとパワーがつき、より精度が求められるようになります。そのため、考えてプレーするようになりました。この考えてプレーすること、思考力を鍛えることを大学に入ってからは多く学びました。その結果、プレッシャーのかかるリーグ戦でも自分の実力を十分に発揮することができるようになりました。それは日々の練習、トレーニング、そして指導、これらがあったからだと確信しています。尊敬できる多くの先輩が、OBOGの方々を含めたくさんいます。そんな素晴らしい出会いもあります。テニスを強くなりたいと思っている人にはこの上ない部活です。ぜひ亜細亜大学に入学してください。

森 稔詞 コーチ ▶▶▶ から見た 堀内竜輔

長身でサウスポーから繰り出すサーブは最大の武器に加え、ナダルばりの回転量豊富なフォアハンドは、相手の手元をえぐりインパクトを狂わせるだけのクオリティー。タッチも身体的なスピードも世界基準の器の大きさを感じる可能性を秘めた選手。競技を始めるのが遅く、大学に入り進化のスピードは格段に上がった。本人のテニスに関する思い入れは素晴らしいが、時にやりすぎてしまう。今後、沢山の「経験」を積むことにより自身の引き出しは増え「自信」をつけていくことで安定感(技術・精神)が増し、バランスを取れるようになると良いと思う。知っているようで知らないことが沢山ある、プレーヤーとしてとても可能性のある楽しみな逸材。

CASE 2 佐藤葵(4年)の場合

私が亜細亜大学に入学した理由は、テニスをする上で環境や設備が整っていることや、高校生の頃に戦績が無かった選手がインカレや関東大会に出場し成長出来ることに魅力を感じたからです。高校卒業後の進路を考えた時に、将来トレーナーやコーチになりたく専門学校に進学することを考えていました。

しかし、高校三年生の大会ではインターハイ決め、全日本ジュニア決めで負けてしまい、個人戦で全国大会に出場する事が出来ず悔しい気持ちと個人戦で絶対に全国大会に出場したいという気持ちを強く思い亜細亜大学に入学しました。

高校生の頃までは、コーチからのアドバイスを一生懸命取り組むだけでした。しかし、亜細亜大学に入学をして、自分で考えることや仲間同士で何が足りないか指摘し合い、自分自身のテニスに向き合う時間が増えました。また、ナイター設備のある10面のテニスコートはもちろんのこと、沢山のウエイトマシンのあるトレーニングセンターや陸上競技場、宿泊施設もあります。他の大学と比べてみると、毎日の練習に必ずスタッフが熱心に指導してくれます。JOPの大会や海外遠征にも足を運んで下さり、細かくアドバイスを頂けるので個々成長出来る素晴らしい環境が整っています。

私は2年生の時に腰の怪我をしてしまい思うようにテニスが出来ず悔しい思いをしました。また、仲間と差が付いてしまう事に焦りや不安を感じました。しかし、怪我をしたからこそ改めて自分と見つめ直す時間も増えました。復帰してからは関東学生やインカレに出場するという目標を立て、日々部活に取り組んでいます。その結果3年生の時にインカレに出場することが出来ました。勝ち上がるためにはもっと厳しい練習やトレーニングを行い、怪我をしない体を作ることが必要だと感じました。今年が最後の年となりますが、自分自身に妥協せず良い結果を残せるように日々頑張りたいと思います。高校生の皆さん、私達と大学日本一を目指して行きましょう!

長久保大樹 コーチ ▶▶▶ から見た 佐藤葵

高校時代は関東大会出場に留まっていましたが、遂に全国大会への出場を果たしました。小柄な彼女ですが、ダブルハンドから放たれる力強いショットに魅力があり、ダブルスにおいては果敢に飛び込んで行くことのできるアグレッシブな選手です。しかし、テニスは攻撃するだけでなく、コートを走り回り、時として我慢強く守り抜く力が必要となります。その点が彼女の最大の課題でした。如何に冷静に考え、試合の流れを見極め、正しい選択ができるのか…大学入学後は、ただ単にボールを打つだけでなく、「テニスについて深く考える」時間持ち、徐々にですが形となって表れ出しています。まだまだ道半ば。これからもこの結果に甘んじる事なく、前へ前へと突き進んでくれる事を期待しています。彼女の成長はまだまだこれからです。

CASE 3 権藤卓巳(3年)の場合

私が亜細亜大学に入学した理由は、ジュニア時代の戦績が少ない選手がインカレや関東学生の大会で多くの成績を残していると聞き、ジュニア時代に関東大会や全国大会に出場する事が出来なかった自分も頑張りたいと思ったからです。そしてテニスに対して真剣に向き合うことができる環境や設備が整っている亜細亜大学なら強くなれると思い、入学を決意しました。

ジュニア時代は、コーチの指導通りに練習を行っていただけで練習やトレーニングに対してあまり深く考えていませんでした。しかし亜細亜大学に入ってからは、テニスコートはもちろん、トレーニングセンターや陸上トラックなど本格的に練習やトレーニングに専念出来る環境で、部員全員で王座やインカレという目標に向けて真剣に練習やトレーニングに取り組む様になりました。自分達で練習メニューを考え、出来ない所があれば学生同士でアドバイスや意見を言い合い、チームとして高め合う事でテニスに対する自分の意識も変わりました。又、スタッフの人数も多く、堀内監督をはじめ森コーチ、長久保コーチから技術や戦術を教わり、今まで知らなかったテニスの知識や戦い方を知る事ができます。自分で自分の事を理解して、出来るまで練習をする事や細かくテニスについて学び真剣に向き合う事で自主性や考える力が身に付きました。以前より試合中も冷静に考えてプレー出来る様になり、2年目の全ての学生大会で本戦に出場する事ができました。

そして亜細亜大学は、学生大会だけでなくJOP大会やITFなど海外の大会にも多く挑戦する事ができ、普段とは違った環境で様々な選手と試合をする事で貴重な経験を積む事ができます。監督やコーチも引率をして下さり、細かくアドバイスなどをして頂けるので新たな課題や練習計画を明確にして次の試合や大会に向けて取り組む事が出来ます。

亜細亜大学テニス部ならこれからテニスを頑張りたい人や、今まで勝てなかった人もチーム全員で高め合い、成長できる場所です。ぜひ亜細亜大学で一緒に強くなりましょう！

森 稔詞 コーチ ▶▶▶ から見た 権藤卓巳

フォアハンド・バックハンドともにダブルハンドという数少ない選手の一人。フォアハンド・バックハンドを攻撃の起点と出来る選手でオールラウンドなプレーヤー。目に見えづらい試合の流れやゲームに対する感覚に優れている。大学に入り、細々としたテクニックを磨いている最中。その中でも大きな課題はサーブの改良である。自身のゲームスタイルに確実に大きなアドバンテージになるため日々努力を続けている。一見人見知りをするようなタイプではあるが、テニス同様、噛めば噛むほど味が出る人間味を兼ね備えている。さらに辛抱強さと身体的な強さが加われば、これからの成長には楽しみしかない。

CASE 4 伊藤さつき(2年)の場合

私が亜細亜大学に入学した理由は、テニスにおいて強くなる為の環境が整っていると感じたからです。コート面数が豊富な上に、トレーニングセンターや陸上トラックなどの設備も充実しており、又、他大学と比べjopの大会や海外の試合にも挑戦出来る所が魅力的でした。高校生の時の私はテニスに対しての意欲があまり無く、練習やトレーニングを妥協してしまう事も多々ありました。その結果、長時間の練習も時間だけが過ぎてしまう事が多く、団体戦やダブルスでは日本一という結果を残せたもののシングルスでは次第に勝ち上がれなくなってしまいました。このままの状態で上を目指すのは厳しいと感じたので、自分を変える為に大学ではあえて強い人が集まる関東の大学を選び、その中でも環境が整っていて自分を追い込む事が出来る亜細亜大学を選びました。

実際に入学してからは、高校生の時までほとんど取り組んで来なかった筋力トレーニングなどで、いかに自分自身が今まで妥協していたかという事を改めて痛感させられました。普段の練習においても今まではただ言われたメニューを行っていたのに対し、1つ1つのメニューの意図を教え合いながら行う事で、少ない時間でも効率の良い練習を行う事が出来ています。又、スタッフの人数が多くjopの大会に加え、海外の遠征でも選手と共に帯同して下さり1人1人にアドバイスをして頂く事で、試合での反省や課題を明確にする事が出来、直ぐに練習に取り組む事が出来ています。

私は元々身体能力が他の選手に比べると低く、自分自身に甘えていた部分が沢山ありました。しかし、亜細亜大学に入り基礎からやり直す事が出来、トレーニングにおいても先輩方や同期、後輩と支え合いながら行う事できついトレーニングも乗り越える事が出来ました。その結果、団体としては王座に出場する事は出来なかったのですが、個人としては新進のシングルスで優勝する事が出来ました。来年こそはチームの目標である王座優勝を達成出来る様に、日々練習に取り組んでいきたいと思います。

最後に、皆さんもこのチームで一緒に戦い強くなりましょう。亜細亜大学で待っています！

長久保大樹 コーチ ▶▶▶ から見た 伊藤さつき

ジュニア時代から輝かしい戦績を残してきた選手です。彼女の一番の武器は、状況判断の良さにあると思います。時間の無い中でも、最善の策を選択することができ、リスクを追わずに着実にポイントを積み重ね、試合の流れを自分のペースへと引き込み勝利へと繋げて来ました。しかし、近年では自分のパワーを超える選手に対して力負けする事が多く、フィジカル面での課題を抱えていました。大学入学後は、フィジカル面の強化を行い、早速、新進戦にて優勝という結果を残してくれました。彼女の長所を最大限活かしつつ、短所である「体力」という部分にどれだけ真剣に向き合っていく事が出来るかが、今後成長していく鍵となります。厳しい練習やトレーニングを乗り越え、一回りもふた回りも成長した彼女を見れることを期待しています。

2003 Australian Open Review

亜細亜大学、メルボルンへ行く。

「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」

2003年1月、賑わうオーストラリアン・オープンの会場内をウロウロする日本人学生のグループがいた。全国でもトップクラスを誇る亜細亜大学テニス部のメンバー6人。彼らは世界最高峰グランドスラムを「観る」という「意味」を持ってそこにいた。

文◎吉松忠弘　写真◎高野 徹
記事提供◎テニスマガジン（2003年5月号）

Melbourne

学校教育とクラブスポーツ、大学テニスの共存

学校教育とスポーツは、それほど切り離さなくてはいけないものだろうか。昨今の論調は「地域に根ざすクラブスポーツ」を題目に、学校体育を批判し、「学校など」という形容詞で、短絡的にスポーツ強化のためには学校（日本的な記憶・暗記教育のことではあろう）は「害」であると指摘する。

しかし、現実主義者から見ると、そう簡単にことは運ばない。落伍者は「失格」という価値観を共有したい大多数が、あと戻りできない社会を形成している以上、その中で「安定」や「慎重」を求めることは決して責められない（好き嫌いは別として）。

国際通とか海外志向の高い指導者や関係者はその現実を無視し、「もっと海外に」やら「学校なんか」と宣う。ならば世界でも高水準にある約97%の高校進学率、約50%の大学進学率（平成15年度文部科学省の教育指標の国際比較から）は無意味なのだろうか。その率が減り、学校体育がなくなり、義務教育が終了すれば、スポーツにかける人が増えることが得意の「文化の創造」ということだろうか。そして日本国民は本当にそれを望んでいるのだろうか。

壮大なテーマになり、それを解説することがここの本道ではないので割愛するが、現時点で中等教育以上（義務教育以降をこう呼ぶ）の学校を無視はできない。クラブスポーツも裾野を広げることが重要であり、つまり共存するしか日本の将来は見えてこないだろう。

その中にあってテニスも同じ悩みを抱える。特に究極の個人スポーツであるテニスは、若年層からの強化が重要視されており、それは学校教育となかなか相容れない。高校までなら18歳以下というジュニア枠に入り、まだ救いはあるだろう。しかし大学のテニスは、日本でもっとも忘れ去られた存在である。日本のテニスには、ジュニア、社会人、プロという構図しかないようにも思える。

ただ、この先、クラブスポーツや学校体育の共存を考えるなら、大学テニスを無視するわけにはいかない。そして大学テニス自身も、自ら動き出す必要性がある。今年のオーストラリアン・オープンで、亜細亜大学テニス部がとった「観戦」という行動は、文字にしてみると他愛のないことだ。しかし、少なくとも共存への小さな一歩だったことだけは確かである。

選手とコーチに必要な目標に対する逆算の理論

音頭取りは、OBで昨年（2002年）の4月からコーチに就任した森稔詞だった。森はグランドスラム本戦出場を経験していないが、予選には数回チャレンジしている。その自分より才能がありそうないまの大学生が、手をこまねいているのが歯がゆかった。

「本気でチャレンジすればできないことはない。できないと決める方がおかしい。だったら行ってみようと。僕自身もいまのグランドスラムを見ていなかったから、学生全員にメールを出して、自費だけど行こうと誘った」

自費の有志なので遠征ではない。集まったのは、男子で昨年インカレ・ベスト４の宮崎靖雄、同ベスト８の比嘉明人、01年関東学生新進戦ベスト４の平良和己、女子で01年インカレ・ベスト４の北崎悦子の４人である。

しかし、この４人に森、堀内昌一総監督を加えた６人がオーストラリアン・オープンに来て、観戦して帰ったというだけなら、残ることは稀薄に違いない。「驚き」や「感嘆」が彼らを揺さぶるに違いないが、それだけだ。時間が経てば、少なからずとも消滅する。まして20歳代は、精神よりも実体験だ。物理的な接触に優るモノはない。森は、その体験を学生たちにさせた。宮崎、北崎を予選出場に挑戦させ、宮崎は予選のサインアップまでたどり着いた。

「運営の人たちが、何でおまえなんて来ているんだって、冷たい視線なんですよ。このランキングでよくここまで来たなって。あー、ここは実力世界なんだなと、ランクを上げないとダメなんだなと思いましたね」

宮崎の世界ランキングは１１１６位。もちろん出場には、通例なら箸にも棒にもかからない。しかし今年の予選は欠場者が続出し、出場者の最低ランキングは９０４位にまで下がった。チャンスは本当に目の前に転がっていたのである。しかし、そこに選手がいなければ出場できないのは自明の理だ。

北崎はエントリーをしていなかったため、予選のサインアップはできなかったが、予選初日にラッキールーザーのサインアップができた。

「初めは自分なんかがサインアップしていいかなって思ったんです。引き気味でしたね。でも、試合を見ていたら、何倍も努力しないとダメだけど、私でも何とかなると。それに、ここに自分が立っていたらと思いながら、試合を見ることができたのは大きかったんです」

比嘉と平良は、先のふたりのような体験はできなかったが、会場で練習を決行する。もちろん厳密に言えば、選手でもない人間がコートを使用するのは違反だ。予選の最終日に、朝７時半から空いているコートを見つけて４人で練習をした。そのぐらいの厚かましさがなければ、世界のテニス界ではやっていけない。

「心構えからして、ここで戦っている選手は違う。勝つ意識や執念がすごい。技術とかいう以前の問題で、気持ちから入れ替えないと」

比嘉は話す。平良も同様だ。

「僕と同じくらいの身長の選手もいて、できないことはないと。でも、彼らは勝たなきゃ食えないんだという意識がすごい。日本ではありえないですから」

彼らは帰国する前の日、念願だったセンターコートに初めて入り観戦した。

「ここに立てるようにならないとダメなんですね」

北崎は、こうつぶやいた。

堀内監督はもっと早くこれを見ていたら、と少し悔やんだ。堀内監督は世界を知らないわけではない。テニスでアメリカの大学に留学し、また日本のジュニアの監督としてもウインブルドンに遠征したりしている。しかし大学の教員、監督という枠は多くのしがらみを生み、実質的に世界から遠ざかっていたことも確かだ。

「実際にそこにいないと逆算できないんですね。カレッジに行ったら世界に行けないなんて言わせたくない。そのためには選手もコーチも逆算じゃないとダメなんです。関東学生取ったらインカレ。インカレ取ったら全日本というプラスじゃなくて、グランドスラムがあって、そこに行くにはインカレや全日本があるという逆算じゃないと。そのためには、グランドスラムを実感していないと言えないし、選手も実感できないんですよ」

わずか10日ほどの滞豪だった。しかし６人が感じ、肌で触った日々は誰にも教えられないことである。そして問題はここからなのだ。この10日間が実を結ばなければ何も意味はない。

杉山愛は、27歳にしてテニス人生最高の瞬間を、ティアⅡのステートファーム女子クラシックの単複優勝で飾った。遅いということはない。そして、それはステップを踏み出さなければ、いつまで経ってもやってこない。

堀内昌一総監督

「僕が監督になったのは大学王座やインカレを最終目標にするためじゃない。大学は自分の力を伸ばすことが目標。そのためにはもう一回、自分がいろいろなことを見てみないとダメになる。原点に返ってみるとそこには夢があったはず。だから選手にはカレッジに夢を持って来てほしい。その夢を与えるのが僕ら自身の挑戦でもある」

森 稔詞コーチ

「大学3年のときにJOP大会で貯めたお金でオーストラリアとアメリカのサテライトに初めて行った。そのときに感じたことを同じいまの大学生に味わってもらいたいと思っている。頂点を見ていれば、この先リアルに映像として残るはずだから」

北崎悦子（2年）

「雑誌とか見ていて夢の舞台だったのが、現実に観て気持ちの面では変わりがないと感じた。（グランドスラムは）日本とテニスを盛り上げる環境が全然違う」

平良和己（2年）

「周りの雰囲気が違って、観客もすごいし、圧倒された。選手たちのボールを打つタイミングも全然違うし、ミスで決まらない」

宮崎靖雄（3年）

「（オーストラリアに来て）テニスに対する考え方が変わった。特に本村（剛一）さんに勝ったエスクデは、ショットは同じなのに体力や展開が違う。すごく印象的だった。みんな宿舎ではラケットに鉛を貼ったりして、“これで外国選手の重い球に負けないかな”などと言ったりしていた」

比嘉明人（2年）

「ジャパンオープンくらいしか見たことがなくて、そのジャパンオープンでもすごいと思ったのに、こっちはそれ以上だった。もっと体とか強くしないと戦えない」

2019 Korea & Australia ITF Expedition Report

ITF海外遠征レポート

韓国〈チャンウォン〉

●遠征期間：1週目／2019年10月13日（日）～10月15日（火）
予 選／2019年10月15日（火）～10月20日（日）
●遠征先：韓国／Changwon
●参加学生：高見澤岳飛（法4）、熊坂拓哉（法4）
●引率者：なし

戦 績

【日程】予選:10/13-15 本戦:10/15-20
■高見澤岳飛
予選1R ○ 6-0.6-1 Mu Fu Tsai(TPE)／SF ○ 6-2.1-6.10-4 Jun Sang Park(KOR)／F ○ 3-6.6-3.10-6 Seongbin Sim
本戦1R ● 0-6.1-6 Sanhui Shin(KOR)
■熊坂拓哉
予選1R ○ 6-4.6-3 Samuel Beren(USA)／○4-0(Retired) Seong Heon Hong(KOR)／○ 4-6.6-2.10-1 Sang Ha Yeon(KOR)
本戦1R ● 4-6.3-6 Kasidit Samrej(THA)

Report 1 高見澤岳飛 4年

私は、去年同じ時期にタイの大会に出場しようと現地まで行ったのですが、出場することが出来ませんでした。出られなかった悔しさと、海外の試合で外国人選手と試合をしたいという気持ちがあり、この大会に出場することを決めました。

自分たちがいつも練習している弾まない球足が速いコートと違って、ボールがよく弾んで球足が遅いコートだったので、自分がいつも打っている打点よりも高いところで取らされることが多かったので、慣れるまでに少し時間がかかりました。

外国人選手はとにかくパワーがすごいと感じました。日本人とは体つきが違い、とにかくフルスイングをしてボールを潰し、回転量の多いボールで攻めてくる印象が強かったです。本戦1回戦では、0-6.1-6で負けてしまい相手選手はこの大会で優勝しました。フィジカルや、ボールの質はもちろんですが、相手に対する戦術や走らされた時の精度がとても高く、何をしても相手にポイントを取られるという印象があり、自分からのミスが増えてしまっていました。とても多くの違いがあり、日本では感じることの出来ない世界を体感することが出来ました。

このような貴重な経験をすることが出来たのは、家族、スタッフの方々など周りのサポートがあってだと思います。感謝の気持ちを忘れず、この経験を活かして自分がもっと成長できるように日々努力します。

オーストラリア〈パース&ミルデューラ〉

●遠征期間：1週目／予選 2020年2月16日～18日　本戦 2020年2月18日～23日
2週目／予選 2020年2月23日～25日　本戦 2020年2月25日～3月1日
3週目／予選 2020年3月1日～3日　本戦 2020年3月3日～8日
●遠征先：オーストラリア／Perth（1.2週目）、Mildura（3週目）
●出場大会：W25 Perth（1.2週目）　W25 Mildura（3週目）
●参加学生：松田美咲（法4）
●引率者：なし

Perth

Mildura

戦 績

1週目 (Perth)
■シングルス
予選1R○6-0.6-0Culley Ruby(オーストラリア)／SF○6-1.6-2Schumacher Grace(オーストラリア)
F○6-4.6-3 Dikosavljevic Andrea(オーストラリア)
本戦1R●3-6.4-6 Bains Naiktha(イギリス)

2週目 (Perth)
■シングルス
予選1R○6-3.6-1 Dikosavljevic Andrea(オーストラリア)／SF○6-0.6-0 Fairclough Lily(オーストラリア)
F●6-2.5-7.9-11Fanning Emily(ニュージーランド)
■ダブルス(パートナー: Wu Ho Ching(香港))
本戦1R●4-6.3-6Hourigan Paige･Tere-Apisah Abigail(ニュージーランド･パプアニューギニア)

3週目 (Mildura)
■シングルス
本戦1R○6-3.6-4本藤咲良(マサスポーツシステム)／2R○3-6.7-5.6-3Popovic Ivana(オーストラリア)
QF○6-7(3).6-4.6-3 Ramialison Irina(フランス)/SF○7-5.7-6(7)Rodionova Arina(オーストラリア)
F●6-7(2).1-6Zakarlyuk Marianna(ウクライナ)
■ダブルス(パートナー: 細木咲良(原商))
本戦1R○6-0.6-4 Di Tommaso Chiara･Marshall Amber(オーストラリア)
QF●2-6.6-0.9-11小関みちか･上田らむ(橋本総業ホールディングス･ノア･インドアステージ)

Report 2 松田美咲 4年

今回、私は授業のないこの期間でWTAランキングを上げる為に、オーストラリア遠征に行くことを決めました。3週目は会場も違い、サーフェスも今までプレーしたことのない芝でした。1.2週目は自分のテニスが出来ていたものの、相手の粘り強さに我慢出来ず自分で自分のプレーを崩してしまいました。その反省を3週目が始まるまで自分なりに考え、3週目は「自分がどうしたい」ではなく「相手に対して自分がどうするべきか」を考えることを徹底しようと思いました。初めての芝でいつものプレーが出来ない中、冷静さを保ち相手を見ることの大切さに気付きました。特に私が見ていたのはポイント間の相手の態度でした。相手にポイントを取られ続けても、自分がやるべきことは変えずにとにかく走りました。そうすると相手が先にペースを崩し、ポイント間に気持ちの乱れが態度に表れるようになりました。そこまで自分がしたいプレーを封じていたことで相手が崩れたことにより、自分が本来したい攻撃的なプレーが出来る様になりました。決勝戦まで進めたものの、最後はプレーでの選択ミスが多く、最後の1戦を勝ち切ることが出来ず悔しさが残った遠征になりました。しかし、初めての芝での大会で準優勝が出来、自信に繋がりました。

この結果を残せたのも日頃からサポートして下さっている方々のおかげだと思います。更に上の結果で恩返しが出来る様に、これからも勝つための努力をして行きたいです。

卒業生、それぞれの道

▸▸▸指導者へ── To a Leader

高田 充

（JTAナショナルチーム・ナショナルコーチ）

監督に言われてきた「自分を信じ続けること」──選手たちに伝えながら、世界にチャレンジしていきたい

平成3年度卒業の我々は堀内監督が亜細亜大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいただいていましたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亜細亜でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督にお願いして受験させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の衞藤学長からもテニスが強いだけではなく、人間力を高めるという考えのもと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2、3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直逃げ出したくなることもありましたが、それを乗りきることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で（ひとりだけ）敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうこともできました。自分の夢、目標に「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんどない私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亜細亜大学で経験した4年間、そして堀内監督から言われてきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する──言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに帯同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に言われてきた、「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たかだ・みつる◎1969年9月26日、沖縄県生まれ、亜細亜大学出身。朝日生命退社後、2000、02年全日本選手権複優勝。03年岩渕聡プロのツアー同行、03～06年杉山愛プロのツアーに同行。03、04、07、08年とフェド杯日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコーチ、男子ナショナルチームの指導にあたる。（公財）JOCアシスタントナショナルコーチ、（公財）JTAナショナルチーム、ナショナルコーチ（男子担当）。S級エリートコーチ

駒田政史

（竹内庭球研究所）

自らの決断で選んだ亜細亜大学、間違っていませんでした

私が亜細亜大学進学を決めたのは、堀内監督からの1本の電話でした。高校2年生の夏に父親を亡くした私は、その後、糸の切れた凧のように、自分がどこに向かっているのかさえ理解しておらず、正直、自分の将来について真剣に考えていませんでした。

ただ、“なんとなくテニスが好きだからテニス活動がしたい”と漠然な思いをもっていた私に対して、堀内監督の「テニスが強くなりたかったら亜細亜大学に来い」という電話越しからの情熱的な言葉。私に亜細亜大学入りを決意させるのに時間はいりませんでした。

実際、大学に入学すると、同じ学年にいた多くのライバルたちといっしょに過ごす刺激は、私に大きなモチベーションを与えてくれました。今でもよく憶えているのが、合宿での朝から夕方まで練習をして疲れきったはずなのに、夕食後にナイターのフリー練習を欠かさず行なっていたことや、部活が休みの日に学校の近くのコートをみんなで借りてお金を出してまで練習していたことです。

また、いま考えると当時嫌だった、先輩後輩の上下関係を経験したことは、その後の活動において、コミュニケーション能力や忍耐力といった、社会に出てからの重要な能力をつける修行期間であり、大きな財産となっています。

私は運よく大学4年のときに全日本選手権で複優勝（／佐藤博康）という結果を出し、ミキプルーンに就職できました。ミキプルーンではプロのような活動を8年間送ることができました。その後はナショナルコーチとして日本代表選手の強化に携わり、10年目になります。

人生は“自分の決断”でどんなことでもできると思っています。しかし、多くの選択肢を自分だけでは探し出すことができません。もし、この文章を読んでくれた高校生、ならびに両親、コーチがおりましたら、亜細亜大学を選択肢のひとつに入れて、真剣に自分の人生を考えていただければと思います。

こまだ・まさふみ◎1973年3月30日生まれ。愛知県出身。名古屋高卒。90年U18全日本ジュニア複優勝。91年亜細亜大学入学。94年大学王座優勝。全日本選手権複優勝。95年ミキプルーン就職。ミキプレーンで選手活動を8年間行ない、JOP（現JTA）最高単9位。その後はコーチへ転身、現在は竹内庭球研究所をベースに指導者の道を歩む。日本テニス協会ナショナルコーチ、16歳以下女子日本代表監督。S級エリートコーチ

西岡靖雄（ツアーコーチ）

出会いは必然 大事なのはそれに気づくこと

私は、亜細亜大学を卒業後、弟の西岡良仁をはじめ、様々なプロ選手のコーチング、　ヒッティング、サポートをしています。ですが、私もプロを目標にして生きてきました。現実は厳しく、結局、結果を出すことができずに私は夢を諦めました。今までは明確な目標があった人生でしたが、急にそれがなくなったことで、自分のことが全くわからなくなりました。自分は何がしたいのか、何ができるのか、何のために生きたいのかわからなくなっていたのです。そんな時、良仁が「一緒にツアーを戦わないか」と言ってくれました。そこで初めてツアーコーチとしての経験をすることとなったのです。私にとっての第一歩でした。そこで感じたことは、「自分から求めることが当たり前の世界」ということです。ツアーの現場では誰も与えてはくれません。だからこそ、自己アピールがMustな世界です。自分から行動しなければ、何も得ることができないということを知りました。同時に、とてつもないやりがいも感じました。プロ選手のコーチは、元プロ選手や有名な選手にしかできないといったイメージがあると思います。実際ツアーコーチとして、この年齢で活動している人はいないと思います。でも、私は敢えてそれにChallengeすることを決めました。そのきっかけとなった言葉が、There is no time like the presentです。直訳すると、思い立ったが吉日という意味になります。今やろうとしていることは、私にしかできないことかもしれないと思い、気づいた時には走り出していました。それから、私はあらゆる現場を経験させてもらいました。必死に何かを成したい、学びたいといった姿勢は必ず誰かが見てくれています。私はたくさんの方々に手を差し伸べていただきました。格好悪くても、周りから批判されても、自分自身を信じること。やりたいことに誠実であることが、きっと誰かの心に響くと私は思っています。出会いは必然です。必要な時に必要な人と出会うようにできています。きっと　それに気づくことが大事であり、難しいことだと思います。だからこそ、選んだ道を信じていくしかないのです。そしていつか、やってよかったと思える人生でありたいと思います。　「今」を、そして「出会い」を大切にしてください。

にしおか・やすお◎1993年10月8日生まれ。三重県出身。四日市工業高卒。12年亜細亜大学入　学。16年に本大学を卒業後、ツアーコーチとして活動中。西岡良仁、澤柳璃子のサポートをはじめ、プロ選手、ジュニアの強化、育成に関わる。グランドスラム、ツアー大会の帯同経験あり。17年4月より、スペインのバルセロナにあるテニスクラブ「Club　Mollet」を拠点に、ヨーロッパ、クレーコートのテニスを学ぶ。

岡村麻千香（旧姓 辻）（株式会社ツカダプランニング 浦和パークテニスクラブ アスリートアカデミーアドバイザー）

堀内監督の言葉「大学生は未来への通過点に過ぎない」を胸に秘め信じ続けた自分への挑戦。

私が高校3年生になると、両親もコーチも含め周りの人に私の将来性や可能性など測られているように感じました。もっとテニスが強くなりたいのに、お世話になった方の薦めやつながりのある大学などを紹介され、何が正しいのか分からなくなっていきます。大切なのは自分が納得いくまでやりたいかどうかだと思いました。高校3年生の時見学させていただいた、先輩方の練習する姿、堀内先生のご指導と環境作り・理念に感動しました。

当時、受かる見込みが低いと思いながらも受けたセレクションには、各地域のトップ選手がいて私はビリだったと思います。

セレクションから合格発表までに全日本選手権があり、セレクションではビリだから受かるには予選通過するしかない思い、死に物狂いで試合に臨み、無事本戦に上がりました。その後、合格の連絡が来たときは、4年間悔いのないようにしようと心に決めました。

亜細亜大学は他の大学に比べて、インカレ・大学王座などの学生大会以外にJOP大会やITF大会にも挑戦できる機会が多く、堀内先生もコーチも毎日ご指導くださりテニスを磨くには最高の環境でした。

堀内先生は「大学生は未来への通過点に過ぎない。自分に線を引くな。」と常におしゃっていて普通ならインカレや大学王座を重視し、4年間で終えるのかなと思っていたところ、こんな私でももっと先の夢を見ていいのかな、と思い始めました。

それから私は今しかできないことを全力でやり、苦楽を共にした仲間と大学王座で日本一になり、就職も日本リーグで活躍できればと考えて朝日生命に入り、5年間戦うことができました。

大学時代を振り返って思うのは、頑張れる環境と指導者・同じ目的を持った仲間がそろってこそ悔いのない時間が過ごせるということです。現在はジュニア育成に携わっていますが、ジュニアを卒業してからが本当のスタートだということを20年間変わらず伝えています。

私が高校3年生の皆さんに何かお伝えできるとしたら、スタートはこれからだ、ということです。本気で強くなりたい人が本気でテニスができる環境に身を置くことが大切だと思います。是非、亜細亜大学で自分自身にチャレンジしてください。

おかむら・まちか◎1971年5月14日生まれ。石川県金沢市出身。石川県星稜高校・朝日生命実業団5年。87～89年インターハイ・全日本ジュニア単複出場。88～97年全日本選手権出場。91年インカレ複8・93年単ベスト32。91年石川国体準優勝。日本リーグ3位。朝日生命退社後、浦和パークテニスクラブにて選手育成コースを立ち上げ活動している。

▸▸▸指導者＆教師へ── To a Leader & a Teacher

宮地弘太郎

（大阪体育大学専任教授／テニス部監督）

学生時代の私の夢は”日本のテニスを変える！“ことでした いまは大学出身者がグランドスラムに出場する──その夢をもって指導しています

1995年卒業の宮地弘太郎です。私の同期には、昨年引退した本村剛一プロと２つ下に岩渕聡プロがおり、柳川高校時代から良きライバルでした。彼らはプロの道を選択し、私は大学進学の道を選択。亜細亜大学入学当初から、「大学テニスに留まらない競技生活を送る」ことをテーマに４年間を過ごしました。

なぜ亜細亜大学に進学したのか──亜大には日本のトップジュニアが多数在籍しており、大学を経由して世界を目指す集団、大学からプロを目指せるというイメージが定着していたことに加え、大学テニスのパイオニアでもある堀内先生の「大学はさらなる飛躍に挑戦する場所であり、大学からグランドスラムに挑戦する」という考えに共感したからです。

卒業後、さまざまな企業のサポートを受け、約８年間プロテニス選手として、ＡＴＰランキング100位を目指し、世界を転戦しましたが、目標に到達することはできませんでした。

その後、28歳で現役を引退し、指導者の道へ進むことを決意しました。そこでの主たる研究テーマは、硬式テニス（球技／対人／ネットラケット型）のゲーム分析（エリート選手、大学生選手の技術や戦術の様相）や、競技特性に応じた体力組成の分析により効果的な指導方法論を導き出し、大学生選手の技術に関しては縦断的研究を行ない、ドリルの効果も検討していくことを目指しました。

選手から研究者へという転身は、テニス選手では珍しく、テニス漬けで過ごした私がその道に進むことに周りは驚いていましたが、当の本人は、これから新たな人生に向けて30歳手前ながら、胸ときめいていました。私の強みは、実体験で得た知見や、経験で培った実技ですが、現在大学テニスを指導する上でのテーマは、主観的コーチング＋客観的コーチングです。テニスは日々進化し、トレーニング方法も年々変容してきています。現場＋研究からの知見を学生にフィードバックし、大学生からでも世界を目指せる環境整備や、大学テニスの醍醐味を学生に伝えていくことが私の使命ではないかと考えています。

近年、残念なことは高校生プレーヤー、大学生プレーヤーに夢がないことです。大学進学のための『テニス』ではなく、夢の実現のための『テニス』でしょう。私の夢は“日本のテニスを自分が変える！”ことでした。日本のテニスを変える＝大学出身者がグランドスラムに出場すること。そのためには、大学や国内一般の試合だけに留まらず、海外へトライし、さまざまなプレーヤーと対戦し、自分のスタイルを確立することです。いま日本のテニスは世界と拮抗しています。錦織圭選手、添田豪選手、伊藤竜馬選手と世界のトップ選手＝「テニスで飯が食える」時代に突入してきました。これは、先を見据えたＪＴＡの強化活動の成果と思います。私はいまこそ、大学テニスプレーヤーがそこに食い込んでいく絶好のタイミングと考えています。

亜細亜大学時代に培われたもの──『考える』ことが『人間を成長させる』ことに繋がり、上達に『近道』はなく、強くなるには『人と違うこと』を『人の倍努力する』ということを学びました。高校生のみなさん、大学生活はあっという間です。『夢』を持って『夢』の実現に向けて精進してください。

みやち・こうたろう◎1974年2月18日生まれ。広島県出身。柳川高校卒。91年インターハイ団体準優勝、単ベスト8、複ベスト4。92年亜細亜大学に入学。93、95年インカレ優勝。94年全日本準優勝。95年ユニバーシアード銅メダル獲得（27年ぶり）。卒業後プロ転向し、ジャパンオープン・ベスト16。99年全豪予選決勝敗退。元デ杯日本代表。ATP最高位は303位（98年7月）、JOP3位。03年に現役を引退し、日本体育大学大学院を経て、07年4月から現職。ユニバーシアード男子監督。S級エリートコーチ

森嶋 修

（平成国際大学専任講師／テニス部監督）

亜細亜でしか得ることできない"チャンス"があります。

こんにちは。2012年卒業の森嶋修です。私は大学卒業後、日本体育大学大学院へ進学しました。大学院ではコーチング学を専攻し研究を行い、大学院修了後は日体大にて研究員を2年間勤めさせていただきました。今年度(2017年度)からは埼玉県にある平成国際大学の講師として勤務させていただいています。平成国際大学では今年度から新たにテニス部が新設され、テニス部の監督として活動も始まったところです。

私の大学時代を振り返ると、1年生ではボーラー、2年生では審判、3,4年生ではベンチコーチとノンレギュラー街道を突っ走った私でしたが、それでも同じ志を持った仲間と毎日全力でテニスコートを走り回った日々は何にも替えがたい大切な時間です。

私は大学4年間でテニスが大好きになりました。テニスを学び、探究することの面白さはこの部活で学びましたし、テニスを通じて多くの仲間ができることをこの部活で知りました。大学卒業後もテニスに携わっていきたいと思ったのも部活での経験があったからだと思います。偶然にもご縁をいただき大学の指導者として活動していますが、テニスの魅力を伝え、テニスが大好きな学生を一人でも増やすことが私の務めであると感じています。

亜細亜大学テニス部には部員全員にチャンスがあり、取り組み方次第でいくらでもチャンスをつかみ取ることができるのが特徴だと思います。テニスコートの面数やスタッフ陣、豊富な資料など充実した環境が整っており、部員全員の練習時間が平等に確保されています。向上心を忘れず、自分のなれる最高の自分を目指してテニス部での活動に励んで欲しいと思います。

もりしま・おさむ◎1989年4月29日生まれ。長野県出身。長野日本大学高校卒。08年亜細亜大学入学。2010,2011年亜細亜大学国際オープンテニスのメディアチーフを担当。2011年は副将を務める。12年に大学を卒業し、日本体育大学大学院へ進学。日本体育大学研究員を経て、17年4月から現職。

遠藤真理子

（日本大学三島高等学校教師／テニス部監督）

「応援すること」「支えること」はまさに今の私の仕事につながっています

中学の部活からテニスを始め、正直ここまでテニスに関わる人生になるとは思ってもいませんでした。これまで様々な分岐点で大事な決断やたくさんの人との出逢いがありました。中学でも高校でも納得のいく結果が残せず、もっと強くなりたい思うようになりました。

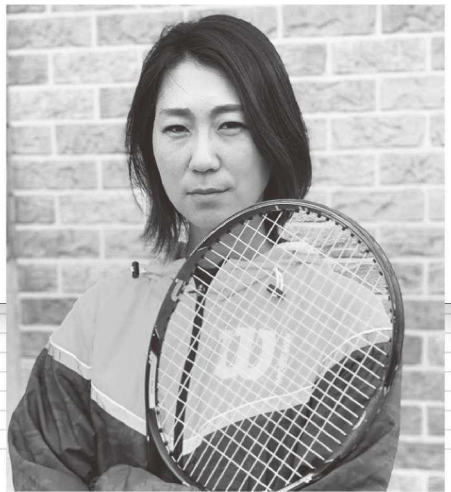
部活でテニスを学んできた私は、日本だけでなく世界に視野を広げた指導者のいる大学に進学を決めました。そこは、本気になれる素晴らしい環境でした。

本気で上を目指す人たちの集まりについていくので必死でしたが、辛く厳しい毎日の中で、仲間と共に味わう感動が何よりも自分を成長させ、強くなれたのだと感じています。そこで得られたものは、テニスの技術だけではありませんでした。テニスクリニックなどを通じて人との繋がり、教える楽しさ、喜びなどを学び経験させていただきました。また、全豪に行き全日本の選手の方たちの合宿に加わり、お金には変えられない価値のある経験をさせていただきました。

現在、教師をやりながらテニス部の顧問をしています。私自身結果を残せたわけではありませんが、不完全だからこそ目的を果たすために何が大切かを伝えられるかと思います。教師なんて1ミリたりとも考えていませんでしたが、亜細亜大学で培ったものや堀内先生との出逢いが私を変えました。テニスの面白さや人に教えることの楽しさそして、仲間と共有することのできる目的があることの素晴らしさを亜細亜大学で教えていただきました。どんなに強い選手でも努力なしでは成果はないということを子どもたちに伝えています。

誰かの下で、どんなに良い環境があっても、何をどのようにしていくか、目的がなければどこにいても同じだと思います。本気になるかならないか、その分岐点は自分の中にあります。テニスを追求し本気になれる亜細亜大学は、自分次第で最高の場所になると思います。

えんどう・まりこ◎1983年7月11日生まれ。埼玉県出身。浦和学院高校卒。01年インターハイ団体ベスト16、複出場。全日本ジュニア18歳以下複ベスト16。02年亜細亜大学入学。05年インカレ複出場。06年大学卒業。社会科教員免許取得。07年日本体育大学で体育の教員免許を取得し、翌年、学校法人明星学園浦和学院高等学校の教師として就任。16年日本大学三島高等学校の教員として就任し、現在に至る。



▸▸▸教師へ— To a Teacher

中村聡利（浦和学院高等学校）

偏差値よりも個性値を大切にする大学で、「個」を磨くことができました

10歳でラケットを初めて握ってから現在までの26年間で、テニスを通じてさまざまなことを学んできました。「感謝をすること」「あきらめないこと」「勝つために最善を尽くすこと」「相手を尊重すること」「チームの一員として役割を果たすこと」など。そして何よりもかけがえのないことは、「テニスを通じて多くの人と出会い、国内に限らず海外の友人もでき自分の視野が広がったこと」です。そんな経験をすることができた場所のひとつに、亜細亜大学があります。

当時は同世代のトップたちとともに、学生時代の大半をテニスコートで過ごしました。好きなテニスに夢中になり、その楽しさを感じ、ときに勝てない自分に悩み苦しんだりもしましたが、そんな日々と向き合いながら過ごせたのも「テニスが大好き」という思いと、堀内監督をはじめとした仲間が亜細亜という環境にいたからだと思います。

印象深いのは、日本一を決める大学王座決定試合に、4年次で挑んだ「王座奪回」。結果、優勝することはできませんでしたが、部員が同じ方向を向き、本気で戦い抜いた準優勝には清々しいものを感じました。

現在は高校教師として教壇に立つと同時に、亜細亜で培った経験を生かし、テニス部顧問として務めています。私の指導の心得の中には、孔子の言葉「水は方円の器にしたがう」があります。これは「人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わる」という意味です。お互いが信頼し、尊重し合える仲間をつくり上げることこそが、私たちにとっての「師」であり「テニス」なのだと思います。だから、指導者は自らを高め、その環境づくりにエネルギーを注がなければいけないと感じています。

最後に、これからの社会を生き抜くためには「個」が問われることでしょう。偏差値よりも個性値を大切にする大学で、自身も「個」を磨くことのできた亜細亜は、誇りのもてる私の母校です。亜細亜の門を突き破り、挑戦し続ける高校生の入学を期待します。私も生徒とともに、挑戦を続けています。

なかむら・あきとし◎1975年12月13日生まれ。山形県出身。日本大学山形高等学校卒。93年全日本Jr.18歳以下単ベスト32。94年亜細亜大学入学。97年インカレ複ベスト32。98年に卒業し、98〜04年までJAMプランニングにテニスコーチとして務め、ジュニア育成に携わる。04年4月から学校法人明星学園浦和学院高等学校に教師として就任し、現在に至る

新谷啓（大阪産業大学附属高等学校教師）

本気になれる環境で、本気で生きることを感じてください

私が亜細亜大学に進学した理由は、テニスに本気で打ち込みたいと思ったことと、自分を大きく変えることのできる環境があると思ったからです。

学生時代は1、2年となかなか思うような結果が出せず苦しい思いをしましたが、3、4年になると試合経験と練習量が増加し、海外遠征（ポルトガル）によって自信がつき、インカレに出場して勝つことができました。なおかつレギュラーとしてリーグ戦に出場することもできました。また4年次には主将となり、同期の皆に支えられて乗り越えることができました。“責任”という大きなものを背負いながら日々を過ごせたことが、自分を成長させてくれたように思います。

私自身は高校まで、テニスクラブで練習をしていたので、大学からの部活生活は本当に新鮮でした。今までは自分でうまくなるとか強くなると思っていましたが、部活でやることによってチームで強くなると思えるようになり、“協調する”ことの大切さを知りました。

現在、私は教師として、またテニス部顧問として活動しています。最初から教師を目指していたわけではありませんでしたが、教育実習を経験し、教師のたいへんさを知るとともに、人を変えることのできる仕事というところに非常に魅力を感じました。自分が指導している子供たちが日々成長している姿を見たり、自分の伝えたことを実践して変わろうと努力している姿を見るとき、まさにやりがいを感じます。

高校生のみなさん、亜細亜には本気になれる環境があります。いつかは現役を退き、本気でコートを走り回ることもなくなります。しかし、そうなる前に大好きなテニスと納得いくまで本気で向き合い、本気で生きることを感じてください。最高の人生を送るためには最高のプロセスを送ること。そのためには日々何事にも全力で取り組むこと。頑張れ高校生!!

しんや・あきら◎1985年3月7日生まれ。大阪府出身。大阪産業大学附属高等学校卒。03年亜細亜大学入学。06年春季関東学生単&複ベスト32、インカレ単ベスト64、複ベスト32。07年に卒業し、現在は母校である大阪産業大学附属高等学校に社会科教員として務めるかたわら、テニス部顧問としても活動している

橋本大貴

（株式会社NIPPO）

人間性が磨かれた、亜細亜大学での4年間

平成29年度卒業の橋本です。私は高校3年生の春までは他の大学への進学を考えていました。しかし、その年の夏に亜細亜大学の練習に参加させて頂いた際に10面のテニスコート、トレーニング器具が完備されたジム、そして堀内監督を筆頭に数多くの実績を誇るスタッフ陣。自分自身のテニスを追求するには十分過ぎる環境だと思い、進学を決意しました。

亜細亜大学は、学生主体で部活動を運営する意識がかなり高いと思います。私は、1年生からレギュラーとして活動し、4年生の時には主将も務めました。試合で上手く結果が出ない、部活動の運営に問題は無いかなど、現在の状況を打破する為にどうすれば良いのか、自分で考えるのはもちろんですが、同期や先輩、後輩と日々話し合い解決策を模索していました。どんな状況でも決断を下すのは学生自身でした。この環境だからこそ自分で考え抜く力が磨かれ、テニスだけではなく人間性、心の部分が大きく成長したと思います。亜細亜大学での4年間は、私を人として大きく成長させてくれた一生忘れることのない時間だと確信しています。

高校生の皆さん、大学生活は一度きりの人生の中で各個人の中に色濃く残る大切な時間だと私は思います。そんな貴重な時間を、より良い環境で過ごしてみませんか。亜細亜大学には、4年間を余すことなく完全燃焼できる環境があります。

現在、私は株式会社ＮＩＰＰＯの営業マンとして日々仕事に従事しています。毎日テニスに没頭していた大学4年間とは環境が大きく変化しましたが、常に人間性を磨き、心の成長を止めないことを考えています。これからも亜細亜大学での経験を活かして、人として大きく成長していきたいと思います。

はしもと・たいき◎1995年8月14日生まれ。北海道出身。中学校まで北海道でテニスを続ける。秀明英光高校進学を機に関東へ。埼玉県私立秀明英光高等学校卒。団体戦第35回全国選抜高校テニス大会3位。団体戦平成25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)3位。個人戦平成25年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)単出場 複ベスト16。2014年亜細亜大学入学。平成28年度関東学生新進テニス選手権大会 複準優勝。全日本大学テニス選手権大会(インカレ) 複ベスト32(2015・2016)。関東学生リーグ4年間単複フル出場。大学卒業後は株式会社NIPPOへ入社。

髙橋玲奈

（株式会社リコー）

卒業して間もない私だから言えること チャレンジの先にある絶景を見に飛び込もう

大学選びに悩んでいる高校生へ伝えたい事は、「チャレンジ出来る環境に身を置いて欲しい。きっと見た事のない絶景が見れる」という事です。高校生までの私は、全国大会に出場しても1，2回戦敗退ばかり。大学進学は2部か3部の有名大学に入ろうと考えていました。そんな私が亜細亜大学への進学した大きな理由は、堀内監督の存在です。高校まででテニスはやり切ったつもりでしたが、堀内監督の温かく情熱的な人柄と指導力に惹かれ、大学でも頑張ってみようと思ったのです。そして厳しい練習を乗り越えて迎えた、インカレ、インカレ室内、王座で決勝へ進む事ができました。今でもあの時の感動、あの時の景色を思い出すたびに鳥肌が立ちます。それと同時に「亜細亜大学に進んでよかった」と思うのです。皆さんの中には大学卒業後の進路に不安がある方がいるかもしれません。しかし企業は「何かに全力で取り組んで成長した人」を求めています。亜細亜大学では学生主体となって国際大会を運営したり、コーチ陣帯同で国内外のITFの大会に挑戦できます。そのような経験は亜細亜大学テニス部でしか出来ない経験です。また、必然的にテニス界での繋がりも広がっていくので、卒業後に実業団を希望する学生に有利です。最後に冒頭でもお伝えした通り、「チャレンジ出来る環境」に飛び込むことで想像以上に充実した経験が出来ると思います。これは経験者である私だからこそ胸を張って伝えられます。

たかはし・れいな◎1996年8月8日生まれ。山形県出身。宮崎商業高等学校卒。2010年全日本jr.単ベスト16。2015年亜細亜大学に入学。2018年インカレ複準優勝、インカレインドア複優勝、王座準優勝。2019年に卒業し、リコーに就職。実業団で活躍中

▸▸▸企業へ— To a Company

福田弓乃

（株式会社プリンスホテル）

マネージャーは決して裏方ではなく、誰よりも素敵な経験ができました

私は一般入試で大学へ入学、ただただ普通の大学生でした。サークルはどうしようかな？と考えていた時に、テニス部へのマネージャー募集に出会いました。昔から家族でテニスをしていたこともあり、見学へ行ったことが私のテニス部生活の始まりでした。

マネージャーの仕事はテニス部の業務的なサポートがメインですが、その中でも学生テニス連盟の業務もさせて頂き、大会運営、学生強化などにも携わることが出来ました。大学生の大会は、全て学生で運営しており、他大学の仲間と協力し合い行います。特に強化部としては、ユニバーシアード（大学生のオリンピック/2007年タイ開催）へマネージャーとして参加させていただきました。ただの普通の大学生が日本チームの一員として日の丸をつけて参加するなんて、まさに夢のような経験でした。
また、亜細亜大学でのフューチャーズ大会の立上げにも携わらせていただきました。プレーヤーの部員が大会を運営することは大変なことでしたが、みんなで協力し大会を無事に行うことが出来ました。

マネージャーという立場ですが、監督やコーチ、同学、先輩・後輩などに恵まれました。特にテニスのことが何も分からない私を支えてくれた同学には感謝の気持ちでいっぱいです。マネージャーですが、部員と一緒に全国大会での素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。

現在は2児の母でもありますが、ホテルにて勤務しております。ホテルでの仕事も日々チームプレーなので、この4年間の経験が活きていると実感しています。

亜細亜大学へ入部してくる選手は、「みんなテニスが好き、もっと強くなりたい」という気持ちが共通しています。ただテニスをするだけではなく、マネージャーの仕事もその先の社会に出てから活きてくることがたくさんあります。この4年間は本当に貴重な時間です。ぜひこの時間を仲間と共に切磋琢磨し、素敵な時間を送りませんか。

ふくだ・ゆみの◎1986年2月3日生まれ。東京都出身。聖徳大学附属高等学校卒。04年亜細亜大学入学。08年株式会社プリンスホテル入社

田中文彩

（明治安田生命保険相互会社）

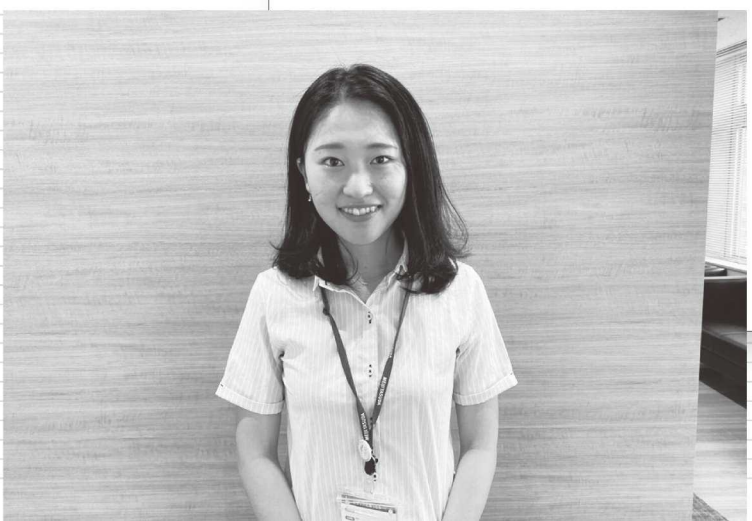
学生生活での成長が今の私の支えになっています

「全国で勝つにはここしかない。」そう思い、私は亜細亜大学に進学を決めました。中学、高校では納得のいく結果を残せず、全国で勝つためにはこのまま地元の愛知県で進学するのではなく、全国から選手が集まる関東に行くべきだと考えました。その中でも亜細亜大学は、堀内監督をはじめとするコーチ陣の熱い指導、コートやトレーニングの施設、素晴らしいライバルと、どこにも負けない環境が整っており、1番魅力的な大学でした。

もちろん戦績もない私が通用するのか不安はありました。入学してからは毎日が緊張で、付いていくのに必死だったのを覚えています。それでも自分の中の目標を忘れずに、その環境ですべきことをやり続ければそれが当たり前になり、また次のステップへと進むことが出来ます。辛い時、挫けそうな時も乗り越えようとしたその行動が、成長させてくれたのだと思います。

大学生活は社会に出る前の大切な期間でした。日々の授業、クリニックや大会の運営、集団生活や先輩後輩との上下関係など、コミュニケーションスキルや時間の使い方、忍耐力などは今でも役立っていると感じる場面が多々あります。あれ程までにひとつに打ち込み、熱くなれる時間は2度とないでしょう。周りのサポートがあったからこそ出来たことですが、リーグやインカレ、主将を経験し辛かった時期やあの緊張感は今では本当に良い経験であったと思います。

亜細亜大学は、自分次第でいくらでも可能性が広げられる場所です。自分と向き合い、仲間と共に成長出来る素晴らしい4年間になるよう願っています。



たなか・あや◎1995年8月16日生まれ。愛知県出身。県立津島東高校卒。15.17年関東学生複ベスト4。15-18年インカレ出場。16年全日本複ベスト32。現在は、明治安田生命に勤務し実業団チームに在籍。19年日本リーグ準優勝。

三上英知

（伊藤忠商事株式会社）

あきらめずに頑張れば報われるということを、身をもって経験できました

私は一般入試で亜細亜大学に入ったので、入部当初は、自分のレベルが周りの同期、先輩とかけ離れており、やっていけるのか不安に感じたのを憶えています。それでも自分を信じ、とにかく、毎日必死にボールを追いかけていました。途中、ケガなどもありましたが、堀内監督を信じ、あきらめずに4年間頑張った結果、入学当初は想像もしなかった成績を収められ、本当に良い経験となりました。ありきたりですが、あきらめずに頑張れば報われるということを身をもって経験できたことと、主将をやらせてもらい、人をまとめることの難しさを勉強させていただきました。両方の経験がいまの人生に生きています。

楽しかったことと言えば、何と言っても素晴らしい同期と出会え、いっしょに時間を共有できたことです。ほとんど兄弟のように365日いっしょにいました。反対につらかったことは、毎日でしたが(笑)、それくらい必死に練習していたと思います。やはり4年のときに部の運営をしていて、なかなか全員が同じ方向を向いてくれなかったときはつらかったです。でもそれもいまとなっては良い思い出です。

亜細亜大学テニス部は、素晴らしい練習環境の下、テニスの大幅なスキルアップが図れることは間違いなし、同時に人間力を磨ける本当に素晴らしいチームだと自負しています。ぜひ入部して自分を試してください。

みかみ・えいち◎1970年9月18日生まれ。静岡県出身。静岡聖光学院高校卒。89年亜細亜大学入学。91、92年春季関東学生複ベスト8、インカレ複ベスト32、91年全日本テニス選手権複出場、92年全日本学生室内複出場。93年大学卒業後、伊藤忠商株式会社、建設部門に配属。その後、食品流通部門へ異動しファミリーマート事業に携わる。06年より5年間中国広州市へ海外駐在。駐在中もテニスを通し日中交流を楽しむ。帰国後は、駐在の経験を生かし中国を担当

平沼かおる

（オーストラリアで起業して）

テニスは究極の個人戦であり究極の団体戦。そこで得られることとは…

皆さんにとって「仲間と一緒に力を高め合いながら熱狂できること」は何ですか?それを見つけられてる人って残念ながら意外と少ないのではないでしょうか…?私は亜細亜大学に一般入試で入学し、ほぼほぼ素人レベルでこの門をくぐりました。先輩そして同期にはインハイで大活躍していた選手、後から入ってくる後輩もとんでもない選手ばかり…私のようなテニス素人選手がこの環境で何に熱狂したのでしょうか?私はこの亜細亜大学で「チームで戦うという快感」に熱狂していたのです。テニスは究極の個人戦であり究極の団体戦です。コート上にいるのは一人…でもコートの外には多くの仲間がいます。一緒に汗を流し、時にはもめる事もある。でも我々はチームです。そして私が4年生の時、亜細亜大学硬式庭球部は大学王座で日本一になったのです。今私はオーストラリアで飲食という畑でチームを作り目標に向かって走り続けています。海外ならではの苦労、思いも寄らぬ問題が毎日のように降りかかってきます。しかし亜細亜大学庭球部で培った「チームで戦うという快感」を求め日々奮闘しています。学生という人生の中でも最も貴重な時間をこの亜細亜大学で堀内監督はじめコーチの方々の指導を受けながら、自ら考え行動しチーム一丸となって大学生活を謳歌していって下さい。そしてどんな分野でも結構です。海外で活躍できる力を身につけましょう!オーストラリアで待ってます!

ひらぬま・かおる◎1971年10月18日生まれ。テニスの主な実績は無し。大学卒業後、旅行会社に就職。2年で退社しニュージーランドへ旅に出る。一時帰国したものの29歳でシドニーの外資系旅行会社に就職。就職したその年に会社が倒産。30歳で飲食の道に進み現在ブリスベンに焼肉店を2店舗とラーメン店を2店舗、ゴールドコーストに居酒屋1店舗の合計5店舗のオーナーとして奮闘中。

▸▸▸企業へ— To a Company

柴 廣一

（明治神宮外苑テニスクラブ）

人間力を高め、充実した学生生活を

今から40数年前の昭和53年（1978年）成田空港が開港した年になますが、私は縁あって亜細亜大学に入学いたしました。一般入学でありましたが、新入生勧誘を受けたこともあり、硬式庭球部に入部することにいたしました。高校でテニスの経験は少しあったものの、体育会というのは正直不安な気持ちだったこと今でも覚えております。

当時のテニス部にはホームコートがなくジプシー活動。また特定の指導者がいない中でも練習・規律は結構厳しく、部員皆で知恵を絞り一生懸命テニスをしながら、まず充実した学生生活を送っていたと自負しております。

戦績はといいますと、関東学生本戦にも上がれず、チームとしても4年間、関東リーグ最下部の7部にいた訳ですが、最後の年に7部の中で準優勝したことは、ちょっぴり自慢です。

卒業後、テニス関連の仕事に就いた後、昭和から平成に替わる年、明治神宮外苑にという法人に奉職することとなりましたが、それ以降も学生諸子の活躍はずっと見続けてきております。

さて、私はその明治神宮外苑で、神宮水泳場、神宮第二球場・ゴルフ練習場と実経験のない施設を回り、平成23年（2011年）20数年振りにテニスに復帰し、テニスクラブ支配人として着任し、現在に至っております。

テニスから離れていた20数年間、仕事以外でもテーマを自分自身で見つけ、乗り越える。達成出来たかは疑問がありますが、そんなことを常に考えていました。思い起こしますと、指導者不在でした学生時代、そこには仲間がいましたが、重要だったのはテニス以外のことも自分自身で考え、実施する「人間力」だったと思います。

最後になりますが、私もずいぶん人生送ってきました。学生時代の仲間はたった4年間の付き合いでしたが、今では生涯の友となっております。そんな仲間とテニスはだけでなく、様々な経験を積み、バランスの取れた素晴らしい学生生活をお送りくださいますよう、心より願っております。

しば・こういち◎1959年11月14日生まれ。東京都出身。都立桜町高校卒業。1978年 亜細亜大学経営学部入学。1982年卒業。フミヤテニススクールアルバイトを経て、1983年神宮テニスクラブにテニスコーチとして就職。その後、1988年明治神宮外苑入苑。

恒松拓未

（東急電鉄株式会社）

亜細亜大学で得た経験

私は、経験豊富なコーチ陣が他の大学より多く在籍していること、また、国際大会を運営していることを魅力に感じ亜細亜大学の入学を決めました。

私が学生時代の中で一番心に残っている言葉は堀内監督の「社会人になるとミスをすることは許されないから学生の内にいっぱい挑戦をしてミスを怖がらず挑戦しろ」との言葉でした。国際大会では多くの企業に出向き国際大会のアピールや協賛をしていただいて企業に対してどのような利点があるのかなどを伝えることをしました。また、部活内では副将として部の運営のサポート、勧誘では多くの高校生や高校の先生方、親御さんに亜細亜大学のアピールをして多くの選手を獲得するために尽力しました。

仕事だけではなくテニスに関しても多く悩みましたが1年生の時よりかなり実力、結果ともに成長することが出来たと思います。自分の求めるプレーでどうやって結果を出すことが出来るかをコーチ陣と沢山の時間を使い議論したことは今でも感謝しています。

私自身、現在の仕事では職員同士でのチームワークが必要でミスが絶対に許されない仕事についておりますが、学生時代の4年間が凄く自分の力になっていることを感じ、やってきたことが間違っていないと確信が持てています。

最後になりますが、成長するかしないかは自分自身だと思います。ただ、この亜細亜大学には自分自身をより良い人生に進むことの出来るきっかけがあります。また、プロになれる環境もあります。多くの経験をしてなりたい自分を見つけて頑張って欲しいと思います。

つねまつ・たくみ◎1996年1月26日生まれ。埼玉県出身。大成高校卒業。14年亜細亜大学入学。15年に単複インカレ予選出場、16年にインカレ本戦、新進複準優勝、また17年には単インカレ予選・複インカレ本戦出場、夏関複ベスト8。18年に卒業し、東急電鉄株式会社に入社。現在も東急電鉄株式会社に勤めている。

卒業生の主な就職先

■就職状況

近年、学歴よりも人物重視の選考を多くの企業が取り入れてきています。
そこで就職状況を紹介するとともに亜細亜大学テニス部での活動がどのように就職に生きてくるかをお伝えしたいと思います。

★学歴重視よりも人物重視の採用

学歴＝大企業と思われる方も多いと思いますが、近年多くの企業が人物重視の採用を行っています。
これは本人が今までどのような学生生活を過ごしてきたが重要になるということです。
ではテニス部での活動がどう生きてくるのかをお伝えします。

POINT

- **●国際テニス大会の運営**(男女同開催)**により実務力が向上**
- **●クリニック**(3時間受講生の方に監督、コーチ、学生でテニス指導)**で接遇能力向上**
- **●国際テニス大会の運営費**(クリニック、スポンサー)**の呼びかけ、集金など交渉力向上**
- **●派遣コーチで実践的なコーチスキルアップ**(亜細亜大学と提携しているテニスクラブにアシスタントコーチとしてレッスンに加わる)
- **●週6日の部活動**(日々の活動の中で多くの体験をする事が出来る)**による生活力向上**
- **●その他、社会人として必要な幅広い能力が身につく**

亜細亜大学テニス部◎主な就職先一覧

大正製薬／パイオニア／松下電工／NEC/パナソニック／豊田自動識機／朝日生命保険／大沢商会／セコム／伊藤忠商事／ゼネラル石油／ヤナセ／ワールド／東芝／島津製作所／NTT東京／日本舗道NIPPO／北日本物産／NTT北海道／福岡銀行／日本生命／平和堂貿易／東急百貨店／松下通信工業／大東銀行／アイシン精機／山陽新聞／ディスコ／野村証券／ヨネックス／みずほ銀行／レオパレス21／常磐薬品／ANA／プリンスホテル／警視庁／神奈川県警察／JR北海道／トヨタ自動車／ブリヂストンスポーツ／アメアスポーツジャパン／イカイ／KONAMI／JA山梨／明治安田生命保険／三井住友海上火災保険／アドヴァン／エームサービス／ウェスティンホテル／株式会社三越伊勢丹／ウィンザーテニスショップ／九州電力／福島工業株式会社／株式会社リコー／東急住宅リース／留学（イギリス・ドイツ）／学校教員

OBインタビュー（東急建設株式会社）

「仕事や就活に役立った点」

岡　庸輔
（令和元年度卒業　経済学部経済学科）

亜細亜大学テニス部での活動で、私が就職活動に役立ったと感じる点は、大きく分けて3点あります。

1点目は、恵まれた環境にあることです。
10面あるテニスコートが多いのは勿論ですが、それ以上に様々な業種の企業の方とお会いする機会、亜細亜大学国際オープンテニスでは海外の選手や日本のトップ選手と交流する機会やテニスクリニックにご参加頂いた方々と交流する機会があり、多くの繋がりを持つことが出来るので、自分の目指したいものであったり、方向性も見つけやすくなります。

2点目は練習のメニューで掲げている「出来るまでやる」という精神が身に付いたことです。堀内先生の言葉でよく出来るまでやるとお話をされることがあり徹底されてきました。テニスだけでなくトレーニング、勉強をこの精神を持ってやってきたことが非常に良かったと思います。テニスをしながら、また、最上級生として部活の運営をしながらで大変な部分はありましたが、SPIや面接等の対策をし、自信に変えられたことは就職活動が上手くいった要因ではないかと考えられます。

最後の3点目は、組織として動くことを覚える点です。
部員1人1人、様々な役職に分かれており、その役職をまとめるリーダーも居ます。各々に仕事があるので、この仕事を終わらせる為にはいつまでに、この量をやっていこうかと、計画的に物事を考える癖がつくようになります。また、仕事が終われば リーダーに報告し、何か問題があればそのリーダーの人に相談したり、リーダーはいつまでに仕事を終わらせるようにと連絡したりと、社会人としての基礎を学生のうちから学ぶことが出来ます。私自身、財務という役職で部活の遠征費や運営費等のお金に関する仕事に携わり学校との交渉だったり学生ではあまり関わらないことに関われたことは大きな財産になっています。

大変なことも沢山ありましたが、亜細亜大学での4年間を通じて、人間的に大きく成長することが出来ましたし、何事にもチャレンジしようという気持ちも強くなりました。私も、頑張っている後輩達に負けないように社会人として精進していきたいと思います。

就職ガイダンス

卒業・就職までのスケジュール

1年 働く意味を知り、なりたい自分を見つける

2年 自分の強み、興味、関心を仕事に向ける

キャリアガイダンス

キャリア形成の取り組みをサポートする説明会で、ワークシートなどを用いてキャリアに関するレクチャーを実施します。

● キャリアフィールドワーク
「働くこと」をリアルに捉え、職業観をより明確にすることを目的としている。大学生版「社会見学」のようなもので、就職をより強く意識する絶好のチャンスです。

● 就職準備講座
夏季集中講座。就職活動の3大要素、「自己分析」「企業訪問」「模擬面接」を学びます。

● キャリア講演会
社会で活躍する著名人や卒業生を招いての講演会を行ない、学生時代に「何をすべきか」を知り、その後の「生き方」を考えていきます。

● 職業興味検査
進路の方向性を客観的に理解するための機会。「職業と自分」を考えていきます。

キャリア・就職支援プログラム

● 個人面談
「学生一人と徹底的に向き合い、同じ目線で将来を見つける」キャリアセンターは常に学生とひとつになり、各自の興味・関心や個性を見据え「進路」を模索します。

● グッドカンパニーフェア
2月、3月、5月に企業の人事担当者の方に来ていただき「学内企業説明会」が行われます。約200社を招き、業務内容などを細かく説明してもらえます。

● キャリアデザイン
なりたい自分への道を描くスキルを身につける。

● 卒業生との語らい
亜細亜大学の卒業生をキャンパスに招き、就職活動体験や業界・企業に関する情報を教えもらうことができ、年齢が近く適切なアドバイスをもらうことができる。

● 業界研究セミナー
「業界」の概念を学び、志望企業をイメージする。日本を代表する企業約20社の人事担当者を招き、企業の動向や採用情報、求める人材像などを詳しく解説してもらいます。このセミナーをきっかけに進路を決定する学生も多数います。

資格取得支援および各種講座も多数あり

- ☑ 公務員試験講座［1講座6コース］
- ☑ 民間企業就職試験講座［1講座2コース］
- ☑ 資格取得講座［10講座15コース］
- ☑ TOEICテスト対策講座［1講座16コース］
- ☑ 語学会話講座［3講座15コース］
- ☑ 福祉関係講座［3講座6コース］

専門課程

① 教職課程「社会科、英語科（国際関係学部のみ）」
中学校、高校の一種教員免許状の取得を目指します。取得できる教科は、高等学校の公民・商業・英語高等学校の商業は、経営学部経営学科のみ。中学校の社会・英語中学校・高等学校の英語は国際関係学科のみ。学校図書館に配置される司書教諭の資格も取得できます。幅広いプログラムで実力のある教員を養成しています。

② 図書館学課程
図書館法によって定められている図書館司書の資格を取得できます。同時に、情報システムを駆使できる専門職を育成します。

③ 社会教育主事課程
生涯学習の企画・立案を行なう専門職を目指します。本課程修了で社会主事の講習を履修したことになります。

亜細亜大学では、入学時から多彩なキャリア・就活支援プログラムを展開。
自分に合った職業に就けるように全学年を通し、個別面談を中心に細かなサポートを行なっています。

3年 自分の適正を見極め、目指す業界、職種を絞り込む

4年 就職活動本番! 自信を持って選考へ

就職支援ガイダンス

キャリア・就職支援に関するセミナーや目的別講座を実施します。3年次には介護体験、4年次には教育実習が行われます。

Hop

●自分を知る
自己理解、自己分析、履歴書作成を支援します。

Step

●業界・企業を知る
「人事担当による模擬面接」に「ビジネスマナー講座」「文献情報入手講座」「内定者に聞く"就活の基礎"」「卒業生との語らい」「業界研究セミナー」などの実施。

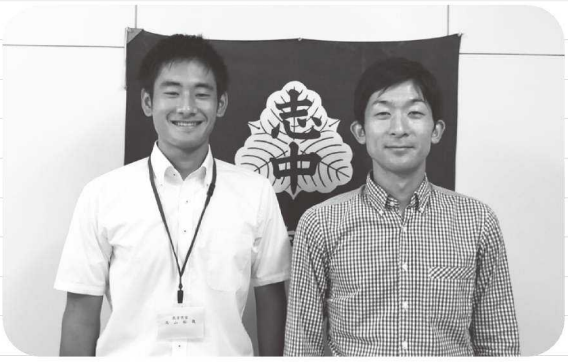
Jump

●いざ就活!
「グッドカンパニーフェア」「学内企業説明会」「専任職員による個別面談」の実施。

インターンシップ体験 2、3年次の夏休みに「インターンシップ体験(就業体験)」に参加するのが一般的。1年次にも参加できます。

「教育実習に行ってきました」

髙山 裕哉
(法学部法律学科 4年)



私は、母校の埼玉県志木市立志木中学校で3週間の教育実習を行ってきました。教職課程の集大成でもある教育実習に臨むにあたっては、正直なところ不安の方が多く先生として教壇に立ち授業をすることができるのか心配でした。実習では学校生活や部活では学べない多くのことを経験しました。また、教育実習を経験したことで亜細亜大学テニス部での学びや経験がいかに貴重なことなのかを知ることができました。

実習では、1年生の社会科を担当しました。実習初日に指導教諭の先生から「大人も楽しめる授業づくりを心がけてください」と言うアドバイスをいただき、この3週間で実現することができるか不安に思いましたが、1つひとつ真剣に取り組み研究授業では大人も楽しめる授業を生徒に届けたいと決意しました。1週間目は、社会科に限らず他教科の先生の授業を観て授業づくりや生徒に対する対応、アプローチの方法など様々な工夫を観て学びました。2週間目からは、教壇実習がはじまりました。実際に授業を行うことで、伝えることの難しさ生徒の進捗状況をその場で把握し教室を運営することの大変さを体感しました。また、クラスごとに生徒の反応や雰囲気にも違いがありアプローチの方法を工夫することに苦労しました。放課後は、指導教諭の先生との反省会が毎回ありそこでは、浸透率を高める為には相手が求めてきた時に適切なサポートやアドバイスができる準備の大切さ、生徒からのわからないと言うhelpサイン、「助けて」が許される雰囲気づくりについてもご指摘をいただきました。3週間の教壇実習や反省会を通して、1つの言葉が相手の行動を変え、12、3歳の生徒を前にする先生には責任があり生徒の将来にも関わる仕事であることを3週間という短い期間ではありましたが学ぶことができました。実習中は、教壇実習のみでなく私はソフトテニス部にも参加しました。私もテニス部の卒業生であったので当時と変わらないテニスコートの上で生徒達と一緒に汗を流し有意義な時間を過ごしました。この部活は人数も25人程度と少なかったので、部員1人ひとりに直接話しかけ生徒の目線に立った丁寧な指導を心がけました。印象に残った出来事は、サーブが連続してコートに入れることができるようになった生徒や最近テニスが面白くなかったけどなんだか楽しくなってきたと言ってくれた生徒がいたことです。部活に対して消極的な生徒がこうした前向きな言葉を発し、練習中の生徒が明るく活気ある場面が見ることができ、微力ながらテニス部の力になることができて嬉しく思っています。

教育実習では相手に対して伝える力の大切さや教師という責任ある仕事の難しさ、面白さを学ぶことができとても貴重な経験をすることができました。教職課程に限らず大学では様々なことに挑戦することができます。亜細亜大学テニス部には、国際大会の運営をはじめ他大学では経験できない機会に触れることがたくさんあります。また、テニスに限らず部員1人ひとりがチャレンジしたいことに全力で取り組むことができる環境があり、それを理解し支えてくれている仲間がいる最高のチームだと思います。

第1回『亜細亜大学国際オープンテニス2007』

国際大会開催までの全記録

2007年3月19-25日、私たち亜細亜大学テニス部は、日本初となる大学主催の男子フューチャーズ1万ドル大会『F1亜細亜大学国際オープンテニストーナメント』を開催しました。
準備から運営にいたるまで、すべて学生が行なった手づくりの大会の全記録がここにあります。

記事協力◎テニスマガジン（2007年6月号掲載）

2006年9月
大会まであと6ヵ月

フューチャーズを開きたい!

堀内昌一監督が学生たちに「フューチャーズを開きたい」と言い始める。学生たちはまだ半信半疑で「無理ですよ」という雰囲気だった。

2006年10月
大会まであと5ヵ月

開催決定

堀内監督が学生に「フューチャーズを開催する」と正式に伝える。さらに「すべて学生でやってもらいたい。お金の集め方から運営の仕方まで、お前たちが全部考えてイチからやってみろ」との指示が。学生たちは「え？　本当に？」という感じだったが、同時にこれはもう引き下がれないという状況になる。

川廷さんの視察

10月24日、ITF（国際テニス連盟）で世界的に活躍している川廷尚弘さんが視察に訪れる。亜細亜大の施設がフューチャーズに使用できるか、コートの幅、審判台の高さなど細かいところまでチェック。

準備や運営についての講義も受けた。徐々に大会のイメージが膨らんできて、「やるならちゃんとやろう」という空気が全体にできあがる。

後日、川廷さんが視察レポートを学生全員に配ってくれた

2006年11月
大会まであと4ヵ月

第1回学生ミーティング

1回目のフューチャーズ・ミーティング。議題となったのは「資金集め」。最初の構想としては、毎年つくっている庭球部パンフレットで協賛してもらっている方、日の出町（コート所在地）、地元住民のみなさんや一般企業などに、フューチャーズの主旨を理解してもらい、協力を仰ごうというもの。しかし、実際には厳しさを知り、資金集めは堀内監督、森コーチ、OB・OGが行なうことに。学生はクリニックのスタッフとして携わることとなった。

2007年1月
大会まであと2ヵ月

強化期間開始

年が明け、東レPPOテニスのボーラーなどで忙しく、あまり準備が進まず。30日から、フューチャーズを最終目標とするテニス強化期間に入る。

2006年12月
大会まであと3ヵ月

幹部ミーティングがさかんに

4年生の幹部が監督、コーチらとセミナーハウスに泊まり込んでミーティング。役割分担の項目を決めたり、協賛していただくメーカーや企業を探したり、何度も打ち合わせを行なう。

亜細亜大のセミナーハウス。フューチャーズの話し合いや準備で使用したほか、大会中は大会関係者の宿舎としても1泊3000円で貸し出した

資金集めの主な方法

・日頃お世話になっているテニスメーカー、一般企業、団体からの協賛金
・学校からの補助金
・OB・OG会からの寄付金
・父兄、テニス関係者など個人からの協賛金
・日の出町からの協賛金
・サポーターズクラブの発足（応援してくれる一般の方を募集。クリニック受講、記念Tシャツ、「つるつる温泉」入浴券、ドリンクサービスなどを付けて3000円で販売）
・チャリティークリニックの開催（一般クリニックは5000円、ジュニアクリニックは500円で開催。大会前、大会中合わせて10回ほど行なう）

※資金面だけでなく、地元商工会やたくさんのボランティアに支えられた

2007年2月
大会まであと1ヵ月

本格始動

フューチャーズ開催に向けて本格的に動き始める。まずは、資金集めとフューチャーズの宣伝のため、一般の方やジュニアを対象としたクリニックを開催。1日クリニックは10～12時、13～16時でひとり5000円。1日30～40人、多いときで50人くらい集まる。このクリニックを計10回ほど開催したことで、かなり資金が集まった。

部内WC選手権が突然の中止

2月9日からセミナーハウス（寮）にて合宿開始。ここで部内のワイルドカード（WC／主催者推薦枠）選手権を行なうはずが……「何も準備ができていないのに、予選会をやるなんてダメだ。そういうものは、全部決まってからやるべきだ」と堀内監督に言われ中止に。

国際大会について調査

森コーチと世界で行なわれている大会について話をしたとき、学生は何も答えられず、これでは国際大会の運営者として失格だと痛感。デ杯やグランドスラムなど国際大会をはじめ、選手、テニスの歴史についても勉強する。

2007年3月1日

大会まであと16日

「簡単に大会に出るな。大会をつくる苦労を知った上で、大会に出ろ!」（堀内監督）

フューチャーズ開催の意義

部員全員で「フューチャーズの意義」について意見交換。運営するにも、選手として出場するにも、意義を知った上で臨んだほうが頑張れる、と思ったため。「学生はフューチャーズに出てもすぐに負けてしまう。大会を開くことの苦労を知れば、試合にもっと執着心をもって臨めるんじゃないか」と堀内監督。なぜ監督が学生に運営を任せるのか、その理由を皆が理解した。

私たちが考える“フューチャーズの意義”

●1年生の意見
・外国選手との交流
・ATPポイントの獲得
・プロ選手を見て勉強する
・多文化の理解と受け入れ
・選手のルーティンを学ぶ
・運営することでマネジメントを学ぶ

●2年生の意見
・社会勉強（運営、資金集め、マネジメント）
・国際交流（コミュニケーション）
・教養を身につける
・国際大会を主観的に見られる
・地域振興
・大学での国際交流やスポーツ、地域振興への意欲の高さを示す
・国内の他のスポーツに良い影響を与える

●3年生の意見
・大会ができあがるまでの過程を知る
・大会に対する思いを知る
・日本選手の強化
・運営に携わることで自分自身とテニスの関わりを見出すことができる
・亜細亜大学の活性化

●4年生の意見
・日本選手の強化
・学生テニスのレベルアップ
・学生の学習の場の提供
・国際大会数が世界ランカー数と相関関係にあるため、日本の国際大会数を増やさなければならない
・企業、団体、地域、マスコミなどのあらたな関わり
・各企業、メーカーの宣伝
・亜細亜大学テニス部と世界のつながりをつくる
・大会運営の過程を学ぶ

3月2日

大会まであと15日

役割分担

誰がどんな仕事に就くのか、係を決定（項目は下記）。それぞれが部の役職や得意分野が生かせる係に就けるように話し合う。部のブログ担当はメディア係に、財務担当は賞金係に、機械関係に強い人はビデオ係に、英語が話せる人は通訳係に、など全員が能力を発揮できるように振り分け、各係でチーフを決めた。細かいところまで、考えられるすべて、全力でやろうということで意見が一致。この役割分担が、大会成功のカギだった。

係と主な仕事内容～運営の軸となる大会進行係

●幹部
ディレクター◎堀内昌一監督
アシスタントディレクター◎
森稔詞コーチ、小野塚弓乃
スーパーバイザー◎川廷尚弘（国際テニス連盟）
事務局◎宇田川裕（テニス部副部長）、
金子国彦（亜細亜大職員）

3月4日

大会まであと13日

パンフレット作成開始

もともとつくる予定はなかったが、協賛してくれた方々へのお礼、記者発表への対応を考え、急遽作成することに。「パンフレットって何だ?」というところから始まったので、マスコミ関係者につくり方を聞きにいったり、これまでの大会パンフレットを集めたり、一気に慌ただしくなる。監督、コーチ、大学事務局と話し合いながら、掲載内容やレイアウトを決定。同時にプレスリリースやポスターもつくり始める。

3月7日

大会まであと10日

部内WC選手権開催

2月上旬に行なうはずだった部内ワイルドカード選手権をようやく開催する。「皆に機会を与える」というのが目的だったので、学生全員が参加。実力によって、上からABCDブロックに分け、8ゲームマッチの総当たり戦を行なう。下部で勝ち上がった2名が上のブロックへ移動、というのを繰り返し、最終的に本戦ワイルドカード4名（大塚、富田、篠川、井上）、予選ワイルドカード3名（古城、牛田、風早）を決定。また、この頃からストーブ、テント、パイプ椅子など学校から備品を運び出し、施設の設営準備が進む。

●運営係
全体への指示
●賞金係
選手、スタッフへのギャランティの計算と管理。大会サポーターからの寄付金受け取り
●会場・施設係
プレーヤーズルーム、コンピュータールーム、メディアルームの設営、学校の備品の持ち出し、管理、ドローボードの作成

●トレーナー係
トレーナールームの管理
●メディア・広告係
マスコミへの対応、ブログの更新、デイリーパンフレットの作成
●イベント係
クリニック、試打会の運営、観客席の準備、式典の運営
●練習コート、ボール係
プラクティスコート予約の対応、ボールの管理
●ホテル、トランスポーテーション係
オフィシャルホテル、セミナーハウスの予約代行、トランスポーテーションの案内

●レフェリー係
ワイルドカード選手権の運営
●チーフアンパイア係
ボーラー、ラインズマンの配置、チェック、指導
●物品係
マイク、パイプ椅子、メーカーのバナー、紙コップなど備品の小さい管理、ネームボードの作成

●通訳係
外国人選手の対応、表彰式でのスピーチ通訳
●写真係
ブログ用、記録用写真の撮影
●電話番係
選手、関係者からの電話対応

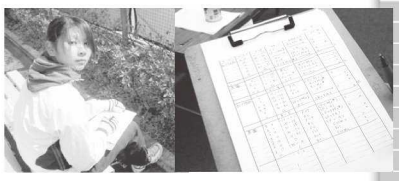
選手に戦いやすい環境を提供する係

●洗濯係
ランドリーサービス（セミナーハウスの洗濯機を使用、乾燥室用の部屋を借りて乾かす）

●インフォメーション係
会場の地図や案内板の作成と設置、自転車の貸し出し

今後の検証材料として、選手のデータを集める係

●アンケート係
選手へのアンケート調査（アンケート用紙を作製し、選手の実態を調査）
●ビデオ係
本戦の全試合をビデオ撮影（販売も行なう）
●スコアシート係
全試合のスコア記入（ウインブルドンの集計用紙と同じものを使用。確率やミスの種類まで細かくチェックし、試合後に渡す）
●体力測定係
プロの体力測定（握力、垂直跳びなど、プロの体力や筋力を測定）



●マニュアルづくり係
来年以降の資料として役立てるため、各役職の仕事内容などを記録

●Tシャツ係～記念Tシャツの作成、販売
「亜細亜大学硬式庭球部」「日の出」「未来」「一球入魂」「一期一会」と描かれた5種類の大会記念Tシャツを販売。文字は監督のお母さん（習字の先生）に描いてもらい、テニスショップ「テニスファクトリー」の八田修孝さんに協力してもらって作成。一般の方たちが着ることも考えて、落ち着いたカラーにした。

3月12日

大会まであと5日

泊まり込みのホチキス止め

パンフレットの中身がやっと完成。しかし、装丁に予想以上の時間がかかる。コピー、ホチキス止めを泊まり込みで行ない、200部を作製（パンフは大会期間中に何度か足りなくなって、そのたび追加し、結局300部くらいつくった）。このあたりが焦りのピークだった。

3月13日

大会まであと4日

学生ワイルドカード選手権

関東リーグ1部校からの各4名と学生連盟からの推薦8名で、大学生だけのワイルドカード選手権が始まる。ワイルドカード予選3大会は川廷さんが不在なので、レフェリー係を中心に大会を運営する。

3月14日

大会まであと3日

記者発表資料が完成

できあがった大会パンフレットとプレスリリースを、庭球部パンフレットと大学パンフレットといっしょにファイルにセットし。記者発表用の資料が完成。また、学生ワイルドカードが早稲田大学の佐藤文平、吉備雄也に決定。

3月15日

大会まであと2日

初めての記者発表

堀内監督、小野塚AD、メディア担当・蒲谷の3名で岸記念体育館へ。集まった新聞記者、雑誌記者、スポーツライターなどにパンフレットの入ったファイルを手渡す。堀内監督が大会開催の主旨について発表する。

初めての記者発表に緊張気味の監督

一般WC予選サインアップ

一般ワイルドカード予選のラインアップが開始。海外選手も含め、107名がサインをしにきてくれた。部員も全員がサイン。そのうち出場できるのは64名。

3月16日

大会まであと1日

宿泊開始

一般ワイルドカードの予選が始まる。本戦選手がコートにやってきて、サイン&プラクティス。この日からセミナーハウスに宿泊開始。

セミナーハウスは8人部屋。大会終了まで全員が宿泊

3月17日

予選1日目

予選開始!

役割分担でやるべきことは決めてあったが、実際に試合が始まるとわからないことだらけで慌てる。OPやドローに掲載している韓国人選手や中国人選手のアルファベット表記が見にくいということで、漢字表記に直すことになり、選手個人に直接聞きにいく。スコアシート係は本戦から行なうということだったが、予選も準備期間として始めることに。

3月18日

予選2日目

ドローボード準備!

本戦ドロー抽選会の結果を受けて、ドローボードを作成。本戦1日目用のデイリーパンフレットもできあがる。

3月19日

本戦1日目

本戦スタート!

いよいよ本戦開始。専門誌をはじめ、マスコミの方が多く集まり、プレスパスやパンフレットを渡して対応する。今日からラインズマンが入るので、朝から気合いを入れて練習。試合後、初の洗濯注文を受ける。夜中にプラクティスコート予約の電話がかかってきたり、デイリーパンフレットやブログの更新に追われたりと、慌しい雰囲気に。試合は篠川が1回戦を突破してATP1ポイントを獲得、学生として2人目のATPランカーに。

ラインズマンは毎朝、大声で練習

3月20日

本戦2日目

杉田選手が登場!!

シングルス1R、ダブルス1Rが行なわれる。デ杯の活躍もあって注目された杉田祐一選手が勝利し、盛り上がる。

ランドリーサービスは外国人選手がよく利用してくれた。最初500円だったがちょっと高いのではという話になり、300円にしたところ急に注文が増えた

デイリーパンフレットは夜原稿を書き、翌朝にコピー。学校も印刷所も開いていないので、近くの病院の売店でコピー機を使わせてもらう

ドローボードに本戦選手の顔写真を貼ろうというアイディアが出る。多くの選手が快く協力してくれた

1日のスケジュール

06:30	起床
07:00	朝食 （食べ終わったら各自コートへ）
07:30	コート集合 掃除、準備
08:30	選手が来始める、サインアップ
09:00	プラクティス
10:00	試合開始 （各係が就く。時間があったら試合観戦。運営に慣れてきた大会後半は夕方から練習練習練習…）
18:30	試合終了後、片付け
19:00	夕食→入浴
21:00	ミーティング （係ごとに今日の報告、反省点、意見などをチーフが発表。こうしたらいいんじゃないかと思うことを毎日話し合う）。 ミーティング後は自由時間（自分の仕事が終わったら就寝）

3月21日

本戦3日目

祝日で大盛況

シングルス2R、ダブルス1Rが行なわれる。祝日だったので、地元の方やOBの方もたくさんきてくれた。小学生対象のクリニックも開催。また、鈴木貴男選手がきてくれたので、体力測定に参加してもらう。次週の早稲田大フューチャーズに参戦する韓国と中国のデ杯選手が練習しに来たので、どんなメニューを行なっているか調査する。

茶圓鉄也選手(左)、寺地貴弘選手(右)がアンケートに答えてくれた

3月22日

本戦4日目

選手のサインを集めたサインボードはすばらしい記念

折り返し地点

大会も折り返し地点。みんな気持ちに少し余裕が出てきて、細かいことにも気づくようになる。シングルスは2R、ダブルスは準決勝が行なわれる。注目の杉田選手はフルセットで惜敗。

3月23日

本戦5日目

強風が吹き荒れる

シングルスは準々決勝、ダブルスは準決勝に突入。風が強く、本部の資料が飛んでいってしまったり、スコアボードが倒れそうになったり……。夜のミーティングでは、明日のダブルス表彰式に向けて会議を行なう。

杉田選手にサインをもらう

近藤大生選手(左)がTシャツをお買い上げ。漢字が受けて、外国人選手も購入してくれた

OGでもある岡本聖子さんが会場を訪れ、体力測定に参加してくれた

杉田選手にサインをもらう

3月24日

本戦6日目

ダブルス表彰式で感激

ダブルス決勝戦でOBの佐藤博康選手が登場。選手入場では、学生が花道をつくり、会場を盛り上げる。惜しくも準優勝だったが、「母校のフューチャーズに出られるとは思いませんでした。学生が本当にがんばってくれて、よい一週間を過ごせました。今後も継続して頑張ってください」と激励の言葉をもらった。最後に選手、スタッフ、そして観客の方もいっしょに写真撮影を行なう。

ダブルス表彰式

初めてボーラーが入る

クリニックおよびブリヂストン試打会を開催

最終ミーティング

決勝戦に向けての最終ミーティング。学生の疲れはピークに達するが、監督からは「明日、達成感を感じたとしても、それで終わりじゃない。この経験をどう生かすか、すぐに考える。『やりっぱなし』で終わるな!」と喝を入れられる。川廷さんからは表彰式の改善点、雨天時の対処法など、細かいチェックが入る。

サプライズパーティー

ミーティング後、4年生から再び招集がかかる。何が始まるのかと思いきや…「これまでついてきてくれてありがとう」と特大ケーキのプレゼント!

体はきつかったが、「最終日、これまでの総決算として絶対に成功させよう!」という元気が湧いてくる。

3月25日

本戦最終日

初代チャンピオンに林(イム)選手

最終日の早朝は土砂降りの雨。午前中に止んで、素早くコート整備を行なうも、またすぐに降り出すというアンラッキーな事態に。しかし、雨天時の対処法は前日に確認できていたので、みんな慌てず臨機応変に対応。こうして14時に決勝が開始し、韓国のイム選手がベテラン茶圓選手をフルセットで下して優勝した。表彰式は昨日の反省を生かしてスムーズに進む。

新聞紙やタオルも使い、大急ぎで乾かす

記念すべき初代チャンピオンは韓国のイム選手(左)、右は準優勝の茶圓選手

決勝戦前、選手の名前やプロフィールをアナウンス

雨だったにもかかわらず、多くの観客が集まった

感動のフィナーレ

表彰式後、花道をつくって選手を送り出す。すると、学生から「監督も通ってください!」との声が。コートの隅でひとり号泣していた監督を、学生が引っ張り出し、拍手喝采の花道を通す。「学生たちが日に日に成長していくんだよ。みんなエキサイトして一生懸命やっている姿がうれしくて。こいつら、すごいな。本当にやってくれたんだなと思ったら…感動しちゃったよ」(監督)。

学生たちに囲まれ、監督は大粒の涙

最後に皆で写真撮影

**「世界の壁は厚い。
でもそれを破っていくことが大事だ。
そのエネルギーを感じたんだから、
やるしかないだろう」**(堀内監督)

亜細亜大学国際オープンテニス2020
開催「延期」又は「中止」のお知らせ

去る2月26日、日本国内での新型コロナウィルス感染拡大防止に関して、日々変わる状況の中、令和2年3月1日(日)～8日(日)まで開催予定の「亜細亜大学国際オープンテニス2020」の開催「延期」又は「中止」が決定いたしました。

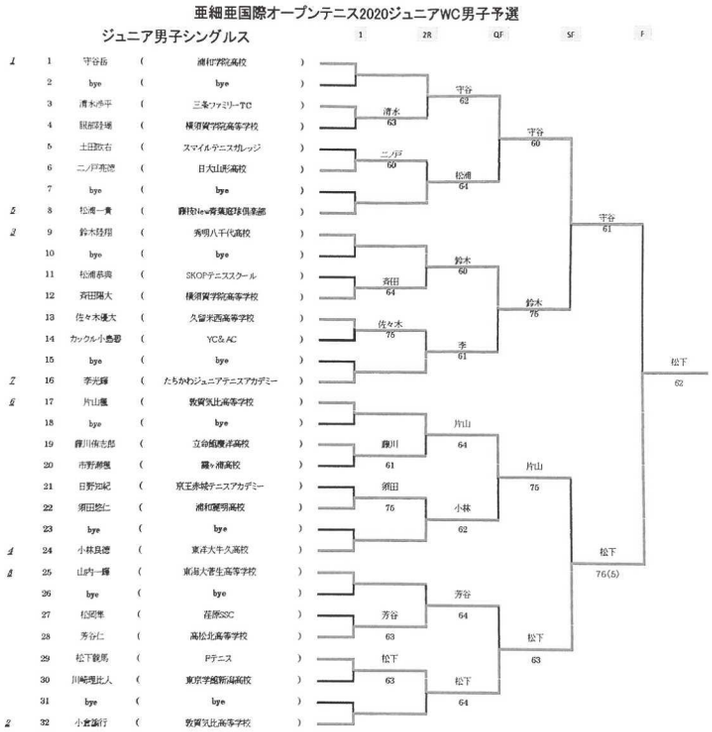
世界各国で感染拡大に拍車がかかる中、同日13:00に日本政府の感染症対策本部会合において「多数の方が集まる全国的なスポーツ、文化イベントに関し、大規模な感染リスクがあることを勘案し、今後2週間は中止、延期、または規模縮小の対応を要請する」と発表があり、本学の対策本部でも、様々な多人数が集まる式典やイベントに対しての「中止」が決定されました。
本学の施設内においての開催する本大会は、開催予定週での開催を「中止」。開催を前提に準備してまいりましたが苦渋の決断となりました。

それから3ヶ月弱が経とうとしている今、本大会の「延期」又は「中止」についての決定はそのまま。今後の国内外での感染の状況を注視し、感染が収まることを祈りつつ、本大会本部と国際テニス連盟（ITF）・日本テニス協会（JTA）・亜細亜大学と連携を取り、協議を重ねて決定していく予定としておりますが、現在ITF/ATP/WTAの大会も7月いっぱいの休止中。今後の方向性の見えないまま、今に至ります。なんとか開催に向けて活動をしていく予定ですが、数多くのハードルを越えていかなければならない状況です。

選手、関係各位の皆様には、多大なご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解の程よろしく申し上げます。

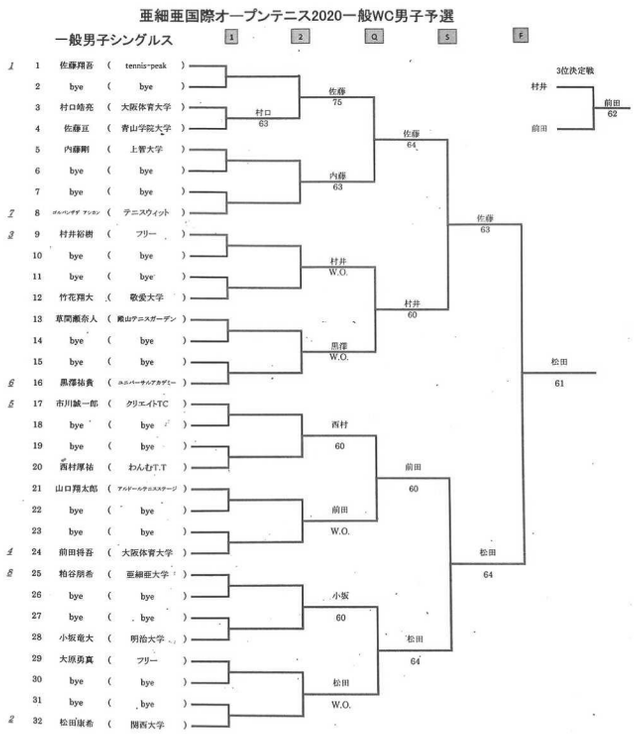
亜細亜大学国際オープンテニス2020
大会ディレクター　　森　稔詞

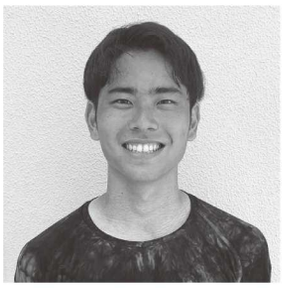
WC選考大会結果報告



●ジュニアWC
松下龍馬選手（Fテニス）

●学生WC
白藤成選手（慶應義塾大学）

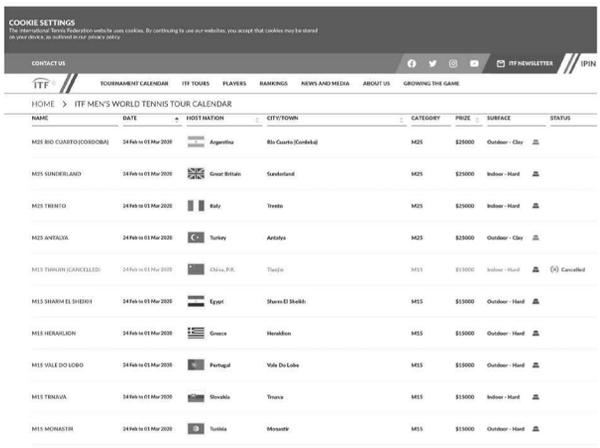




●一般WC
松田康希選手（関西大学）

亜細亜大学国際オープンテニス2020の本大会はコロナウイルスの影響で延期もしくは中止となってしまいましたが、コロナウイルスの影響が本格化する前にWC選考大会を行うことが出来ました。ジュニアWCを松下龍馬選手（Fテニス）、学生WCを白藤成選手（慶應義塾大学）、一般WCを松田康希選手（関西大学）が獲得致しました。

国際大会延期時の状況



COOKIE SETTINGS

The International Tennis Federation website uses cookies. By continuing to use our websites, you accept that cookies may be stored on your device, as outlined in our privacy policy

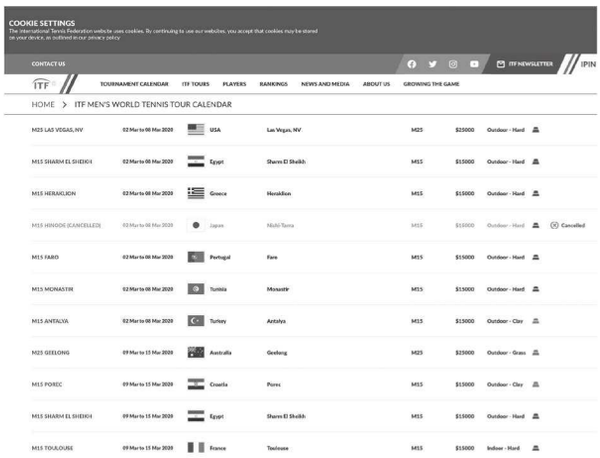
CONTACT US | ITF NEWSLETTER | IPIN

TOURNAMENT CALENDAR | ITF TOURS | PLAYERS | RANKINGS | NEWS AND MEDIA | ABOUT US | GROWING THE GAME

HOME > ITF MEN'S WORLD TENNIS TOUR CALENDAR

NAME	DATE	HOST NATION	CITY/TOWN	CATEGORY	PRIZE	SURFACE	STATUS
M25 RIO CUARTO (CORDOBA)	24 Feb to 01 Mar 2020	Argentina	Rio Cuarto (Cordoba)	M25	$25000	Outdoor - Clay	
M25 SUNDERLAND	24 Feb to 01 Mar 2020	Great Britain	Sunderland	M25	$25000	Indoor - Hard	
M25 TRENTO	24 Feb to 01 Mar 2020	Italy	Trento	M25	$25000	Indoor - Hard	
M25 ANTALYA	24 Feb to 01 Mar 2020	Turkey	Antalya	M25	$25000	Outdoor - Clay	
M15 TIANJIN (CANCELLED)	24 Feb to 01 Mar 2020	China, P.R.	Tianjin	M15	$15000	Indoor - Hard	Cancelled
M15 SHARM EL SHEIKH	24 Feb to 01 Mar 2020	Egypt	Sharm El Sheikh	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 HERAKLION	24 Feb to 01 Mar 2020	Greece	Heraklion	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 VALE DO LOBO	24 Feb to 01 Mar 2020	Portugal	Vale Do Lobo	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 TRNAVA	24 Feb to 01 Mar 2020	Slovakia	Trnava	M15	$15000	Indoor - Hard	
M15 MONASTIR	24 Feb to 01 Mar 2020	Tunisia	Monastir	M15	$15000	Outdoor - Hard	

新型コロナウイルスが世界的に流行し始めた2月下旬頃に中国の大会が中止となりました。



COOKIE SETTINGS

The International Tennis Federation website uses cookies. By continuing to use our websites, you accept that cookies may be stored on your device, as outlined in our privacy policy

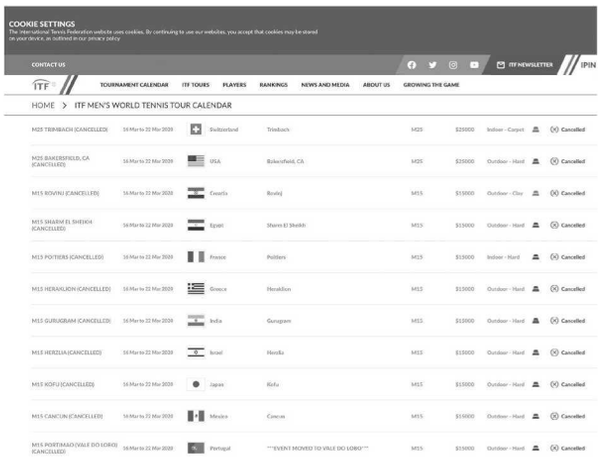
CONTACT US | ITF NEWSLETTER | IPIN

TOURNAMENT CALENDAR | ITF TOURS | PLAYERS | RANKINGS | NEWS AND MEDIA | ABOUT US | GROWING THE GAME

HOME > ITF MEN'S WORLD TENNIS TOUR CALENDAR

M25 LAS VEGAS, NV	02 Mar to 08 Mar 2020	USA	Las Vegas, NV	M25	$25000	Outdoor - Hard	
M15 SHARM EL SHEIKH	02 Mar to 08 Mar 2020	Egypt	Sharm El Sheikh	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 HERAKLION	02 Mar to 08 Mar 2020	Greece	Heraklion	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 HINODE (CANCELLED)	02 Mar to 08 Mar 2020	Japan	Nishi-Tama	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 FARO	02 Mar to 08 Mar 2020	Portugal	Faro	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 MONASTIR	02 Mar to 08 Mar 2020	Tunisia	Monastir	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 ANTALYA	02 Mar to 08 Mar 2020	Turkey	Antalya	M15	$15000	Outdoor - Clay	
M25 GEELONG	09 Mar to 15 Mar 2020	Australia	Geelong	M25	$25000	Outdoor - Grass	
M15 POREC	09 Mar to 15 Mar 2020	Croatia	Porec	M15	$15000	Outdoor - Clay	
M15 SHARM EL SHEIKH	09 Mar to 15 Mar 2020	Egypt	Sharm El Sheikh	M15	$15000	Outdoor - Hard	
M15 TOULOUSE	09 Mar to 15 Mar 2020	France	Toulouse	M15	$15000	Indoor - Hard	

3月上旬に開催予定だった亜細亜大学国際オープンテニス等の日本の大会が延期または中止となり、開催していた海外の大会も、感染拡大のため決勝まで行うことなく中断となりました。



COOKIE SETTINGS

The International Tennis Federation website uses cookies. By continuing to use our websites, you accept that cookies may be stored on your device, as outlined in our privacy policy

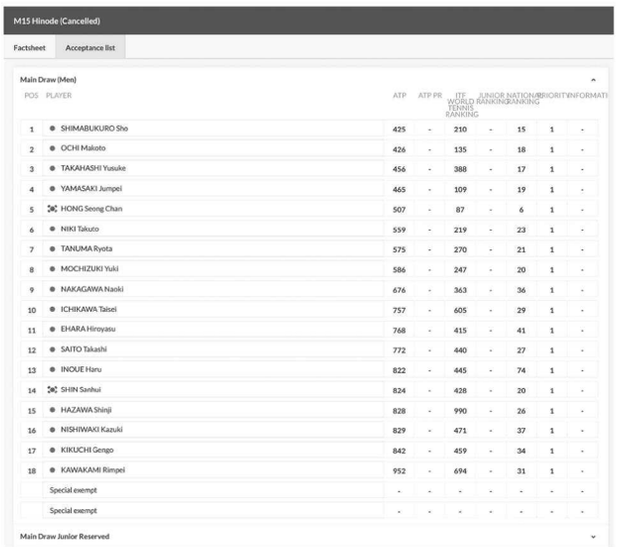
CONTACT US | ITF NEWSLETTER | IPIN

TOURNAMENT CALENDAR | ITF TOURS | PLAYERS | RANKINGS | NEWS AND MEDIA | ABOUT US | GROWING THE GAME

HOME > ITF MEN'S WORLD TENNIS TOUR CALENDAR

M25 TRIMBACH (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Switzerland	Trimbach	M25	$25000	Indoor - Carpet	Cancelled
M25 BAKERSFIELD, CA (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	USA	Bakersfield, CA	M25	$25000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 ROVINJ (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Croatia	Rovinj	M15	$15000	Outdoor - Clay	Cancelled
M15 SHARM EL SHEIKH (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Egypt	Sharm El Sheikh	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 POITIERS (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	France	Poitiers	M15	$15000	Indoor - Hard	Cancelled
M15 HERAKLION (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Greece	Heraklion	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 GURUGRAM (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	India	Gurugram	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 HERZLIA (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Israel	Herzlia	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 KOFU (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Japan	Kofu	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 CANCUN (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Mexico	Cancun	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled
M15 PORTIMAO (VALE DO LOBO) (CANCELLED)	16 Mar to 22 Mar 2020	Portugal	***EVENT MOVED TO VALE DO LOBO***	M15	$15000	Outdoor - Hard	Cancelled

3月下旬には世界中全ての大会が中止となり、フューチャーズ大会だけでなくテニスのツアー全体が延期となりました。



M15 Hinode (Cancelled)

Factsheet | Acceptance list

Main Draw (Men)

POS	PLAYER	ATP	ATP PR	ITF WORLD TENNIS RANKING		JUNIOR RANKING	NATIONAL RANKING	PRIORITY	INFORMATI
1	SHIMABUKURO Sho	425	-	210	-	15	1	-	
2	OCHI Makoto	426	-	135	-	18	1	-	
3	TAKAHASHI Yusuke	456	-	388	-	17	1	-	
4	YAMASAKI Jumpei	465	-	109	-	19	1	-	
5	HONG Seong Chan	507	-	87	-	6	1	-	
6	NIKI Takuto	559	-	219	-	23	1	-	
7	TANUMA Ryota	575	-	270	-	21	1	-	
8	MOCHIZUKI Yuki	586	-	247	-	20	1	-	
9	NAKAGAWA Naoki	676	-	363	-	36	1	-	
10	ICHIKAWA Taisei	757	-	605	-	29	1	-	
11	EHARA Hiroyasu	768	-	415	-	41	1	-	
12	SAITO Takashi	772	-	440	-	27	1	-	
13	INOUE Haru	822	-	445	-	74	1	-	
14	SHIN Sanhui	824	-	428	-	20	1	-	
15	HAZAWA Shinji	828	-	990	-	26	1	-	
16	NISHIWAKI Kazuki	829	-	471	-	37	1	-	
17	KIKUCHI Gengo	842	-	459	-	34	1	-	
18	KAWAKAMI Rimpei	952	-	694	-	31	1	-	
	Special exempt	-	-	-	-	-	-	-	
	Special exempt	-	-	-	-	-	-	-	

Main Draw Junior Reserved

大会が延期または中止となる直前のエントリーリストです。ほとんどの海外選手がウィズドローをしていて、国内の選手が多くの割合を占めています。

＜春の国内国際大会中止＞

2020/3/2～8　●亜細亜大学国際オープンテニス2020
2020/3/9～15　●三菱電機・早稲田大学
　インターナショナルテニスオープン2020
2020/3/16～22　●甲府国際オープンテニス
2020/3/23～29　●筑波大学MEIKEIオープンテニス
2020/3/30～4/5　●かしわ国際オープンテニストーナメント

亜細亜大学
国際オープンテニス2021
開催に向けて

亜細亜大学国際オープンテニス2020は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。亜細亜大学国際オープンテニス2021は来年3月に開催予定です。只今協賛して頂けるスポンサーを募集しております。本来であれば大会開催の為に一般の方へ向けたクリニックやジュニア大会開催等と言った資金調達の活動を年間20回ほど行なっているのですが、どれも新型コロナウイルスの影響で開催することが出来ませんでした。しかし、私達は来年この大会を開催するために活動を続けております。

大会についての詳細は下のQRコードの亜細亜大学テニス部のホームページよりご覧頂けます。

2007年亜細亜大学国際オープンテニス・総括

日の出に世界がやってきた。

文◎武田 薫　記事提供◎テニスマガジン（2007年6月号）

思い出せば、けっこう不思議な光景だった――。

東京の西の最果、武蔵野の面影残る日の出町は土砂降りの日曜。上がった雨が、また泣き出しそうな黄昏どきだ。ジャージ姿の学生たちがコートサイドに集まり、そこから女子大生の肩を抱いた中尾彬が転がるように現れた。女子大生は泣きじゃくり、中尾も大粒の 涙。学生たちは胴上げとか笑いながら、いや、泣いている者もいた……。

よく見ると、中尾彬ではなく“ホッチ”こと亜細亜大学硬式テニス部の堀内昌一監督、よく見れば、英文の横断幕がネットに揺れている。〈F1亜細亜大学国際オープンテニス2007〉――3月から展開された男子テニスのフューチャーズ5大会、その幕開け、F1亜細亜が終わったところ。監督と女子学生が涙する昭和の卒業式のような光景は、彼らにしかわからない物語だった。しかし、彼らだけの物語ではなかった。

フューチャーズは、ATPツアーのもっとも下位の大会である。本戦で1勝して1ポイント、優勝すれば12ポイント獲得できる。F1亜細亜は本戦32ドローに予選は64ドロー、さらに予選のワイルドカード8本のうち4本を公開して予備予選（32ドロー）を行なっている。8勝してやっと1ポイントを手にする勘定になる。

1ポイントで念願の世界ランク1518位タイ、ざっと500人の名前が並んでいる。四大大会の予選カットは250位前後で、最低150ポイントは必要だ。ロジャー・フェデラーの7715ポイントは、なんと遥かなるアラモだろう。

「学生たちにランキングを持つチャンスを与え、学生テニスも世界と結びついていることを再確認したい」というのがフューチャーズ主催に名乗を上げた理由だが、堀内監督の思惑はそこだけに止まらない。

日本には、以前からこうした大会は存在した。堀内監督も日本体育大学で活躍していた80年代前半、メーカーなどが主催して春季サーキットが開かれ、ジャパンオープン（現・楽天オープン）もそうした流れから誕生している。90年代にもサテライトが開かれたものの、辛うじて鈴木貴男をグランドスラムに送り出したくらいの成果しかなかった。

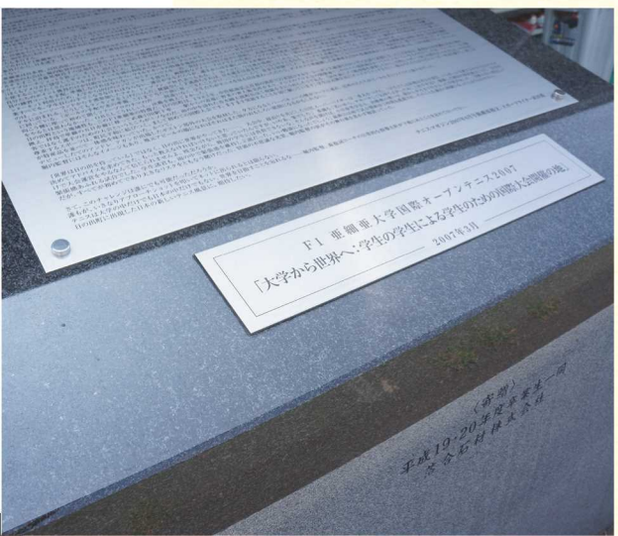
フューチャーズの登場でポイントが取りやすくなるとはいえ、世界と結びつけば近隣の強敵たちも来日する。終わってみればF1亜細亜では、ベテラン茶圓鉄也の8ポイントを筆頭に近藤大生が2、ほかに6選手が1ポイント獲得し、学生は杉田祐一（早稲田大・三菱電機）と亜大の新1年生・篠川智大がゲット。

杉田は〈学生〉の対象外だから、日本選手、まして学生のポイント獲得が難しいことには変わりがないのだ。ただ、これは想定内だった。テニスはやって楽しく、見て楽しい。読んで楽しい人は少なく、運営の楽しさを知った人も多くない。F1亜細亜は日本初、川廷尚弘スーパーバイザーによればアジア初の学生の自主運営による大会だった。

学生運営の大会は、堀内監督の20年来の夢だったという。早稲田大学との絡みでその機が巡ってきた。この秋、早稲田大は創立125周年を迎え、大々的に記念行事が行なわれる。杉田や卓球の福原愛の部外入学、ハンカチ王子こと斉藤祐樹投手の話題づくりとともに、早稲田大庭球部のフューチャーズ開催も記念行事活動と連動している。この動きを見て、単独では名乗りを上げられなかった亜細亜大が、千載一遇のチャンスとばかりアプローチショットを放って、ネットに出たのである。

「僕もアメリカに留学してサテライトを回りました。大会は手づくりの素朴なものでした。これまでの日本のフューチャーズも、みなさんが一生懸命手伝って温かい大会になりましたが、それを学生にやらせたかった。人と接することでたくさんのことを学び、テニスを別の角度から見ることで、テニスがもっと面白く、好きになれるはず」

平成19･20年卒業生がこの石碑を部室の前に立ててくれた。F1亜細亜大学国際オープンテニス2007開催を記念して、ここに紹介したテニスマガジン掲載記事と『大学から世界へ～学生の学生による学生のための国際大会開催の地』という文字が彫られている



自分たちのポイント獲得だけが目的ではないから、ワイルドカードの特権を他校の学生にもジュニアにも分けている。

予選には、内外から107人のプレーヤーが日の出町までサインアップにきた。55人の部員は選手全員の練習コートを手配、準備しなければならない。セミナーハウスを一泊二食付3000円で宿舎に開放し、近郊の昭島や八王子に滞在した選手の送迎の世話、洗濯の案内、自転車のレンタル、ツアープロの命綱・インターネット利用のため、大学から10台のコンピューターを借りた。画期的なデイリープログラムの作成にブログの逐次更新。国際大会だから英語表記あり……。予算は限られていたから、試合進行とこうした周辺作業すべてを、学生自らの手でこなさなければならない。

運営が学生だろうが、選手からは手厳しい注文が飛び込んでくる。

「使わなかったボールは練習で使うから、返さないよ。練習ボールと質が違う」と言い張ったのは、ニュージーランドから予選参加したアダム・トンプソン、デ杯代表でもある。

「一応プロだ。いまは親が援助してくれる。もう24歳だから精神的にきつくてね。ホテルは一泊80ドルだぜ。 ニュージーランドならヒルトンホテルに泊まれる。どうしてもランキングを上げたいんだ」

健闘空しく予選落ちすれば、日本選手は恵まれているとヤケにもなる。シングルス本戦のWCをもらった大塚真之助は、1回戦敗退と同時に賞金・会計担当補佐に回っている。

「ボールの手配や水の準備、これまで当たり前に思ってきたことがけっこうたいへんで、貴重な経験でした」

あとから「何度計算しても5000円少なくて」と電話が入り、慌てたこともあった。デスクの向こう側に座って初めて聞くツアープロのナマの声——間違いなく、学生たちがテニスを見る目は変わっただろう。

ダブルスで準優勝した亜細亜大OBの佐藤博康がこんな感想を話した。

「日の出町でフューチャーズをやるとは思わなかった。OBとしてうれしいし、決勝を戦えてよかった」

日の出町という地域性も、このF1亜細亜の特徴だ。

日の出町は、1983年、中曽根康弘元首相の別荘での米国ロナルド・レーガン大統領とのロンヤス会談で話題になったことがある。新宿から中央線の立川で乗り換え、拝島で単線の五日市線に移って武蔵引田駅下車——駅からの道端に野菜の無人販売所があり、テニスのプロ大会の開催地でこれほどの遠隔地はかつての八ヶ岳くらいなものだろう。だが、フューチャーズは観客ではなく選手のための大会というところがミソなのだ。雨の中を訪れた青木國太郎町長はご祝儀を手にうれしそうである。

「26年前にゴミ焼却場を誘致してから、自然とスポーツがこの町のテーマでした。モラルを尊重するスポーツは、町民平和に結びつく。まして初めての国際大会です。ますます発展することを切に願っています」

学生は近隣住民にテニスクリニックを行い、地元の人たちはうどんコーナーを切り盛りし、商工会が特産品を並べて一体感を味わっていた。

かつて、デビューしたてのアンドレ・アガシが出場したボストン郊外の大会を取材した。夕方になるとバーベキューの煙がコートに流れ、近所の人たちがビール片手にワイワイと賑やかだった。堀内監督にはそんなイメージもあり、地元アピールの場になればそれはまた別のおもしろい展開になるかもしれない。

『世界は日の出を待っている』ではなく、日の出に世界がやってきた……。

大会中、寝泊りをともにした川廷スーパーバイザーは二重丸をつけた。

「学生たちは毎晩反省会を開き、いつボール交換するかなど自分たちで決めてアドバイスを求めてきた。もっと教えなければいけないと思っていたんですが、いやあ、楽でした」

茶圓も「若いから、テキパキして気持ちよかったね」と拍手を送り、優勝した韓国の林奎泰はこうだ。

「学生だけで大会運営をやるなんて信じられませんよ。残念ながら、韓国の学生には真似できないな」

そんな声を聞けば、小川春男学長も、決勝戦の寒い中、朝から夕方まで付き合った甲斐があった。

「国際大会に相応しい緊張感あふれる試合でした。学生諸君も、雨の中で緊張感を維持し立派だった。いい勉強になったでしょう」

最終日は雨で試合開始が5時間も延期され、そのことも運営の経験になったと言うはたやすい。だが、すべてが初めてであり大きなリスクをともなう賭けだった。冒頭の不思議な光景、堀内監督の涙がその舞台裏を思わず物語っていた。

さて、このチャレンジは誰にでも可能だっただろうか。誰もが、いきなりアプローチショットを叩いてネットに出られるとは限らない。

テニスは大学の中だけでも日本の中だけでもない、世界を目指すことを忘れるな——堀内監督、森稔詞コーチの日常的な指導方針が下地にあることを忘れてはいけない。日の出町に出現した日本の新しいテニス風景に、期待したい。

『2007亜細亜大学国際オープンテニス』ダブルス決勝のあと、大会スタッフとして働いたテニス部員も加わり、入賞選手を囲んで記念撮影。中央にいる2ペアが優勝、準優勝ペア。右の2人が、惜しくも準優勝だった亜細亜大学OBの佐藤博康とそのパートナーの李明

2020ご協賛いただきました企業・団体・個人の皆様

【　企業・団体の皆様】

ブリヂストンスポーツ株式会社 〒105-6128港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル	東急建設株式会社 〒150-8340渋谷区渋谷1-16-14 渋谷地下鉄ビル	ダイドードリンコ株式会社 〒108-0023港区芝浦4-2-8 住友不動産三田ツインビル東館4F	ミズノ株式会社 〒101-8477千代田区 神田小川町3-22
株式会社テニスユニバース 〒183-012調布市押立町2-15-18	株式会社ロイヤル・アーツ 〒153-0042目黒区青葉台2-16-11	株式会社レック興発 〒151-0053渋谷区代々木2-29-15 キクスイ南新宿ビル1階	合資会社アオヤマ 〒430-0932静岡県浜松市中区肴町316-2
ノアインドアステージ株式会社 〒672-8014兵庫県姫路市東山524	テニスステーション武蔵野 〒180-0022武蔵野市境2-3-1　2階	角辻医院 〒569-1142大阪府高槻市宮田町2-16-14	グリーンテニスプラザ 〒334-0057川口市安行原1646
株式会社TTS	NPO法人 テニスネットワーク 〒181-0003三鷹市北野4-1-25	岐阜県テニス協会	関東学生テニス連盟 部長監督会 〒101-0052千代田区 神田小川町3-6-9 神田第2アメレックスビル7階

【個人・卒業生の皆様】

丸善　宮原文雄	羽根田秀明	豊田昭彦	塩野谷明

上記に掲載いたしました企業、団体、個人、卒業生の皆様から、国際大会運営にご協賛をいただきました。皆様からのご厚意に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。
大変失礼ながら、誌面の都合上、敬称を略させていただきました。ご容赦ください。

亜細亜大学国際オープンテニス大会事務局

あなたも
サポーター

亜細亜大学国際オープンテニス
チャリティーテニスクリニックにご参加ください!

このクリニックの収益はすべて国際大会運営費に充てられます。
よってクリニック参加のみなさまは
大会サポーターであるとともに亜細亜大学テニス部のサポーターでもあります!

“テクニカルシリーズ”開講中!

2007年にスタートした『亜細亜大学国際テニス大会〜チャリティーテニスクリニック“テクニカルシリーズ”』は、これまでに年間およそ20回、2020年現在までを数えるとおよそ200回ほど開催してまいりました。

クリニック開催の目的は大きく分けて２つあります。ひとつはテニス部員と一般プレーヤーのみなさまとの交流機会を増やしたいということ。そしてもうひとつは、このクリニックでいただく参加費を『亜細亜大学国際テニス大会』の大会運営費用に充て、みなさま方ひとりひとりに大会サポーターとなっていただき、さらには、亜細亜大学テニス部のサポーターになって、応援していただきたいという思いがあります。

クリニックの講師は、テニス部の堀内昌一監督、森稔詞コーチ、長久保大樹コーチのいずれかが務め、現役部員がサポートして、各回テーマに沿ったていねいな指導を心掛けています。もう一段階向上したいとお考えのテニスプレーヤーのみなさまに対して、期待に応える内容をご提供したいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

亜細亜大学テニス部一同

テーマは“テクニカルシリーズ”として細かく設定

例 サービス編｜レシーブ編｜ストローク編｜ボレー編｜プライベート編 など

情報およびお申し込み方法は、随時ブログに更新中!
亜細亜大学テニス部ブログ—EVER UPWARD!（意味は「限りなく向上せよ」）

http://www.asia-tennis.com/sns/index.html

亜細亜大学国際テニス大会チャリティークリニック

参加者を代表して

下田 敏雅さん

亜細亜大学テニス部との出会いで、テニスの面白さを実感出来、また改めて継続していきたいと感じました。

亜細亜大学庭球部関係者各位殿

この度は、テニスクリニックの感想の御依頼、御指名頂きまして誠に有難うございます。
私は、文才は御座いませんが少しでもクリニックの体験の良さをお伝え出来ればと思っております。

まず、参加の切っ掛けは、他所で堀内監督・森コーチにテニスの御指導を受ける機会が有り、亜細亜大学でもクリニックをされておられる事を知り、幾度も参加させて頂くようになりました。

次にクリニックの感想です。

私にとって最初の収穫は、テニスエルボーになりかけた時、クリニックに参加したことで、体の機能的な使い方を教わり、大きな故障を未然に回避しテニスが出来た事です。テニス仲間は、現在テニス肘で痛みと戦っております。おかげさまで私は痛みとは現在無縁です。

次の収穫は、今更ですが再度基本を教わったことにより、少しづつ試合でのラリーが安定してきました。各上の対戦相手に対して以前は不安を抱いておりましたが、勝敗は別にしてミスが少なくなりゲームが少し楽しめるようになりました。現在下部ですが、実業団の対抗試合に出場させて頂き、団体戦なので特に勝ちを意識しますが、ベースになる球が安定的に打てるようになってから、戦術戦略を考えられるようになりました。勝ち進めるのは大変嬉しいです。

次の収穫ですが、クリニック参加で御指導頂く学生さんやテニスを上達したいと志が同じ他のクリニック生の方々と多くお知り合いになれた事です。知り合いになった学生さんが学生の大会で御活躍されている試合を観に行きますと、試合のテクニックや応援が自分にとってとても参考になり、実業団の試合にも生かせます。また、他のクリニック生様とは、志が同じせいか意外と悩みが共通なので、第三者的立場から悩みを理解でき、自分の弱点の改善に役立ちました。

最後の収穫ですが、クリニックの参加費用が、フューチャーズの大会に充てられ開催されますので、プロ選手の試合やテクニックが大学のコートで間近で観戦出来ます。また、プロ選手と知り合える切っ掛けが有り、その選手が他の大会でも御活躍されますと、何か訳もなく大変嬉しいです。有明コロシアムでお会い出来ますと、声を掛けずにいられません。

このような素晴らしい機会をお与え下さいまして大変感謝しております。

堀内監督・森コーチ・宮崎プロ

今後とも末永く、このクリニックを継続されることを切に願っております。

小原 崇さん

熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しくてしょうがないのです。

チャリティークリニックのことを知ったのは2012年にテニスマガジン主催で行われた秩父での「大練習会」に参加した際でした。堀内監督や森コーチのクリニックが行われたこともあり亜細亜大学のテニス部の皆さんが手伝いで参加されていたのですが、接するテニス部の皆さんが非常に丁寧かつ熱心で感心したのを覚えています。以降、チャリティークリニックには都合が合う限り参加させていただくという形で今に至っています。

自宅は横浜で日の出のコートまでは片道2時間ほどかかるためクリニックへの参加はほぼ半日作業となります。夫婦でテニスをしているため二人で3時間のクリニックを受けるために4時間かけて通っていることになり、周囲にその話をすると首を傾げられることが多いのですが私たち夫婦はその価値が十分にあると考えています。そこで、ここでは一参加者として私たちが感じているクリニックの価値を述べさせていただきます。

1.指導者(監督、コーチ)の説明が
分かりやすく、実行しやすい

夫婦そろって30過ぎてからテニスを始めこともありある程度理論的に説明してもらえないとなかなか実行できないことが多いのですが、説明が非常にわかりやすく納得して取り組むことが出来ます。また、個別へのアドバイスが非常に適切ですぐに成果が出ることが多いです。この辺りは多種多様な部員を一人前の選手になるように指導してきた経験が大きくものを言っているように感じます。

2.テニス部の皆さんが熱心で
接していて心地よい

クリニックでは生徒2〜3人に一人といった割合でテニス部の皆さんが指導についてしっかりこちらのプレーを見てサポートしてくれる体制になっています。テニス愛好家という立場でこのレベルのプレーヤーがマンツーマンに近い形で見てくれるという環境はなかなか無いと思います。

また、教える事の上手い下手といった個人差は当然ありますが皆さん非常に熱心でなんとか上手くなって欲しいという熱意が伝わってきますので自ずとこちらもその思いに答えたいという気持ちがわいてきてモチベーションが高まります。

3.日本テニスの発展に
多少なりとも貢献できる

チャリティークリニックの収益は毎年3月に亜細亜大学で行われるフューチャーズ大会の開催資金に充てられます。錦織圭選手らの活躍でグランドスラムなどでの大会の注目度が高まってきていますが、ほとんどのプロテニス選手はまずフューチャーズ大会でポイントを稼ぐことによってさらに上のレベルにチャレンジしていきます。この登竜門であるフューチャーズ大会はアメリカやヨーロッパではほぼ毎週のようにどこかで開催されていますが日本では数が少なくプロとして活躍する最初の時点で日本の選手はハンデを抱えていると言えます。そういう意味でも亜細亜大学などで春先に開催されるフューチャーズのシリーズは日本人選手にとって非常に重要な位置づけとなっています。チャリティークリニックに参加することでフューチャーズ大会の開催に協力できるという事は日本テニスの発展に多少なりとも貢献できるということにつながると言えると思います。テニスを教えてもらう上に日本のテニスにも貢献できるなんてなんて素晴らしいことでしょう!

これから出てくる若いプレーヤーのためにもフューチャーズ大会は続けて欲しいですし、そのための協力は続けたいと思っています。ただ、そういうのを抜きにしても素晴らしい指導者の教えを請いながら熱心に取り組んでくれるテニス部の皆さんとテニスをするのが楽しくて楽しくてしょうがないのです。夫婦してこれからも片道2時間の道のりを通い続けるつもりですので今後ともよろしくお願いいたします。

亜細亜大学国際オープンテニス2021

F1 Asia University International Open Tennis

大会要項（予定）

日程

予選	2021年3月上旬	シングルス	48名
本戦	2021年3月上旬	シングルス	32名
		ダブルス	16組

賞金ブレークダウン US$15,000

試合方法 ●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレーク採用)
会場 ●亜細亜大学 日の出キャンパス テニスコート（ハードコート8面）
〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-588-5817 FAX042-588-5817

■男子		優勝
第1回	シングルス	イム・キューテ（韓国）
	ダブルス	ユ/ザン（中国）
第2回	シングルス	伊藤竜馬（ミキプルーン）
	ダブルス	近藤/佐藤（アイシン精機/フリー）
第3回	シングルス	イ・チュハン（台湾）
	ダブルス	佐藤/イ（フリー/台湾）
第4回	シングルス	井藤祐一（空旅ドットコム）
	ダブルス	佐藤/イ（橋本総業/台湾）
第5回	東日本大震災のため中止	
第6回	シングルス	内山靖崇（北日本物産）
	ダブルス	近藤/イ（アイシン精機/台湾）
第7回	シングルス	近藤大生（アイシン精機）
	ダブルス	関口/エイドリアン（三菱電機/スロバキア）
第8回	シングルス	ディ・ウ（中国）
	ダブルス	松井/小ノ澤（ライフ・エヌ・ピー/北日本物産）
第9回	シングルス	仁木拓人（三菱電機）
	ダブルス	吉備/仁木（ノア・インドアステージ/三菱電機）
第10回	シングルス	ハン・リャン・チー(台湾)
	ダブルス	吉備/松井（ノア・インドアステージ/ASIA PARTNERSHIP FUND）
第11回	シングルス	高橋悠介（フリー）
	ダブルス	長尾/奥（エキスパートシズオカ）
第12回	シングルス	ヌーゲン・ダニエル（アメリカ）
	ダブルス	仁木/今井（三菱電機/イカイ）
第13回	シングルス	今井慎太郎（イカイ）
	ダブルス	仁木/今井（三菱電機/イカイ）
第14回	新型コロナウィルス感染拡大に伴い開催中止	

■女子		優勝
第1回	シングルス	米村明子（島津製作所）
	ダブルス	穂積/手塚（フリー/ミキハウス）
第2回	シングルス	ユ・ミ（韓国）
	ダブルス	ハン/カン（韓国）
第3回	シングルス	井上雅（テニスラウンジ）
	ダブルス	波形/米村（北日本物産/島津製作所）
第4回	シングルス	スー・チー・ウェン（台湾）
	ダブルス	岡村/米村（橋本総業/島津製作所）
第5回	シングルス	フレッチ・マグダレナ（ポーランド）
	ダブルス	梶谷/宮原（早稲田大学/TEAM 自由が丘）
第6回	シングルス	セクリッチ・サラ・レベッカ（ドイツ）
	ダブルス	小堀/高畑（橋本総業）
第7回	シングルス	リー・ソ・ラ（韓国）
	ダブルス	リー/キム（韓国）
第8回	シングルス	ダリア・ロパテスカ（ウクライナ）
	ダブルス	米原/荒川（明治安田生命/プロ・フリー）

詳細は…

国際テニス連盟（ITF） http://www.itftennis.com/procircuit/
日本テニス協会（JTA） http://www.jta-tennis.or.jp/
亜細亜大学テニス部公式サイト http://www.asia-tennis.com

※2020年8月現在の予定。大会開催時期は申請予定です。